原遺跡第一次の調査

－福岡市早良区大字原字談儀
㈱ダイエー原店用地の調査－

福岡市埋蔵文化財調査報告書第492集

1 9 9 6
福岡市教育委員会
原・談儀遺跡調査会

原遺跡第一次の調査

－福岡市早良区大字原字談儀－

1 9 9 6
福岡市教育委員会
原・談儀遺跡調査会

本文目次

1．調査経過と組織……11

2．遺跡の立地と環境……11

3．遺構の概要……14

4．各地点の調査

(1) 第Ⅰ地点の調査……16

(2) 第Ⅱ・Ⅳ地点の調査……20

① 調査の概要……22

② 出土遺物……24

(3) 第Ⅲ地点の調査……31

① 調査概要……34

② 出土遺物……34

(4) 第Ⅴ地点の調査

① 調査の概要……66

② 出土遺物……66

5．小結……74

挿図目次

Fig. 1　周辺の遺跡……12
Fig. 1'　原遺跡現況……13
Fig. 2　調査地点配置図（1/1000）……15
Fig. 3　調査協力者……14
Fig. 4　第Ⅰ地点平面図と北壁土層図（縮尺1/100）……16
Fig. 5　第Ⅰ地点出土土器実測図（縮尺1／5）……17
Fig. 6　第Ⅰ地点出土土器実測図（縮尺1／5）……17
Fig. 7　第Ⅰ地点調査遠景……17
Fig. 8　第Ⅰ地点出土土器……17
Fig. 9　第Ⅱ地点平面図と土層図（縮尺1/100）……21
Fig.10　第Ⅱ地点遠景（中央右井戸状遺構）……22
Fig.11　杭の位置と土器の位置……23
Fig.12　夜臼式土器出土状況……25
Fig.13　夜臼式土器出土状況……25
Fig.14　夜臼式土器に伴う土器と杭……26
Fig.15　甕形土器出土状況……26
Fig.16　夜臼式土器拓影図（縮尺1／4）……27
Fig.17　夜臼式土器拓影図（縮尺1／4）……27
Fig.18　第Ⅱ・Ⅳ地点出土遺物実測図（1／5）……28
Fig.19　第Ⅱ地点出土遺物……28
Fig.20　第Ⅲ地点平面図と土層図（縮尺1/100）……32
Fig.21　第Ⅲ地点杭列側面見通し図（縮尺1/100）……33
Fig.22　B－5区杭列と桶……33
Fig.23　B－5・6区の杭列……33
Fig.24　C－5の杭列……33
Fig.25　第Ⅱ地点出土土器実測図（縮尺1／5）……35
Fig.26　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺1／5）……35
Fig.27　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺1／5）……36
Fig.28　第Ⅲ地点出土土器（縮尺1／5）……36
Fig.29　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺1／5）……37
Fig.30　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺1／5）……37
Fig.31　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺1／5）……40
Fig.32　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺1／5）……40
Fig.33　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺1／5）……41
Fig.34　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺1／5）……41
Fig.35　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺1／5）……42
Fig.36　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺1／5）……42

Fig.37　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺１／４）……43
Fig.38　第Ⅲ地点杭列と桶……43
Fig.39　第Ⅲ地点杭列出土状況（南から）……43
Fig.40　第Ⅲ地点杭列出土状況（北から）……43
Fig.41　第Ⅲ地点出土土器……44
Fig.42　第Ⅲ地点出土土器……44
Fig.43　第Ⅲ地点出土土器……45
Fig.44　第Ⅲ地点出土土器……45
Fig.45　第Ⅲ地点出土土器……46
Fig.46　第Ⅲ地点出土土器……46
Fig.47　第Ⅱ・Ⅲ地点出土杭（縮尺１／５）……47
Fig.48　第Ⅲ地点出土木器実測図（縮尺１／10）……47
Fig.49　第Ⅱ・Ⅲ地点出土木器実測図（縮尺１／10）……48
Fig.50　第Ⅲ・Ⅳ地点出土木器実測図（縮尺１／５）……48
Fig.51　第Ⅲ地点出土木器……49
Fig.52　第Ⅱ・Ⅲ地点出土木器……49
Fig.53　第Ⅲ地点出土木器……49
Fig.54　第Ⅲ地点遺物出土状況……63
Fig.55　第Ⅲ地点遺物出土状況……63
Fig.56　第Ⅲ地点遺物出土状況……63
Fig.57　第Ⅲ地点木器出土状況……64
Fig.58　第Ⅴ地点平面図と土層図（縮尺１/100）……67
Fig.59　第Ⅴ地点遠景……68
Fig.60　第Ⅴ地点遠景……68
Fig.61　第Ⅴ地点出土遺物実測図（縮尺１／４）……69
Fig.62　第Ⅴ地点出土土器……68
Fig.63　出土石器実測図（縮尺１／２）……70
Fig.64　出土石器……73

表目次

Tab.1　第Ⅰ地点出土土器観察表……18
Tab.2　第Ⅱ・Ⅳ地点出土土器観察表……29
Tab.3　第Ⅲ地点出土土器観察表……38
Tab.4　第Ⅲ地点出土土器観察表……50
Tab.5　第Ⅲ地点出土木器計測表……62
Tab.6　第Ⅴ地点出土遺物観察表……71
Tab.7　出土石器計測表……73

序　　文

ここに原遺跡の第一次調査の報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

本調査が行なわれたのが、昭和51（1976）年でありました。

この地に株式会社ダイエー様が大型店舗原店を建設されるにあたり、その事前の策として、埋蔵文化財の発掘調査が行なわれた訳であります。

当初、福岡市教育委員会に発掘調査の要請があった訳でありますが、市教委としましては、新幹線の博多開業等に伴う様々な都市基盤整備事業の対応で精一杯な時期で、民間の開発事業をお手伝いする調査体制は整っていませんでした。

そのような事情で文化庁、福岡県のご指導で、大学で教鞭を執っておられた松浦宥一郎先生にご足労戴き、調査会を組織した訳であります。

遺跡は大変貴重な発見を提供してくれました。縄文時代最終末期である夜臼式土器に稲作水田を想わせる杭列や、井戸それに脱穀用の杵など、当時としては目を見張らせる新発見がありました。

本市では、国民共有の財産である文化財の保護は行政の責務と考え文化財保護行政の発展的継続を旨として努力しており、現在では、民間開発事業の対応も行えるようになりました。これも一重に関係各位のご理解の賜と感謝申し上げますとともに、今後猶一層、文化財保護行政の発展をめざしてまいりたいと思います。

末尾でありますが、本調査に暖い手を差し延べて戴いた関係各位に感謝申し上げご挨拶といたします。

平成８年３月31日

福岡市教育長　尾　花　　剛

例　　言

1．本報告書は、福岡市教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書第492集である。

2．本報告書は原遺跡群第一次調査の発掘調査報告である。

3．本遺跡の記号を「ＨＡＡ－１」とする。

4．本遺跡の調査番号を「７５０５」とする。

5．福岡市文化財分布地図における登載記号は「082－Ａ－２」である。

6．調査年月日は昭和51年（1976）年７月から同年９月までである。

7．調査面積は、3,584平方メートルである。

8．本報告書の編集は、松浦宥一郎の指導を仰ぎ、折尾学、石川むつみ（和田）が行なった。

9．本報告の図版、表等の作成は、石川むつみ、武藤和子、坪多正裕、千田利明、明治大学学生、桐朋学園大学生が行なった。

10．本報告書に関係する資料は福岡市埋蔵文化財センターにて保管している。

1．調査経過と組織

本地点の埋蔵文化財の有無に関する調査依頼は昭和50年にメッセ㈱より福岡市教育委員会にあった。メッセ㈱は株ダイエーより委託を受けた建築設計会社である。市教委は調査依頼より余り間を置かず試掘を実施した。

試掘の結果、台地部分に若干中世集落の痕跡が在ること、台地周辺は弥生時代の低湿地で遺物を良好な状態で包蔵している事が分った。

メッセ㈱は、市教委に本地点の発掘調査を強く要請した。市教委としては公共事業に伴う発掘調査の対応に追われ、民間開発事業まで行う体制の余力はなかった。文化庁、福岡県教育委員会の指導は、学識者を長とする調査会を設立する事が緊急措置として望ましいというものであった。

調査会は当時、桐朋学園大学講師としてご活躍の松浦宥一郎氏に会長に就任して頂き、副会長に明治大学考古学研究室の杉原荘介教授のご承認を戴いた大学院在学中の和田むつみ氏（現在石川）を、主任に市教委の折尾学をあてることで設け、発掘調査を受託する事とした。

調査は昭和51年の大学の夏休みを利用して行ない、後述詳細の結果を得るのである。

原・談儀遺跡（原遺跡群第一次）調査会

委 託 者－メッセ株式会社

受 託 者－原・談儀遺跡調査会

協　　力－福岡市教育委員会

調査組織－会　長　松浦宥一郎

副会長　和田むつみ（現在石川）

主　任　折尾　学

調査員　態谷隆子、本田光子、武藤和子、広田由美子、千田利明、坪田正裕

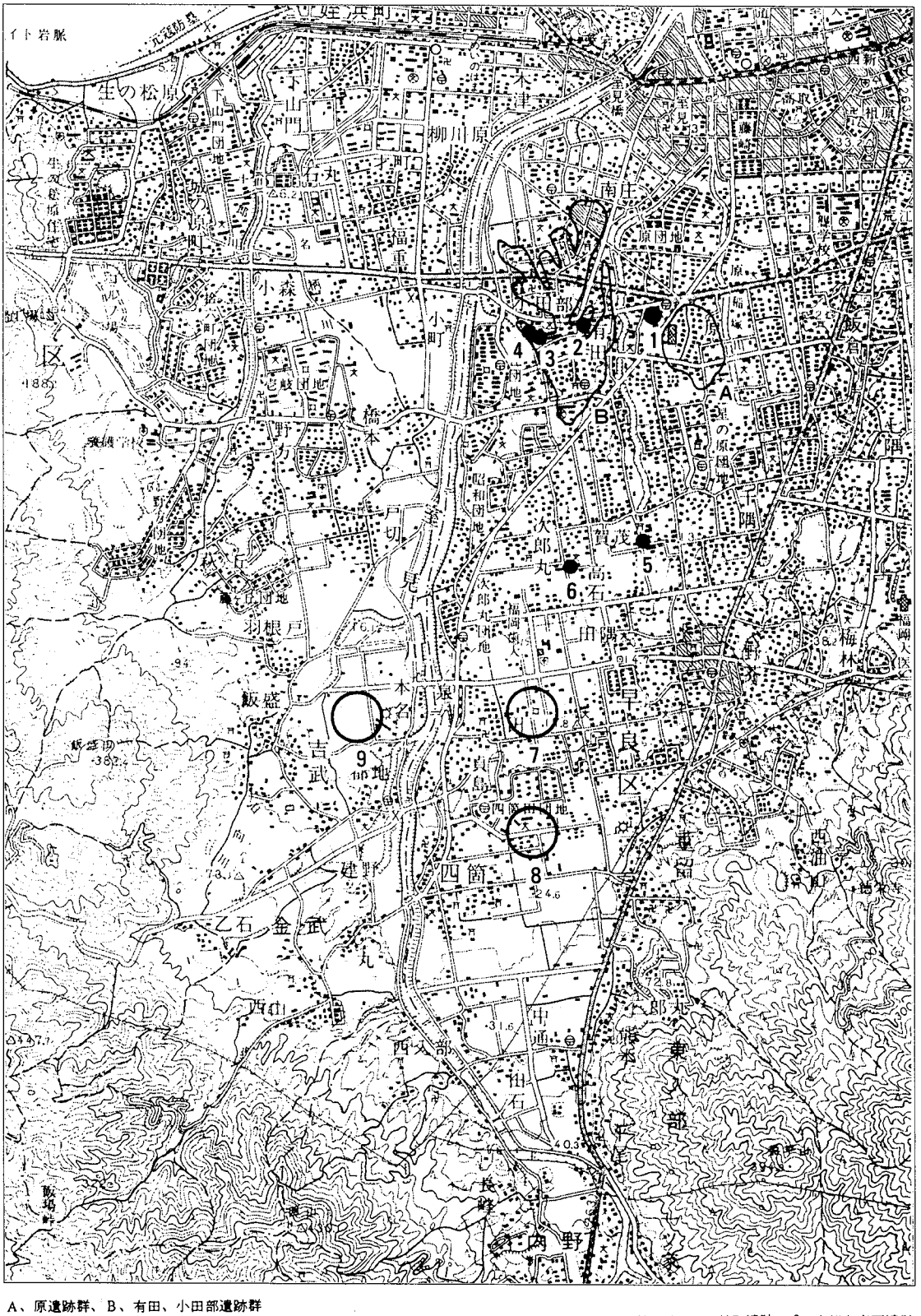
明治大学考古学専攻生

桐朋学園大学生

2．遺跡の立地と環境

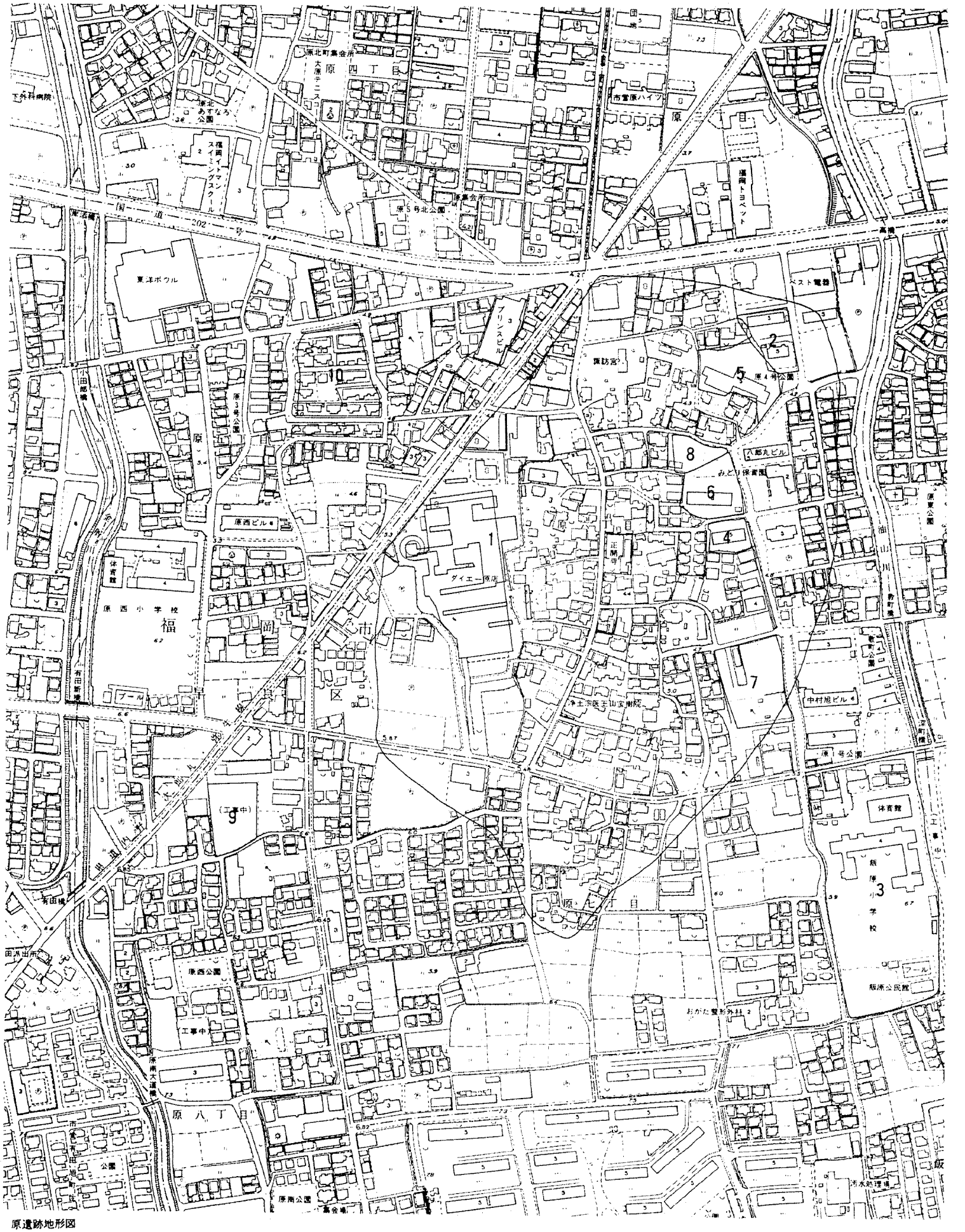
福岡市の平野部は油山山塊から北へ伸びる鴻巣山を中心とした平尾丘陵によって、狭義の福岡平野と早良平野に限られる。福岡市西部に広がる早良平野は室見川や金屑川等の大・小河川によって形成された沖積平野である。この沖積平野のほぼ真中には中位段丘である有田・小田部の台地が存在するが、この台地の東側には標高６～７ｍを測る原の低位段丘がある。この台地は東西長約550ｍ、南北幅250ｍを測る狭長な微高地である。水田面との比高差は小さく、東側には稲塚川が、西側には有田・小田部台地との堺に金屑川が流下する。微高地の北側は「塩入、舟底、浮島」等の地名が残っている。かつて河口が大きく湾入りしており、藤崎・西新地区は砂嘴状を呈していたと考えられるが、特に南庄地区では「庄ノ浜」「中ノ浜」「上ノ浜」の地名などもあって、十二町ほどの塩田が存在した事が伝えられている。台地上は縄文時代から中世までの集落が営まれるが、特に弥生時代中期と古墳時代初頭の大集落が近年発見され、それに伴なう水田跡としては台地西端の原談儀遺跡や台地南側の原深町遺跡などがある。古墳は「大王塚」と呼ばれるものや後期群集墳も存在したようであるが、現在は不明である。

周辺の遺跡では東側に細形銅剣を出土した飯倉原遺跡や古墳時代初頭の千隈古墳、西側に細形銅戈を出土した甕棺墓や弥生時代初頭の環濠を検出した有田遺跡がある。又、北側の湾岸には藤崎遺跡方形周溝墓群や西新町遺跡の古墳時代初頭の集落が存在する。水田跡としては弥生時代の鶴町遺跡や、弥生時代初頭の有田七田前遺跡が知られる。総じて弥生時代～古墳時代を通じて有田遺跡との有機的つながりは密接であり、有田遺跡の集落に対して分村的位置を示している。奈良時代は田部郷に属し、条里遺構は顕著に残っている。中世には在地豪族による名や屋敷の形成が著しいところである。(福岡市埋文発掘報告書第140集より転載)



A、原遺跡群、B、有田、小田部遺跡群
1、原第10次　2、有田・小田部遺跡第3次　3、有田・小田部遺跡第59次　4、有田・小田部遺跡第60次　5、鶴町遺跡　6、次郎丸高石遺跡
7、田村遺跡群　8、四箇遺跡群　9、吉武遺跡群

Fig. 1　周辺の遺跡



原遺跡地形図
1～10　各調査次数
1．原談儀遺跡
3．原深町遺跡

Fig. 1　原遺跡現況

3．遺跡の概要（Fig. 2）

遺跡対象地に幅１メートルの東西方向、トレンチを20m間隔で掘削した。そのトレンチの観察結果、本調査が必要と認めた地点を５地点選定した。各地点の概要は以下のとおりである。

第Ⅰ地点（GⅢ区北東隅）

遺跡東部に広がる微高台地から東部低湿地へ下降する地点。換言すれば台地と低湿地の歴史的活用の時間的流れを把握するために選ばれた調査地点である。

遺構は存在せず、弥生時代から古墳時代にかけて遺物を包含する文化層である。弥生時代中期の壺・甕形土器の破片少量出土、古墳時代初期の土器片は鼓形器台が目につく。中世は碗や皿の底部少量の出土をみる。

第Ⅱ地点（G-3，G-4，A-4区）

縄文時代最終末期夜臼式土器を伴う井戸状遺構と稲籾脱穀用の竪杵等は特筆に値する。

第Ⅲ地点（A-5・6，B-5・6，C-5・6区）

弥生時代前期板付Ⅱ式期から中期城ノ越式期にかけての水田址。
水田址は、杭列をもって水田址とするしか判断材料はない。

遺物としては、農耕具数点が目を引き、土器としては板付Ⅱ式土器に比定される無頸壺とそれと合体する蓋が多数出土している。無頸壺形土器の口縁部と蓋形土器の両側端にはそれぞれ２個の穿孔がみられ、壺と蓋とは組み合わせを意味している。水田もしくはその近辺の出土を考えると種籾保存用の機能が無頸壺と蓋に与えられている事を窺わせる。また、壺の表面は暗文風や編笠を思わせる文様が施され、一見に値する技術を遺存している。

第Ⅳ地点（A-2・3，B-3，C-3区）

遺跡東半にある台地上の遺構の遺存度を観察するために設定した調査地点である。

意に反して遺構は樹根とも住居の柱痕とも分らない痕跡で、人為的遺構は無かったとしか表現できない。後世による大削平の跡である。

第Ⅴ地点（D-1・2区，E-1・2区）

中世の溝を検出。中世館の痕跡を想わせる。

Fig. 3協力者は、右より態谷隆子、石川むつみ、広田由美子、本田光子、松浦宥一郎、坪多正裕、千田利明、一人おいて折尾学。

Fig. 3　調査協力者

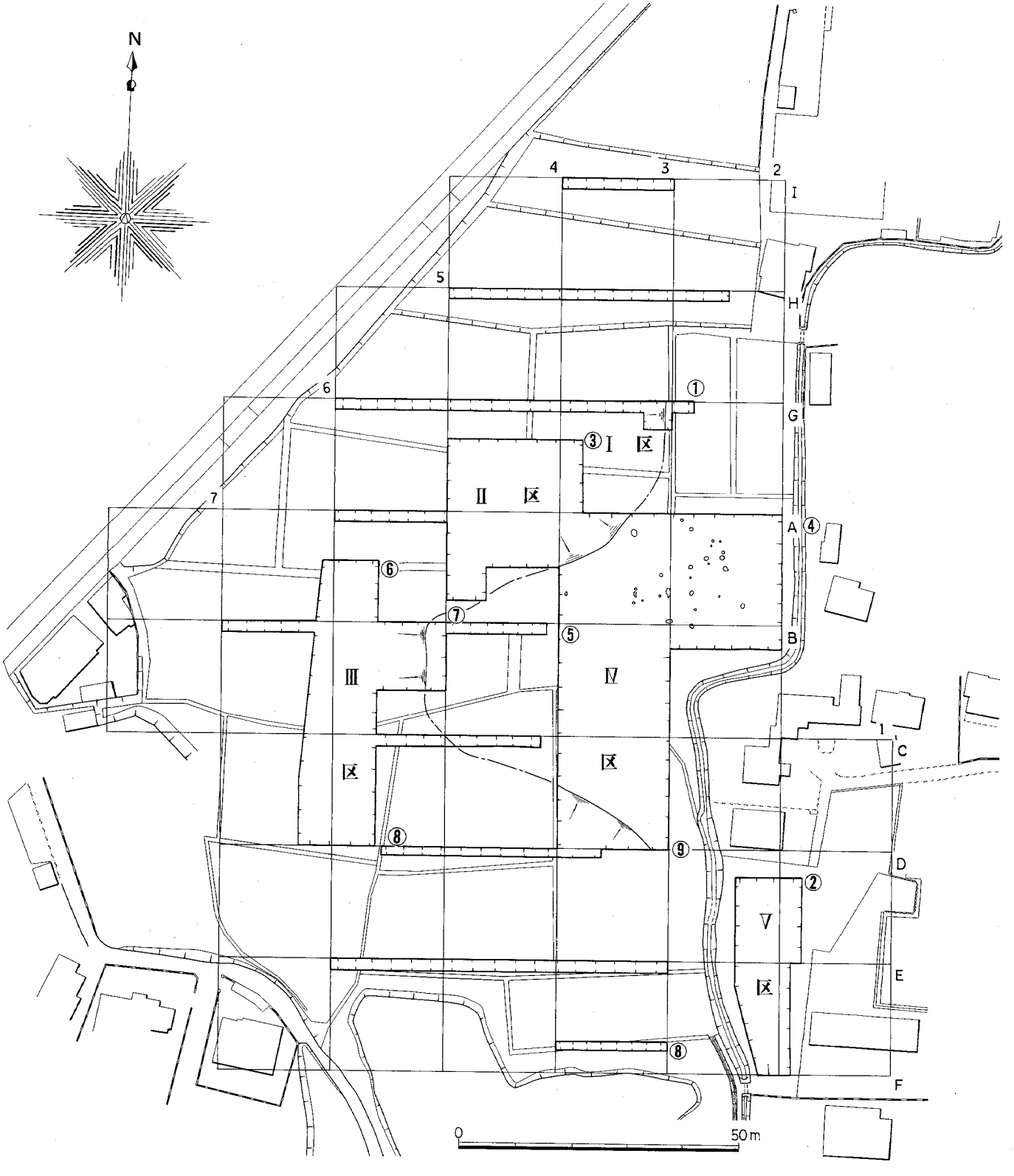


Fig. 2　調査地点配置図（縮尺１／1000）

4．各地点の調査

(1) 第Ⅰ地点の調査

本地点は、後世の削平を受けた台地上に存在していただろう遺構の時代性を、この地点出土の遺物で探るとともに、西半にある水田の境界にどのような人為遺構が有るか、確認するために設定された。

Fig. 4に示される平面プランは台地から西へ緩やかに傾斜する状態を表す。遺構は皆無であるが、遺物は弥生時代中期初頭の城ノ越式土器と古墳時代初期の古式布留式土器併行期の土師器を出土し、鼓形器台は見た目に優美である。

その他中世の碗底部や皿などが数点見られる。いずれにしても、本遺跡の土器利用の時間幅を示しているといえる。

Fig. 4の北壁土層の説明は以下のとおり。

1．灰褐色土層(耕作土)	表土、粘性はやや強く、しまりがある。
2．乳灰白色土層	粘性、しまりとも1層より強い。サビ状の鉄分を多量に含む。
3．黒　色　土　層	粘性、しまりとも2層と同程度、サビ状の鉄分を非常に多量に含で、そのためほぼ褐色を呈する。
4．黒　色　土　層	粘性は3層より強く、しまりは同程度。サビ状の鉄分は含まない。
5．黒　色　土　層	粘性は4層より強い。6層の砂の混入で特に下部のしまりは悪いが地下水の影響で全体的に4層よりしまりが悪い。
6．砂　　層	粒子は粗く、不ぞろい。5、7層の影響で粘性を持つ。
7．黒色粘質土層	砂質の粘土、粘性は5層より悪い。地下水および砂のためしまりは5層より悪い。
8．砂　　層	粒子は細く、均一であるが、礫層直上に薄くみられる。7層の影響で5層よりも粘性が強い。

なお、遺物を包含する土層は、第4層から第7層であるが、明確な時代区分は確認されていない。

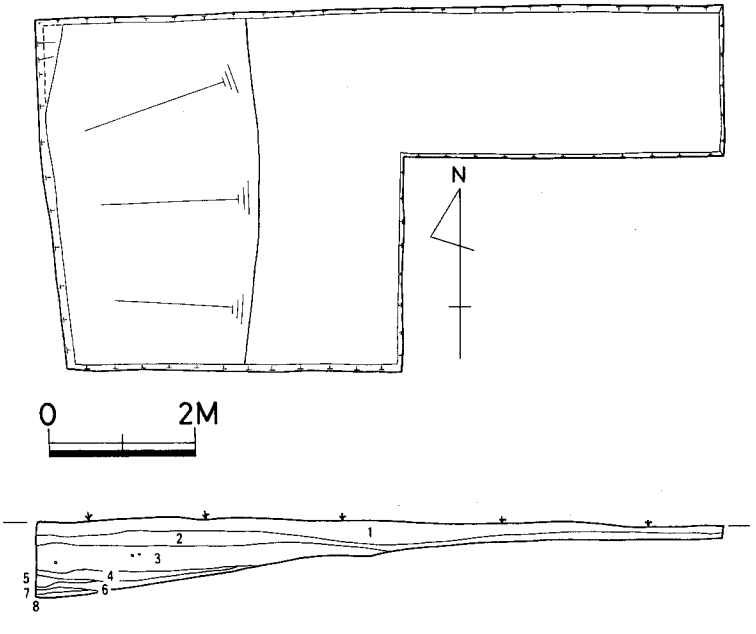


Fig. 4　第Ⅰ地点平面図と北壁土層図（縮尺1／100）

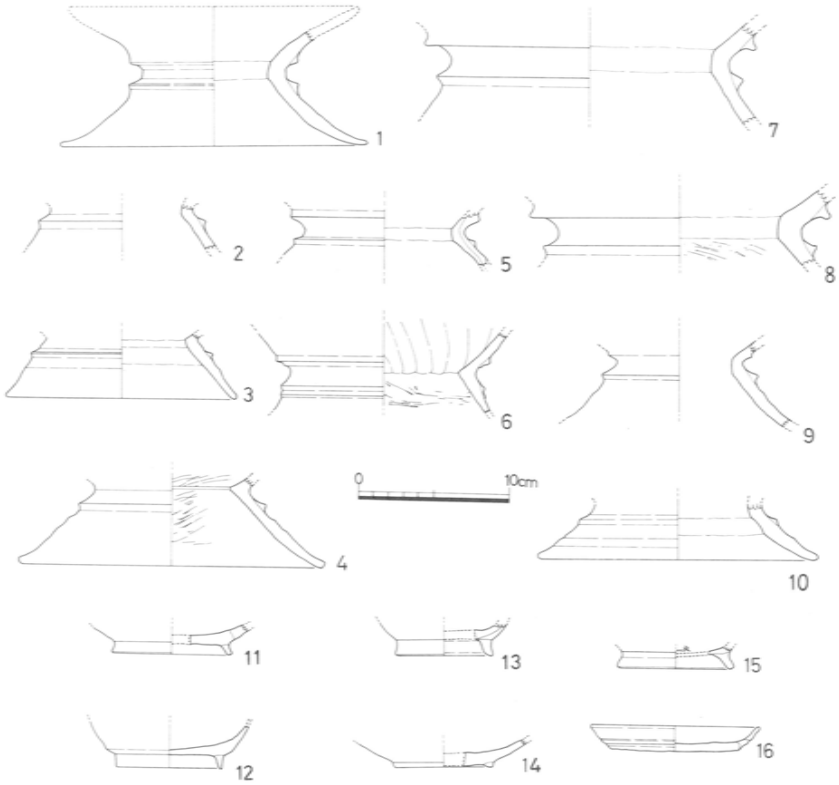


Fig. 6　第Ⅰ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

Fig. 7　第Ⅰ地点調査遠景

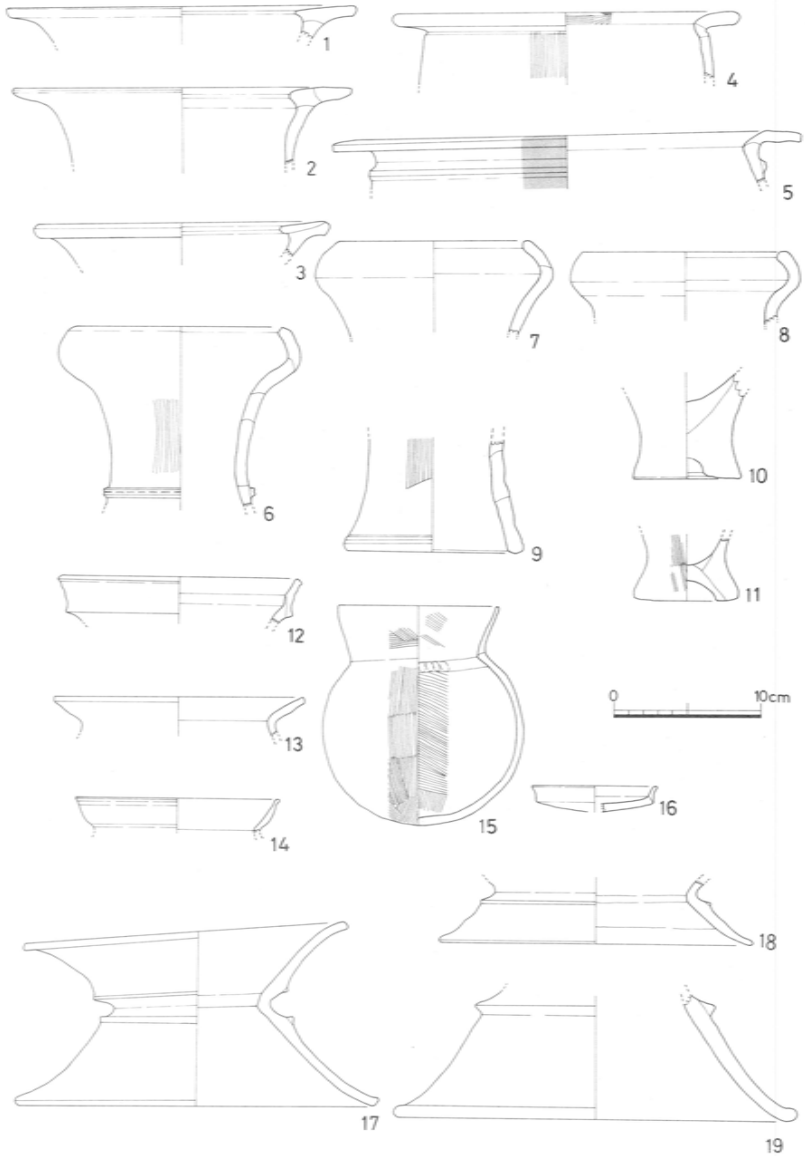


Fig. 5　第Ⅰ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

Fig. 8　第Ⅰ地点出土土器

Tab. 1 第Ⅰ地点出土土器観察表

Fig. 図面番号	出土地点	器種・器部	法量	形態の特徴
5・1	G3E3層	壺口縁部	口径 ※24 器高 最大径	口縁は「鋤」状を呈し、わずかに内傾する。
5・2	G3E砂層	壺口縁部	口径 ※23 器高 最大径	
5・3	G3E3層	壺口縁部	口径 ※20 器高 最大径	
5・4	G3E砂層	甕口縁部	口径 ※23 器高 最大径	逆「L」字形に近い口縁
5・5	G3E泥炭層直上	甕口縁部	口径 ※32 器高 最大径	口縁部は逆「L」字形に近いが、内側が「く」の字形に屈折する。口唇部が凹む。口縁直下に断面「M」字の突帯が1条巡る。
5・6	G3E砂層	壺口縁部	口径 ※14 器高 最大径	いわゆる袋状口縁で、頸部に小さな「M」字状突帯が巡る。
5・7	G3E泥炭層直上	壺口縁部	口径 ※13 器高 最大径	袋状口縁
5・8	G3E黒色土層	壺口縁部	口径 ※14 器高 最大径	
5・9	G3E泥炭層直上	器台脚下部	脚径 ※11.5 器高 最大径	胴中位が少しすぼまる。裾部に不明瞭な沈線が巡る。
5・10	G3E砂層	甕底部	底径 ※7.2 器高 最大径	あげ底、ぶあついつくりをなす。
5・11	G3E3層	甕底部	底径 ※7.2 器高 最大径	
5・12	G3E3層	壺口縁部	口径 ※16 器高 最大径	外反する口縁部から逆「く」の字形に屈折する。
5・13	G3E砂層	甕口縁部	口径 ※17 器高 最大径	口縁部は「く」の字形に外反
5・14	G3E4層	甕口縁部	口径 ※14 器高 最大径	口縁部は「く」の字形に外反し口唇で、やや内弯している。
5・15	排土中	甕	口径 10.8 器高 15.1 最大径 13.6	口縁部はわずかに外反するが、口唇部はやや内弯する。胴部は球形に近く、肩部にやや稜をつくる。器壁が薄手
5・16	G3E黒色土層	坏（高坏）	口径 ※8.4 器高 最大径	底部よりわずかに立ち上り、口唇部が外反する。底部がやや厚手になる。
5・17	A3・GE3	器台	口径 ※21.9 器高 ※12.6 最大径 ※25	上、下が広がり、中央部が鼓形にすぼまり、屈折部の上、下に三角突帯を各1条巡らすいわゆる鼓形器台
5・18	G3E	器台脚部	脚径 ※21 器高 最大径	
5・19	排土中	器台脚部	脚径 ※27 器高 最大径	
6・1	排土中	器台口縁部欠失	口径 器高 ※9.2 最大径	上、下が広がり、中央部が鼓形にすぼまり、くびれ部の上、下に三角突帯を各1条巡らす、いわゆる鼓形器台。くびれ部内面に不明瞭な稜をもつ。
6・2	G3E砂層	器台口縁部欠失	口径 器高 最大径	上、下が広がり、中央部が鼓形にすぼまり、くびれ部の上、下に三角突帯を各1条巡らす、いわゆる鼓形器台。くびれ部内面に不明瞭な稜をもつ。
6・3	G3E砂層	器台脚部	脚径 ※14.7 器高 最大径	鼓形器台、突帯は断面台形。くびれ部内面に不明瞭な稜をもつ。
6・4	排土中	器台脚部	脚径 ※19.5 器高 最大径	鼓形器台、くびれ部内面に稜がつき、強く「く」の字形に屈折。
6・5	G3E3層	器台口縁・裾欠	口径 器高 最大径	鼓形器台。くびれ部内面に不明瞭な稜をもつ。
6・6	G3E3層	器台口縁・裾欠	口径 器高 最大径	鼓形器台。くびれ部内面に稜がつき、強く「く」の字形に屈折。突帯は「M」字状
6・7	G3E3層	器台口縁欠	口径 器高 最大径	鼓形器台。くびれ部内面に不明瞭な稜をもつ。
6・8	G3E3層	器台口縁欠	口径 器高 最大径	鼓形器台。くびれ部内面に不明瞭な稜をもつ。
6・9	G3E4層	器台口縁欠	口径 器高 最大径	鼓形器台。
6・10	G3	器台脚部	径 ※17.7 器高 最大径	鼓形器台。
6・11	G3	高台付坏底部	底径 ※8 器高 最大径	やや外に広がる高台がつく。
6・12	G3E3層	高台付坏底部	底径 ※7 器高 最大径	直立した高台がつく。
6・13	G3E3層	高台付坏底部	底径 ※6.2 器高 最大径	やや外に広がる高台がつく。
6・14	G3E砂層	高台付坏底部	底径 ※6.4 器高 最大径	低い高台がつく。体部は大きく外に広がる。
6・15	G3表土	高台付坏底部	底径 ※7.2 器高 最大径	やや外に広がる高台がつく。
6・16	G3表土	皿	口径 ※11 器高 1.7 最大径	厚く平坦な底部から短かく体部をひき出す。

（※は復元値、単位：cm）

手法の特徴	胎土・焼成	色　調	備　考	写真
ナデ	大粒の長石、石英粒を多量に含む。良好、堅緻	明黄土色	磨滅著しい	
調整痕不明	砂粒を多く含む、粗、良好		磨滅著しい	
調整痕不明	砂粒を含む　良好	明黄土色	磨滅著しい	
刷毛目	長石粒を多く含む　良好		磨滅著しい	
外面 ヘラみがき	長石、石英粒を少量含む良好		丹塗り	
外面 刷毛目　突帯部横ナデ	長石、石英粒を含む　良好			
調整痕不明	長石、石英粒を含む　良好	白黄土色		
調整痕不明	長石、石英粒を含む　良好	白黄土色		
外面 縦の刷毛目	長石、石英粒を少量含む普通	暗白黄土色		
	大粒の石英を多量に含む粗良好	外面 暗黄土色 内面 黒灰色	磨滅著しい	
	砂粒を多く含む　良好	外面 黄褐色 内面 灰白色		
内、外面 丁寧なナデ	砂粒を含む　良好	濃茶色		
横ナデ	石英、長石粒を含む　良好	外面 濃茶色 内面 黄土色	磨滅著しい	
調整痕不明	長石粒を含む　良好	白黄土色	磨滅著しい	
口縁部刷毛ナデ、胴部外面縦の刷毛目、頸部内面指ナデ、胴部内面刷毛目	細砂粒を含む　良好、堅緻	外面 茶褐色 内面 灰褐色	外面煤付着	Fig.8-1
口縁部横ナデ	砂粒を極少量含む　良好	赤褐色		
内、外面 ヘラ削りのち横ナデ	砂粒を含む　良好	暗褐色		Fig.8-3
内、外面 横ナデ	砂粒を含む　良好	明褐色		
外面 横ナデ 内面 ヘラ削りのち横ナデ	砂粒を含む　良好	明褐色	黒班あり	
外面 ヘラみがき 内面 ヘラ削りの後、ヘラみがき	細砂粒を含む　良好	赤褐色		Fig.8-2
外面 ヘラみがき 内面 ヘラ削りの後、ヘラみがき	細砂粒を含む　良好	黄褐色		
外面 ヘラみがき 内面 ヘラ削りの後、ヘラみがき	良好	明赤褐色		
外面 横ナデ 内面 ヘラ削り	砂粒を含む　良好	暗褐色	黒班あり	
横ナデ	砂粒を多量に含む　良好	明赤褐色		
外面 横ナデ 内面 ヘラ削り	砂粒を含む　良好	明褐色		
外面 横ナデ	砂粒を含む　不良	黄褐色		
外面 横ナデ 内面 ヘラ削り	砂粒を多量に含む　不良	淡黄灰色		
横ナデ	砂粒を多量に含む　不良	淡黄褐色		
横ナデ	砂粒を含む　良好	黄褐色		
外面 ナデ 内面 ヘラ削り	砂粒を極少量含む　良好	外面 黄土色 内面 黒灰色		
調整痕不明	密、きめ細い　良好	外面 淡黄褐色 内面 黄褐色		
外面 ヘラ削り後、ナデ 内面 ナデ 高台部 ナデ	密、きめ細い　良好	淡黄褐色		
調整痕不明	砂粒を極少量含む　良好	白黄土色		
高台部横ナデ	砂粒を極少量含む　良好	白こげ茶色		
横ナデ	砂粒を極少量含む、密良好	外面 暗白黄土色 内面 暗赤褐色		

(2) 第II・IV地点の調査

第II地点の土層図説明

Section 1 (G－4・3グリット北壁, Fig.9)

1 灰褐色土層(耕作土)
2 乳灰色土層
3 茶褐色土層
4 砂　　層　粒子の粗い砂層、しまりがない。西端は白砂で東に行くに従い茶色。泥炭ブロックあり。
5 灰黒色土層　粘性しまりあり。泥炭の層で、径2～3cmの小石含む。
6 砂　　層　粒子の粗い砂層。
7 砂　　層　粒子の粗い白砂層。砂質化した泥炭を帯状に含む。
8 黒色泥炭層　粗い砂粒子を含む泥炭層。
9 黒色粘質土層　砂粒子と緑灰色の粘土をブロック状に含む粘質土層。
10 砂　　層　径3～4cm位の小石や礫を含むしまりがある砂層。
11 黒色粘質土層　砂粒子混入粘質土層。
12 砂　　層　微砂粒子層で小石を含む。
13 砂　礫　層　径4～5cm位の小石を多量に含む砂層。
14 黒色粘質泥炭層　強粘性質の泥炭層。
15 砂　　層　粗い粒子砂層に泥炭をわずかに含む層。

Section 2 (Aトレンチ, Fig.9)

1 灰褐色土層(耕作土)
2 黄褐色粘質土層(水田の床土)
3 黒色土層　鉄分を含む褐色土で堆積は密である。
4 黒色砂混入土層　堆積が密な砂混入粘質土層。
5 黒色粘質土層　堆積が粗疎な、水分を含む黒色土層。
6 砂混入黒色粘質土層　第5層の状態に石英小粒子混入。
7 砂　礫　層　濃灰色で径10cm内外の花崗岩礫を多量に含む。
8 砂　　層　灰白色の砂層、堆積は疎い。
9 褐色砂礫層　地山と思われる礫層。砂が混入。

Section 3 (C－4グリット　井戸と土層, Fig.9)

1 明灰褐色土層　強粘性で粒子状の鉄分を多量に含む。
2 黒色土層　泥炭層、粘性が強くしまっている。
3 砂　　層　ブロック状に黒色粘質土を含む砂層。しまりがない。
4 灰黒色土層　非常に細い砂を含む粘性土層。
5 黒色土層　第II層と酷似。
6 砂　　層　ブロック状に入っている砂層。粒子が細かく色も明るい。
7 礫　　層　本遺跡の基盤層。10cm内外の花炭岩礫層。

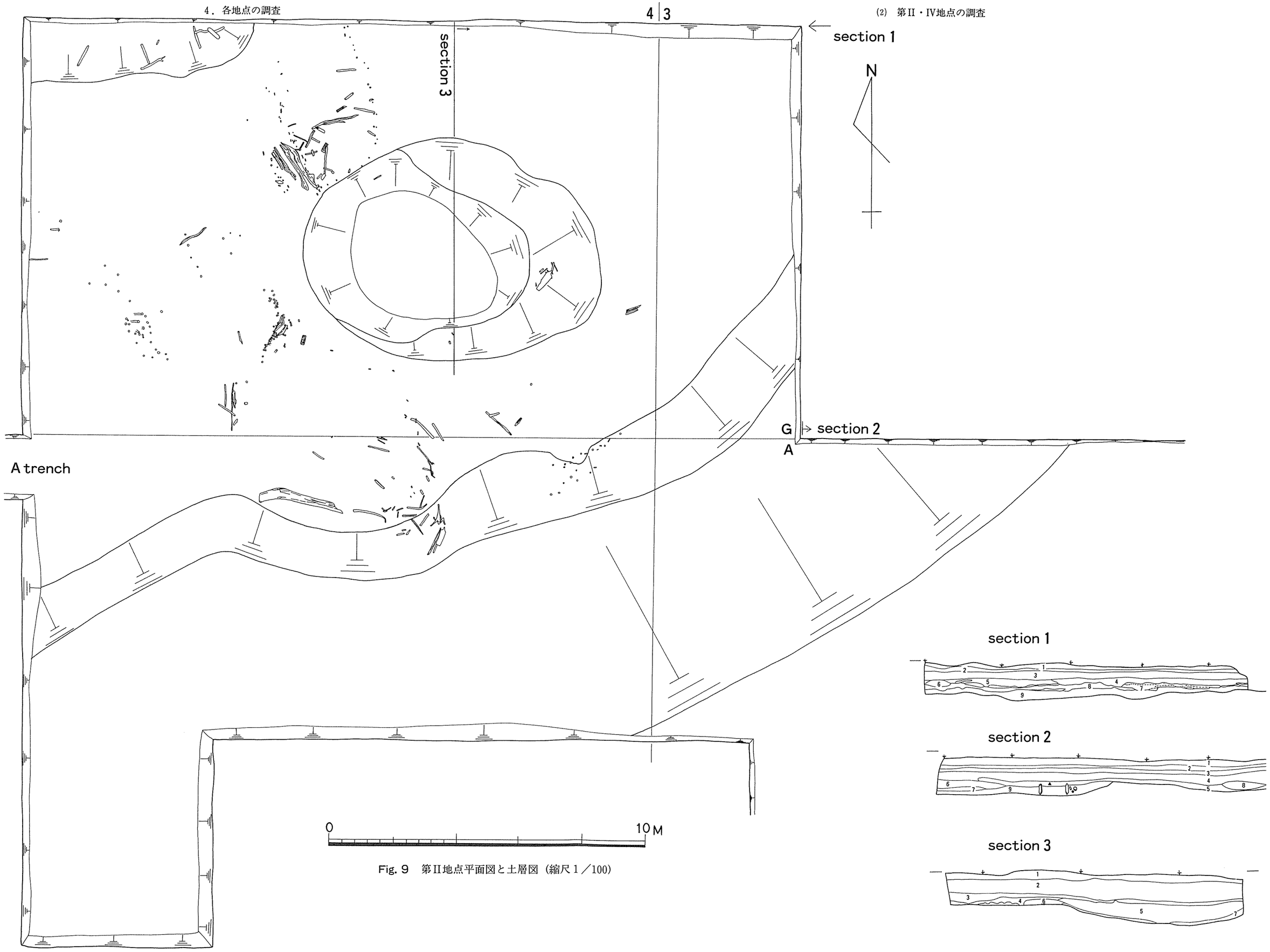
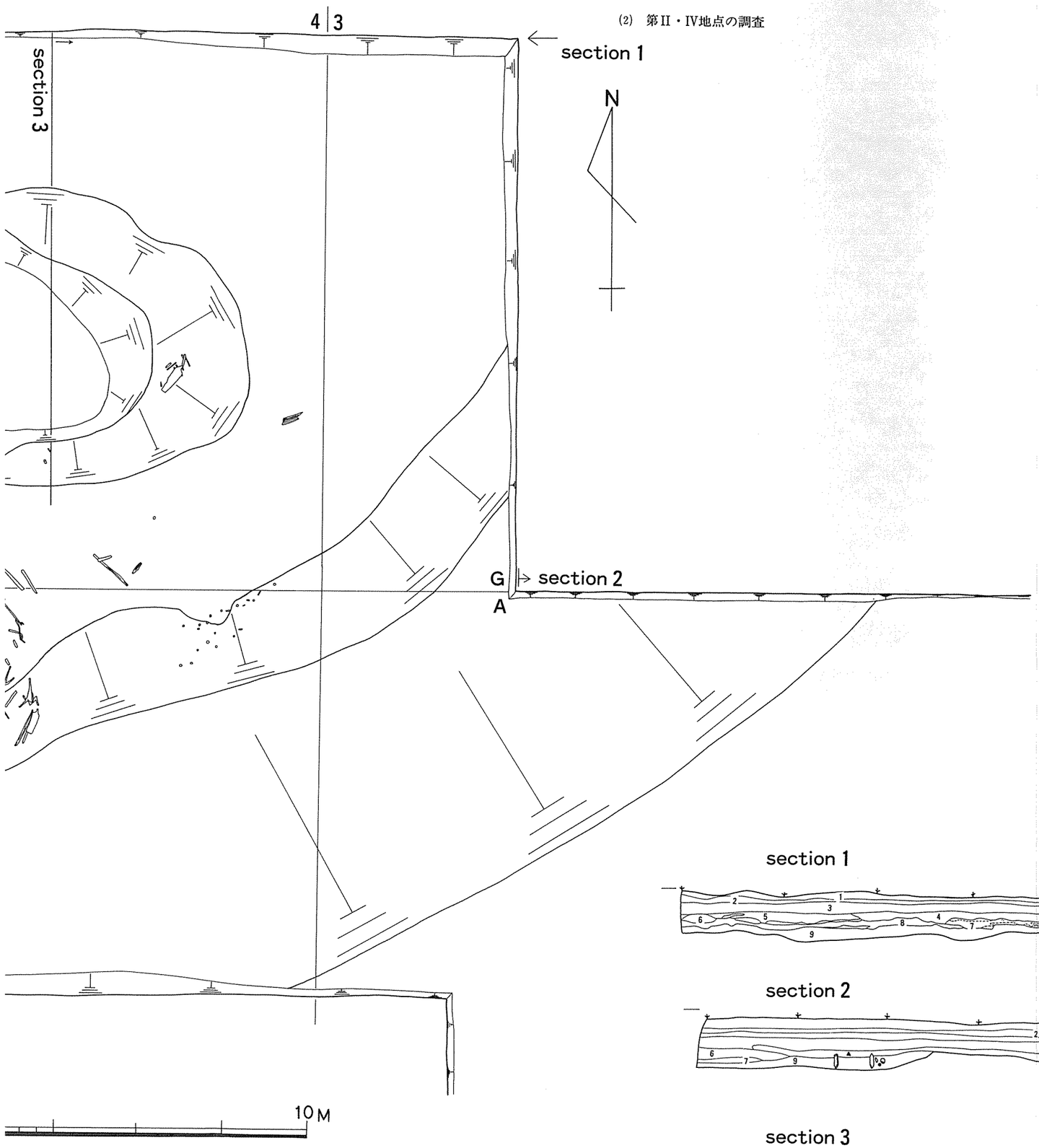
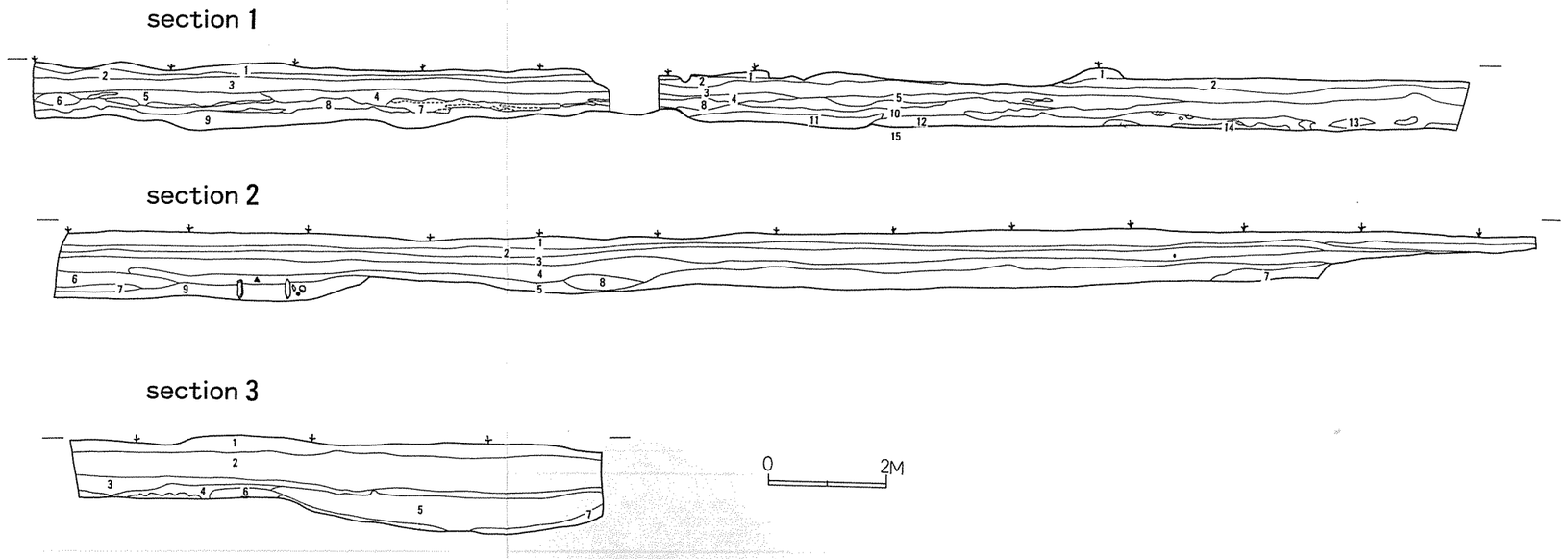


Fig. 9　第II地点平面図と土層図（縮尺１／100）



第II地点平面図と土層図（縮尺１／100）



① 調査の概要

第IV地点は、集落の痕跡探査の為設定されたが遺構皆無につき説明は省く。

第II地点は、水田の可能性とその時代確認のため設定。

土層を観察する（Section. 1，G－3・4区北壁、Fig. 3）と花崗岩礫層を基層として、その上層は表土層を含めて15層が概観できる。15層の中に、5層の砂層とその間層として黒色有機質の低湿地特有の泥炭層が見える。この泥炭層が稲作適合の水田面と思われる。調査の主眼はこの泥炭層の水田の営みの跡を探るところにある。

第14層に弥生式土器を含まない夜臼式土器の文化層があって、擂鉢形の井戸状遺構と稲作を想わせる竪杵が出土している。

その上層第11層には、板付II式土器を包含する土層が見える。

第8層より上層の黒色粘質土層や黒色泥炭層等が古墳時代以後の水田を示している。

各時代の水田の区画については、部分的に依存する杭列より言及するには甚だしく恐れ多い。水田の区画を求める調査は湧水対策を重点においた考古学的発掘土木技術を前提に考えなければならないと思うが、原因者（開発側）に調査費を求める現在の文化財行政からして、そのような調査は夢物語である。

挿図の説明をすれば、Fig.12，13が夜臼式土器の出土状態。Fig.14が夜臼式土器に伴う竪杵でそれを打ち抜く状態で板付II式期の杭が見える。Fig.15は第8層より出土の布留式土器併行期の甕形土器。

いずれにしても最下層から表土層までに何層も存在する砂の層は、幾度となく繰り返される風水害という自然の脅威と人間との歴史的闘いの跡である。その歴史的経験の上に現在の水田経営がある。

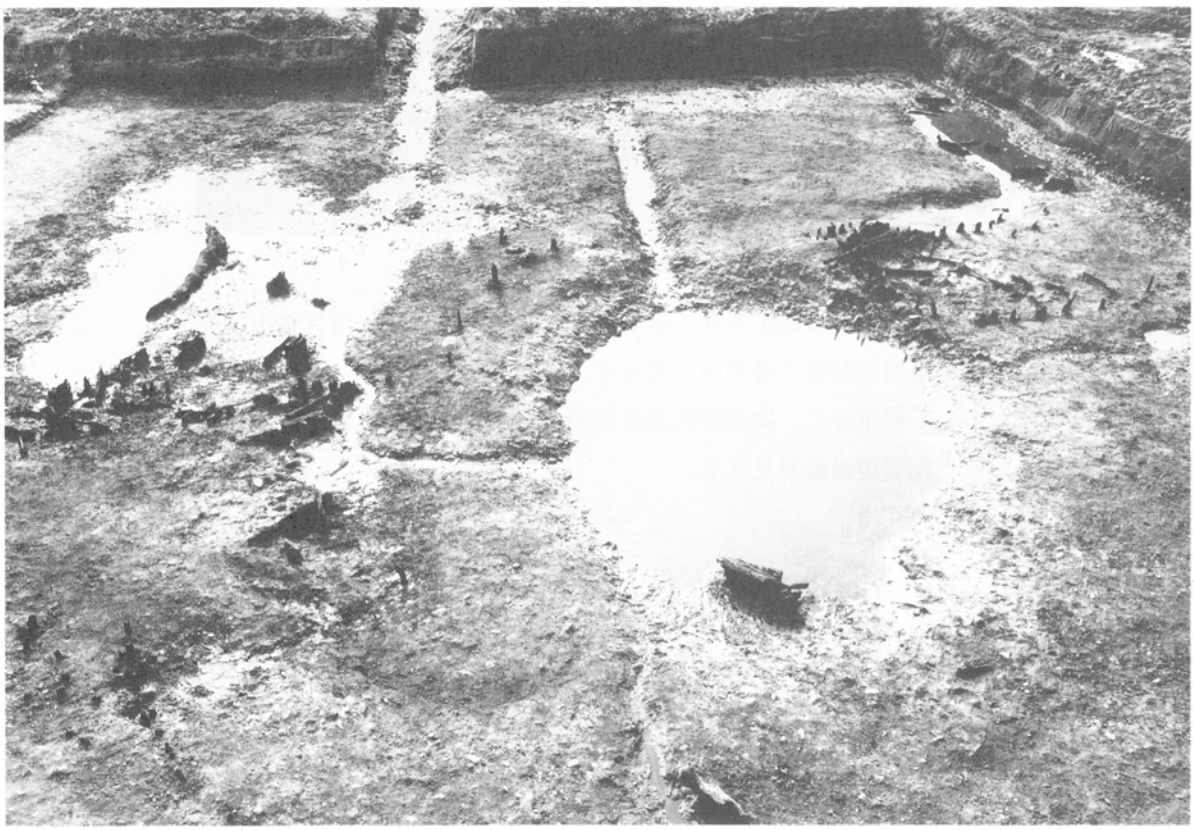


Fig. 10 第II地点遠景（中央右井戸状遺構）

Fig. 11　杭の位置と土器の位置

断面三角形に加工された板状の杭と弥生時代前期板付II式土器が第11層黒色粘質土層の中に見える。その下層2枚の砂、及砂礫層をおいて最下層に、縄文時代最終末期の夜臼式土器を包含する第14層黒色粘質泥炭層が見える。

② 出土遺物

夜臼式土器　Fig.11，12が夜臼式土器の出土状態である。

Fig.11は黒色に近い土器の底部で、円形の胴部に高台状の底を張付けたものであろう。表面は良く研磨されており、鉢形土器の底部と思われる。

甕形土器の口縁部、胴部等の破片がFig.16とFig.17に拓影図化されている。土器表面は夜臼式甕形土器に共通の器表調整のためとされる条痕が顕著である。

甕形土器の拓影断面図をみると、口縁直下に突帯をめぐらし刻目を施すもの、口唇直下に微突帯をめぐらし刻目を施すもの、口唇の外に微突帯をめぐらし刻目を施すものとが見られる。口唇直下に微突帯を設けるものと口唇の外に微突帯を設けるものとには、胴部から引き伸ばした口縁部の先端（口唇部）の外に突帯を施すものと、引き伸ばした口縁部を口唇で若干外反させ内側に突帯を施すものとが考えられるが図の表現はそこまで達していない。

いずれにしても、その甕形土器の製作技法は後に続く、弥生式時代の甕形土器はもとより壺形土器の基層をなすものである。

竪　杵　夜臼式土器に伴うものである。長さ70cm内外、遺物取り上げ後、保存管理の不備により、図化が不能に終わった事にお詫び申し上げる。材質は可視的に把えて樫系の樹木と思われる。

弥生式土器　甕形土器があって、板付II式土器（Fig.18－1．2）と城ノ越式土器（Fig.18－8．9）、それに型式名は定かでないが、注口土器の注口（Fig.8－11）と紡錘車（Fig.18－10）がみられる。板付II式土器の甕形土器は底部と胴部の接合部分に胎土を張り付け表面を調整した痕が、断面に見てとれる。製作者の美的感覚からくる気配りであろうか。

古墳時代　古墳時代前期に比定されるものを出土している（Fig.18－3．4．6．7．12．～14）。壺形土器の口縁（3．4）はこの時期に見られる頸部と口縁の接点を鋭角に表現し、口縁が控えめに外反するものである。いわゆる小型丸底壺(6)は器壁が大変薄くて繊細な印象を受ける。高杯形土器には二者があって、杯部と口縁の接点を鋭角に表現するもの(12)と鈍角に表わし口縁部を大きく外反させるもの(14)とがある。前者が古式である。甕形土器（7．13）は布留式土器系の土器である。球形の胴部に多少膨らみをもたせて外反する口縁を乗せ、口唇部を平坦に切る。器内は胎土に充分砂粒子を混入させ、錬り込み、強度を保たせ、内面は箆で削り器壁を薄く、さらに器表は刷毛調整で丁寧な仕上がりである。熱効率を如何に図るかが往時の工人達の課題であった事が窺える。

Fig. 12 夜臼式土器出土状況

Fig. 13 夜臼式土器出土状況

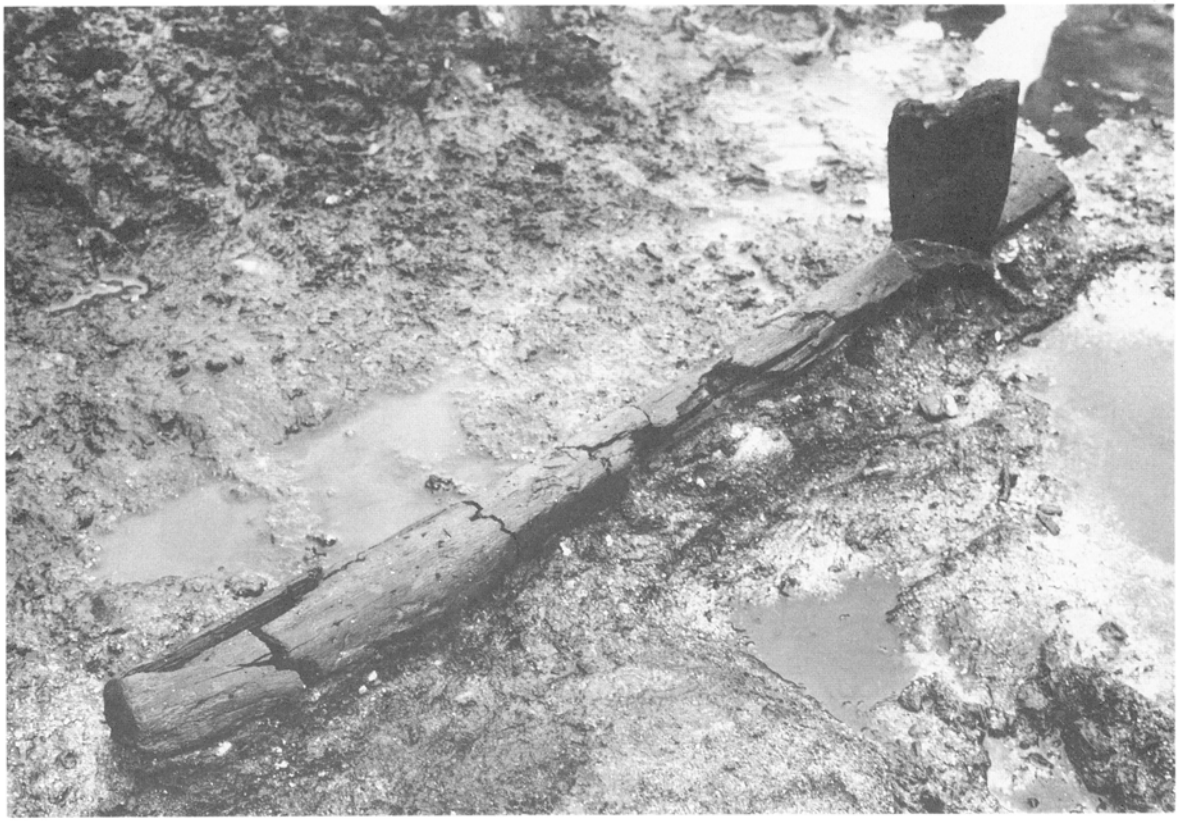


Fig. 14　夜臼式土器に伴う木器と杭

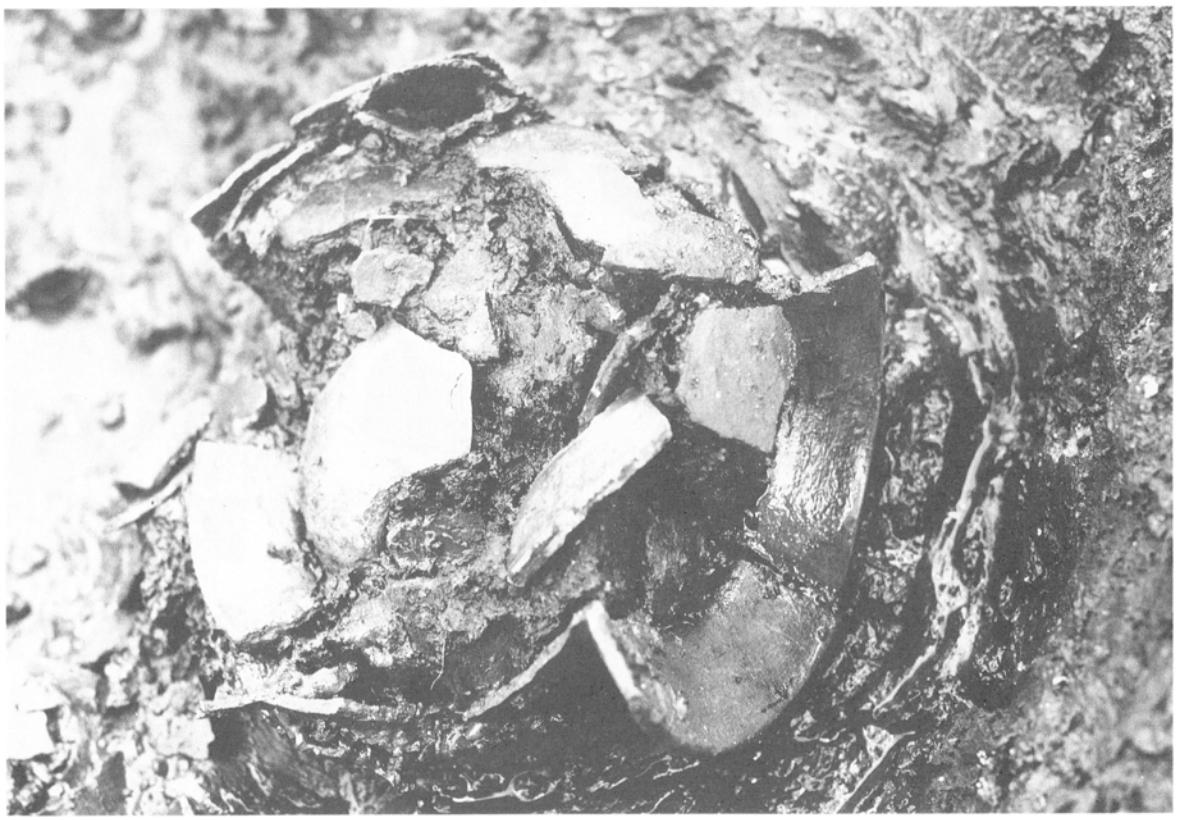


Fig. 15　甕形土器出土状況

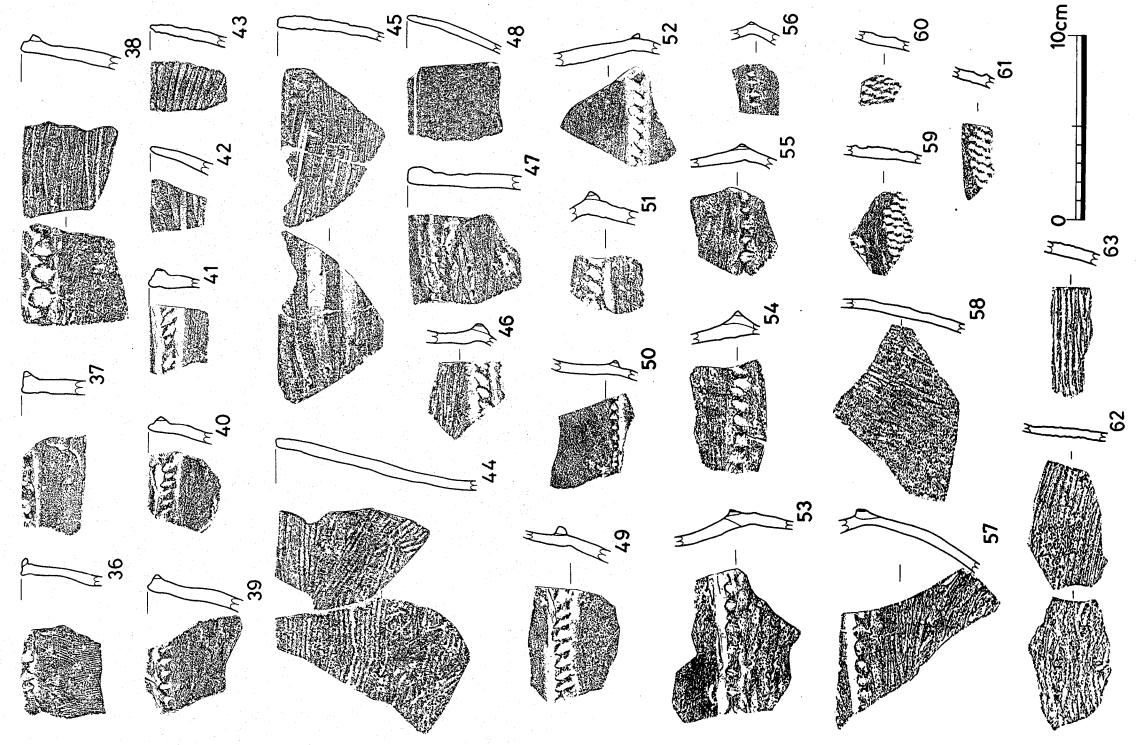


Fig. 17 夜白式土器拓影図（縮尺１／４）

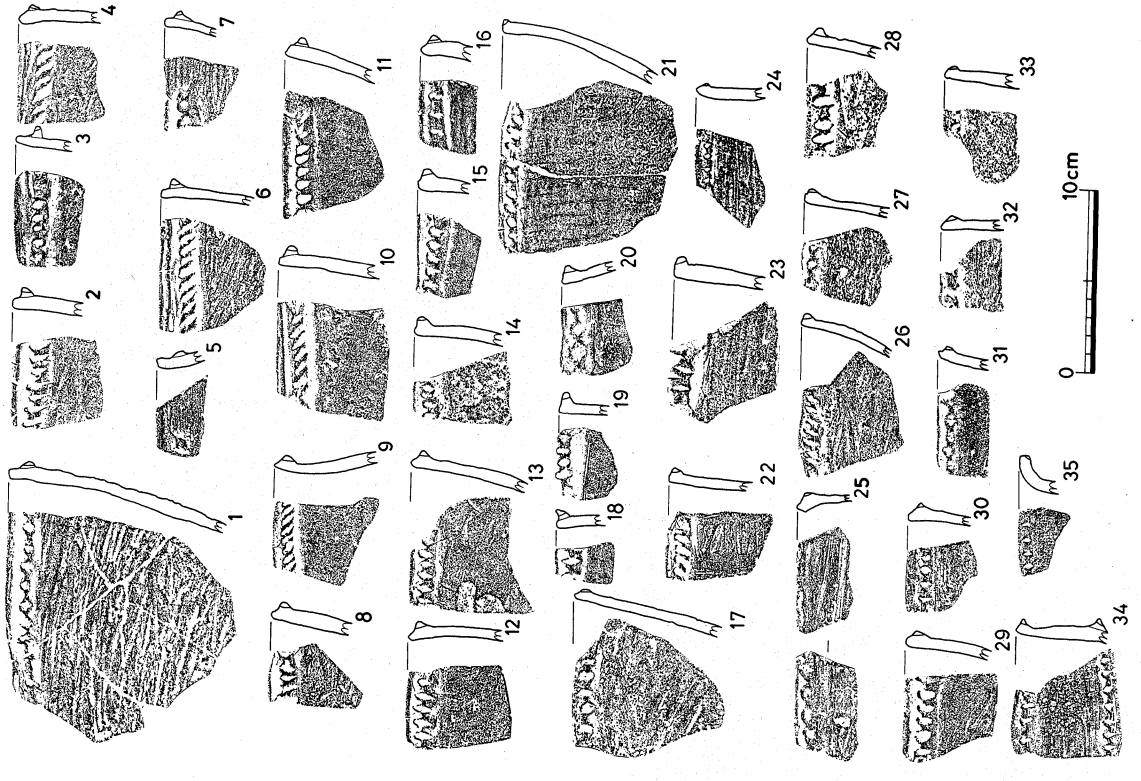


Fig. 16 夜白式土器拓影図（縮尺１／４）

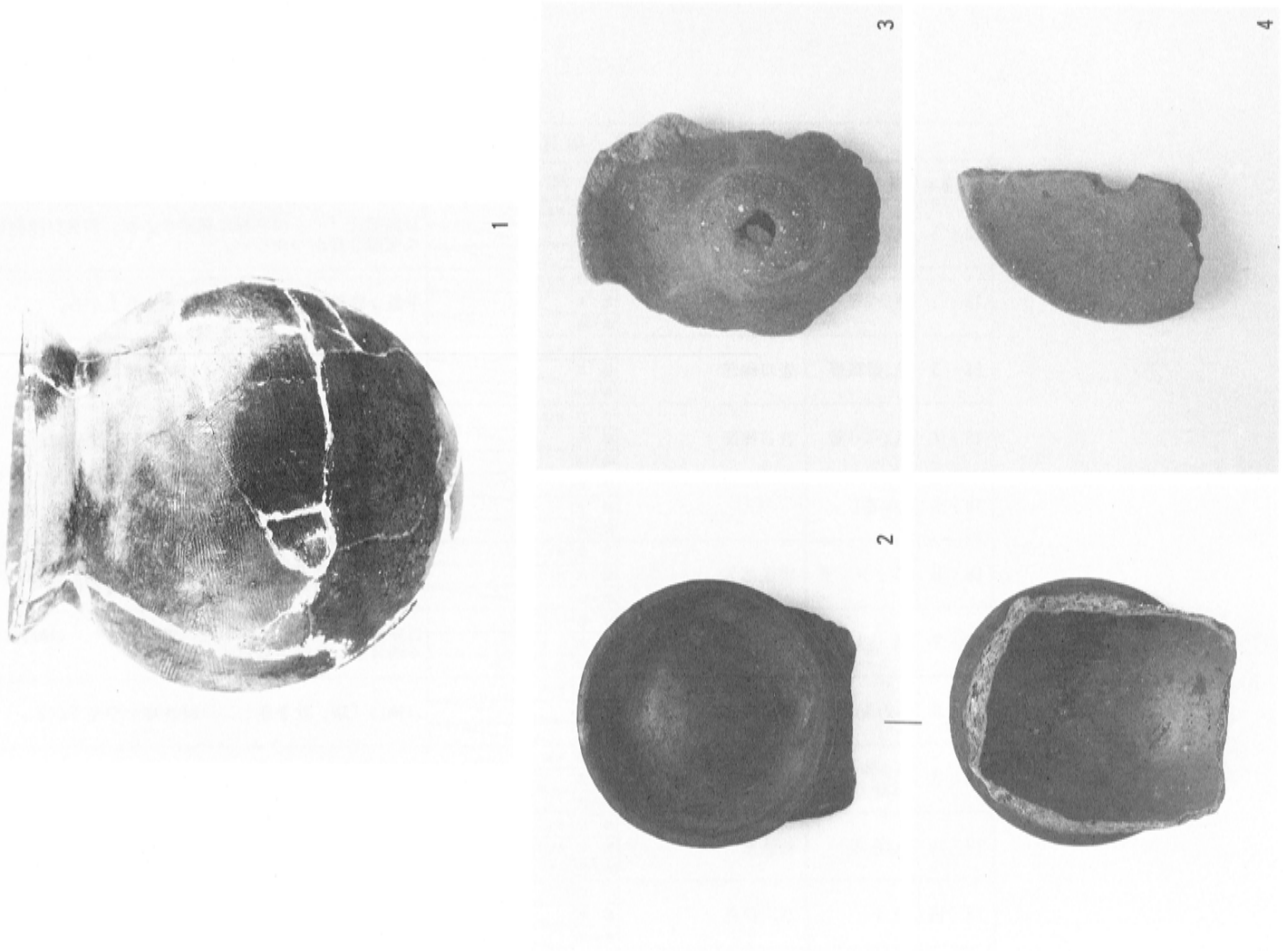


Fig. 19　第II地点出土遺物

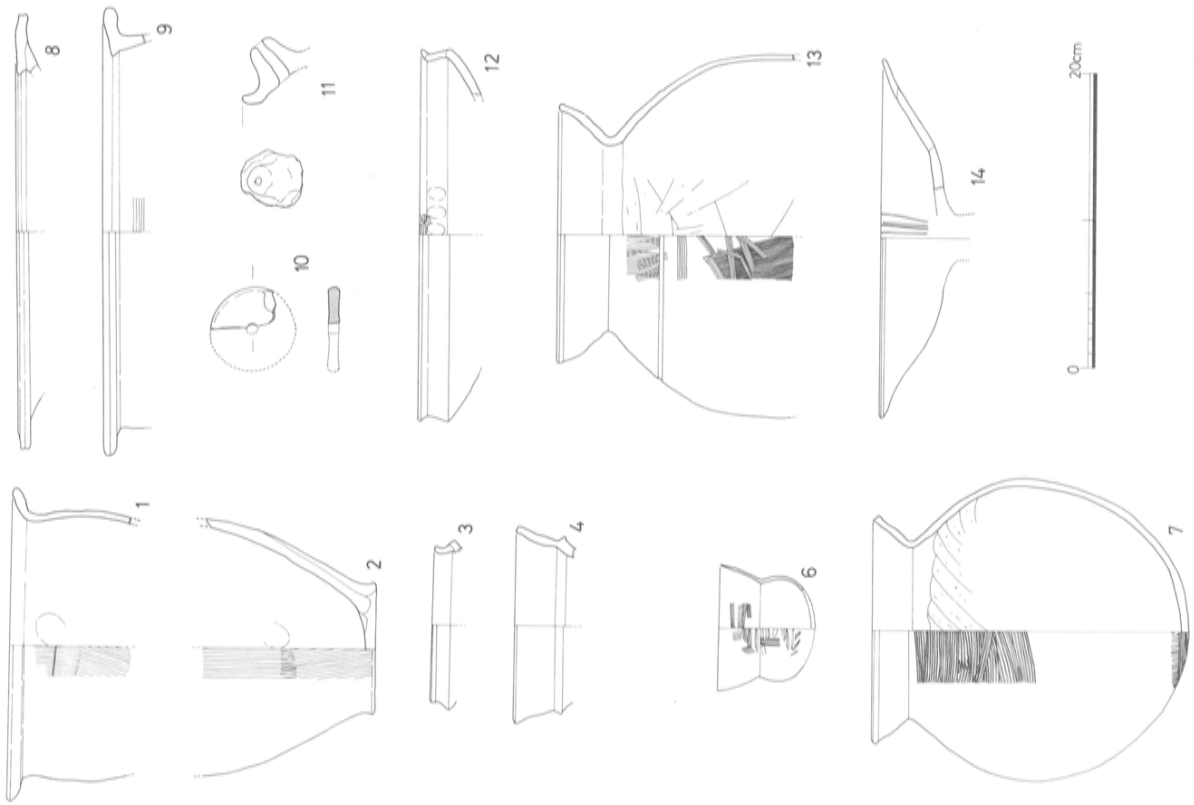
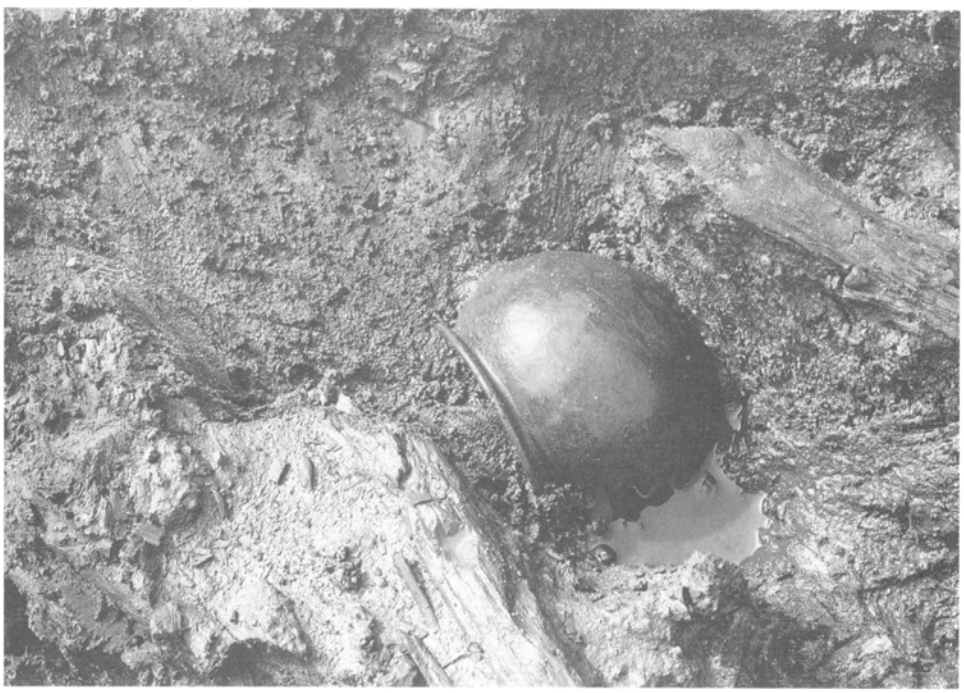


Fig. 18　第II・IV地点出土遺物実測図（縮尺１／５）

Tab. 2 第II・IV地点出土土器観察表

Fig. 図面番号	出土地点	器種・品部	法量		形態の特徴
18・1	A2・2層	甕口縁部	口径	※21	口縁部は「く」の字形に屈折するが、内面口縁屈折部に明瞭な稜がつかない。
			器高		
			最大径		
18・2	A2・2層	甕底部	底径	※8.8	平坦な底部からそのまま胴部へ立ち上がる。
			器高		
			最大径		
18・3	A3砂礫層	壺口縁部	口径	※10	外反する口縁部から逆「く」の字形に屈折する。
			器高		
			最大径		
18・4	A2・3・1層	壺口縁部	口径	※13.5	外反する口縁部から逆「く」の字形に屈折する。
			器高		
			最大径		
18・5	(欠番)		口径		
			器高		
			最大径		
18・6	Aトレンチ	坩底部欠	口径	※8.4	口縁部がやや外反して、胴部との接合部がややくびれ上下に偏平な球形の胴部に至る。器壁が薄手
			器高	※6.5	
			最大径		
18・7	A・3	甕	口径	14.7	口縁部が外反し、球形に近い胴部をもつ。口縁部は若干内弯し、口縁上端が凹む。
			器高	21.4	
			最大径	20.2	
18・8	A2・3pit内	壺口縁部	口径	※29.3	口縁は「鋤」状を呈し、口縁外端がやや下がる。
			器高		
			最大径		
18・9	A5砂～泥炭層	甕口縁部	口径	※28	口縁は逆「L」字状を呈し、やや内傾する。
			器高		
			最大径		
18・10	A4砂層	紡錘車	器径	※5.7	大型の紡錘車で全体の3分の2を欠損する。
			器高	※0.7	
			最大径	0.8	
18・11	A 4	水注口部	口径	0.7	注口の長さ3cm
			器高		
			最大径		
18・12	A 3	壺？口縁部	口径	※25	短い外反する口縁部が「く」の字形に屈折し、頸部で逆「く」の字形に強く屈折する。
			器高		
			最大径		
18・13	A5砂～泥炭層	甕底部欠	口径	※17	口縁部は「く」の字形に屈折するが、やや内弯し、口唇部が肥厚する。胴上部に1条の沈線が巡る。器壁薄手
			器高		
			最大径		
18・14	A2・3pit内	高坏坏部	口径	※24	坏部はやや外反しながらゆるやかに伸びる。断面は、口縁部先端に近い程薄い。
			器高		
			最大径		



Ph. 1 無頸壺出土状態（第III地点）

（※は復元値、単位：cm）

手法の特徴	胎土・焼成	色　調	備　考	写真
口縁部横ナデ　胴上部外面縦の刷毛目（刷毛の単位2.5cm）　胴上部内面ナデ	砂粒を含む　良好	赤褐色		
外面縦の刷毛目　内面ナデ	砂粒を多量に含む　良好	赤褐色		
外面ヘラ研磨	石英、長石粒を少量含む良好	漆黒色		
	石英、長石粒を少量含む良好	黄土色		
外面刷毛調整後、ヘラで磨いている。	精良　良好	白暗黄土色	破片がわずかなので器形がやや疑問	
口縁部刷毛ナデ　胴部外面斜めの刷毛目の後、横の刷毛目　胴部内面ヘラ削り	砂粒を含む　良好　堅緻	外面 茶褐色 内面 暗褐色	口縁部、底部外面に煤付着	Fig.19-1
調整痕不明	砂粒を少量含む　不良	外面 黄土色 内面 茶褐色		
横ナデ	砂粒を少量含む　良好	灰茶色		
	砂粒を含む　良好	黒褐色		Fig.19-4
つけ根部指の押圧	砂粒を含む　普通	黒褐色		Fig.19-3
外面ヘラ研磨　内面指の押圧とヘラ研磨	細砂粒を含む　良好　堅緻	外面 赤褐色 内面 茶褐色	内、外面煤付着	
口縁部横ナデ　胴上部外面斜めと縦の刷毛目　胴上部内面ヘラ削り	細砂粒を少量含む　良好	灰茶色	外面煤付着	
内・外面ヘラ削り	細砂粒を少量含む　良好	明茶褐色		

Ph. 2　木器出土状態（第Ⅲ地点）

(3) 第III地点の調査

第III地点の土層図説明

Section 1 (A－5、A－6グリット，Fig.20)

1 灰褐色土層(耕作土)。 2 黄褐色粘質土層(水田床土)。
3 茶褐色土層 鉄分を含んだ褐色土層。
4 黒色混砂土層 砂を含む粘性土層。
5 混砂泥炭層 石英小砂を含む水質黒色土層。
6 黒色混土砂層 黒色土混入粘性灰色砂層。
7 黒色粘質土層 所謂、泥炭層。
8 砂礫層 径2～5cmの礫少量を含む粗粒子砂層。
9 灰色砂層 粘性が少々有る粗い粒子の濃灰色砂層。
10 純砂層 堆積が疎な灰白色砂層。
11 青灰色土層 堆積が疎な粘性土層。
12 青灰色混砂土層 堆積が密で、粒子が細かい砂を含む。粘性土層。

Section 2 (Bトレンチ・B－5グリット北壁，Fig.20)

1 灰褐色土層(耕作土) 2 黄褐色粘質土層(水田床土) 3 黄褐色土層
4 砂礫層 黒褐色の粘土を水平に含み、径2～3cmの礫を混入する砂層。 5 黒色土層。
6 砂層 しまりのあるややきめの細かい砂層。
7 砂層 6層と同質の鉄分沈殿砂層。
8 砂礫層 3～5cm前後の礫を多量に含む、しまりある粗砂層。
9 青灰色土層 上部の方が粘質が強いしまりのない土層。
10 黒色粘質土層 粗砂や極細白砂をブロック状に含む粘性土層。
11 砂層 泥炭を含む極細砂層で溝の覆土層。
12 灰青色土層 第9層に酷似した層で強粘性土層。
13 砂層 鉄分を含む粗砂層。
14 砂礫層 径5～6cmの礫を含む青灰色砂礫層。
15 砂層 しまりのない灰白色粗砂層。

Section 3 (C－5，C－6グリット南壁，Fig.20)

1 灰褐色土層(耕作土)。 2 黄褐色粘質土層(水田床土)。 3 茶褐色土層(第2層沈殿層)。
4 暗褐色粘質土層 (第3層の沈殿層)。 5 黒灰色混砂粘質土層 ブロック状に白砂含む。流木あり。
6 黒色粘質土層 粘性が強い。
7 白色砂層 泥炭層を挟む砂層。
8 暗灰色砂層 粘質が強い。
9 黒灰色粘質混砂粘質土層 ブロック状の砂が見える。
10 黒色粘質土層 粘性が強い。
11 灰色混砂粘質土層 白色砂と粘質黒色土の混合層。
12 礫層 有機物が混入した、花崗岩風化礫層。
13 砂層
14 暗灰色砂礫層 **弥生時代前期末**から**中期初頭**の土器片と流木を多量に含む。
15 黒色粘質土層 流木など有機物を多く含む泥炭層。

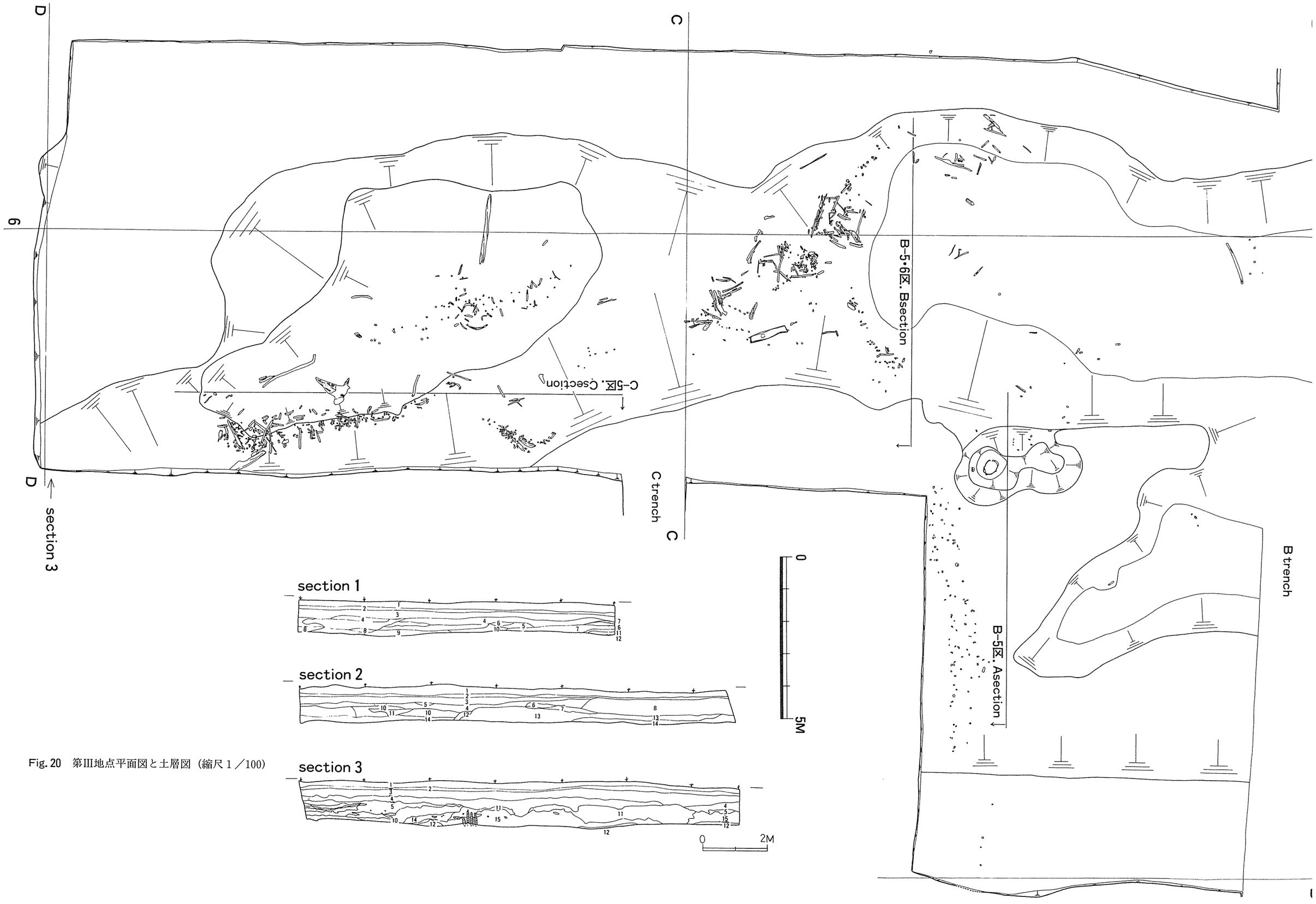
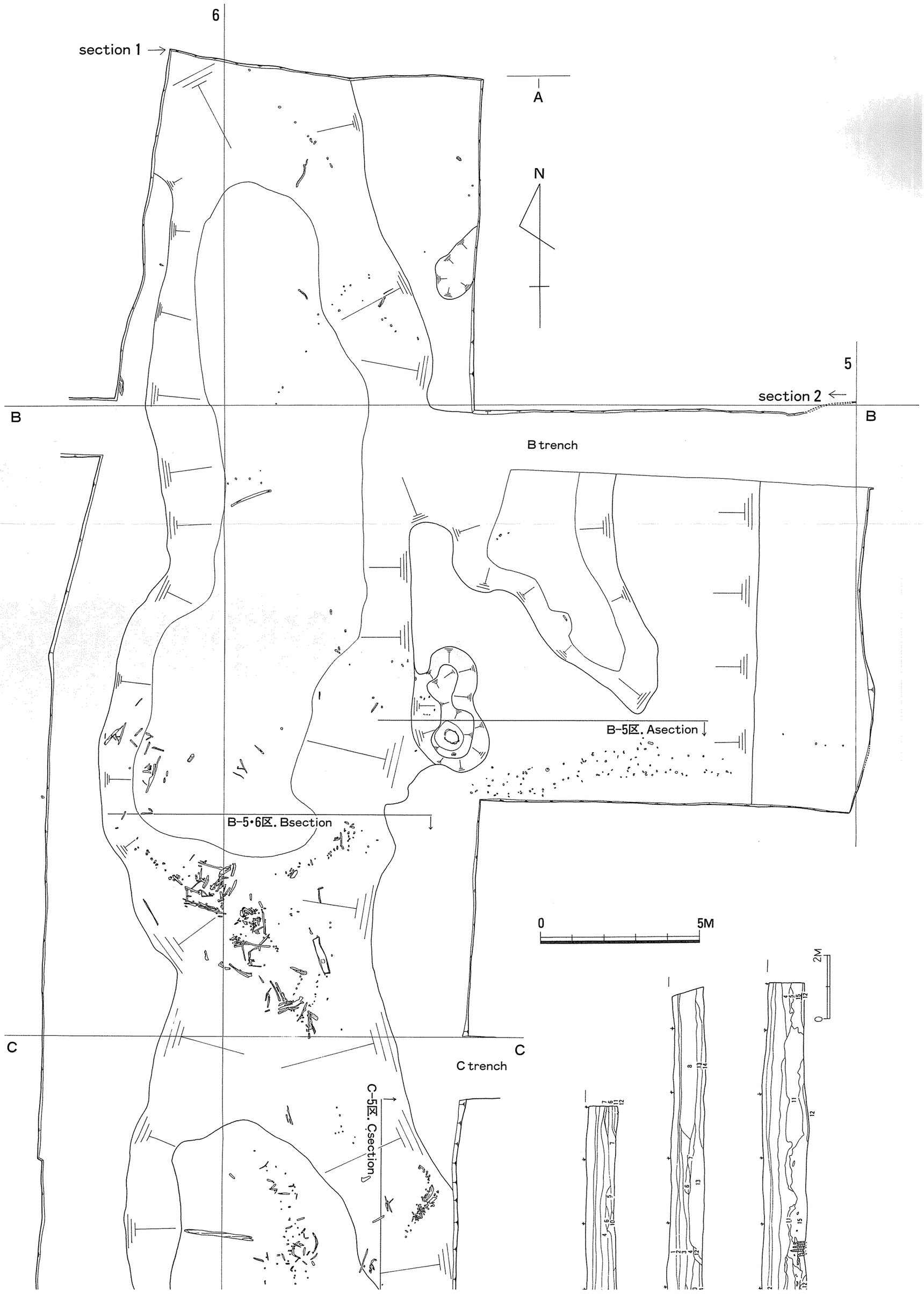


Fig. 20　第Ⅲ地点平面図と土層図（縮尺１／100）


6
section 1
A
N
5
section 2
B
B
B trench
B-5区. Asection
B-5・6区. Bsection
0
5M
C
C
C trench
C-5区. Csection
2M
0

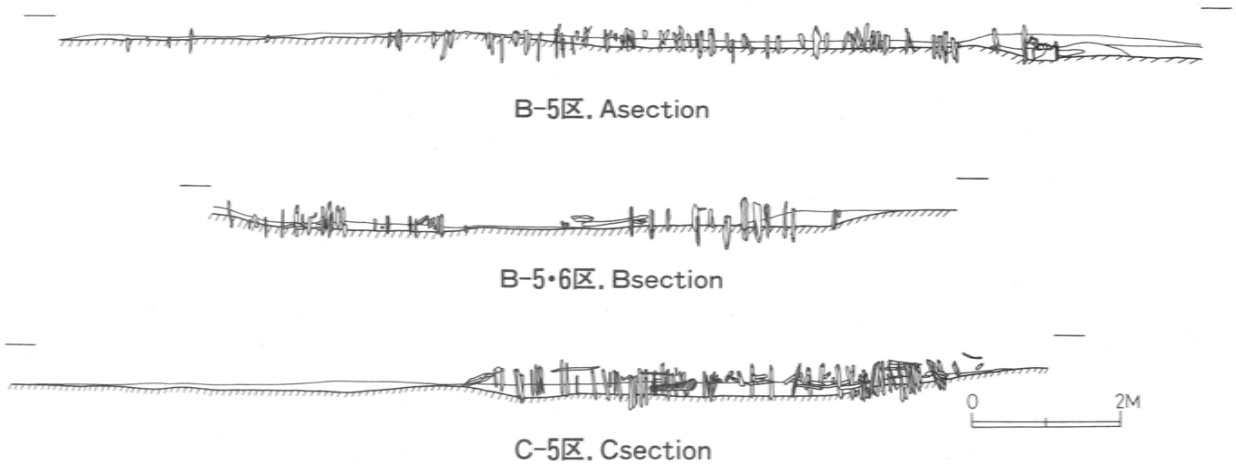


Fig. 21　第III地点杭列側面見通し図（縮尺１／100）

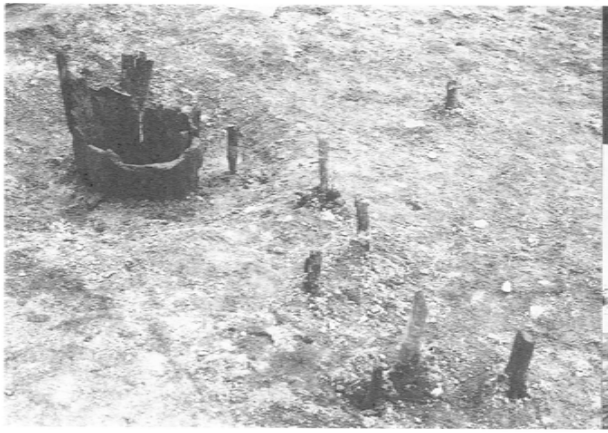


Fig. 22　Ｂ－５区杭列と桶

Fig. 23　Ｂ５・６区の杭列

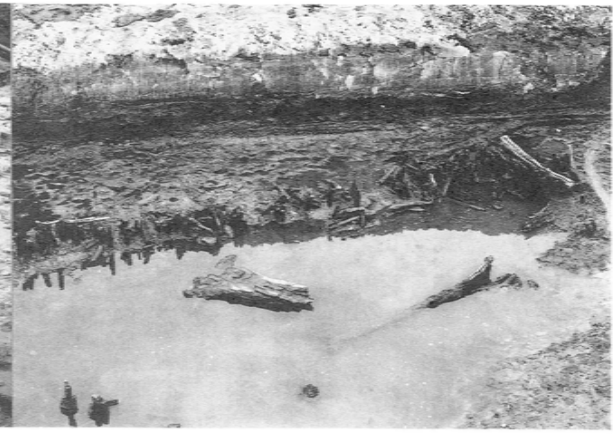


Fig. 24　Ｃ－５区の杭列

① 調査の概要 (Fig.20)

第III地点の調査区選定は第II地点と同じく水田の歴史的痕跡探求にある。

東部の台地が西へ舌状に張り出して緩やかに傾斜しながら低湿地の下に潜入している状態が見られる。西部は、自然流水の氾濫による砂及び砂礫層の堆積による微砂丘の状態が南北に長く形成される。東部の台地と西部の南北に長い微砂丘に挟まれた状態で黒色泥炭が堆積している。この黒色泥炭が弥生時代の水田関係の文化層である。

南北に長い黒色泥炭層では、多方位の杭列が検出されている。東部台地に沿って台地と平行に設けられたもの（C－5区Csection)、それと南北の泥炭面を寸断するかのように設けられたもの（B－5．6区Bsection)。意図するところが配水にあるのか土留めにあるのかは窺い知れないが、水田を意識したものであろうことは想像に難くない。BsectionとCsectionの西側が弥生時代中期の土器溜りである。B－5区Asectionの杭列は台地上を東西に流れ、低湿地へと向かうが、表土耕作土に近く現代に近い時期か、中世に営なまれたかの判断は難かしい。

南北に長い黒色泥炭部分を自然の小河川とみるか、人為的水路とみるか判断の分れるところであるが、土器溜りの状態は生産関係と見るより生活密着型の器種がそろっている。生産関係と把握される土器は口縁両端2孔穿孔の蓋付壺形土器があり、農耕生産用具としては木製農耕具が数点出土している。

いずれにしても杭列と土器や農耕具の出土状態は住居地域と水田に隣接した南北流水の小河川を想起させる。

② 出土遺物

弥生式土器
甕形土器

胴部上半に最大径をもち、内弯した胴上端より外反する口縁を有するもの、さらに外反する口縁部の口唇の下端に刻目を有するものがある。また直立した胴上端を平坦に保ち断面三角形の突帯で口縁部を形成するものがある。前者は板付II式土器の特徴を備え、後者は城ノ越式の様式を示している。前者、後者とも口唇部及び胴部上半部に回らした突帯に刻目を施されるが各型式の様式要素の範疇であって、各型式を逸脱した技法ではない。

鉢形土器

底部より斜上方に持ち上がった同部上端より外反する口縁部を有つものと、持ち上がった同部上端を口唇部となし舌状の断面を有するものがあって、板付II式土器の様式要素を備えているものがある。少数ではあるが、持ち上げられた胴部上端が平坦に整形されたものがあり、城ノ越式土器の領域に入る。

壺形土器

胴部と頸部との接合部に断面三角形の突帯をめぐらし、やや外反した頸部に、さらに外反する口縁部をもつもの、袋状の口縁部をもつもの、頸部上端をそのまま口縁部とするもの、外反する口縁部の内面に粘土を張り付け平坦な面を整形するものとがある。城ノ越式土器の様式の範疇に入るものである。

無頸壺形土器と蓋形土器

無頸壺形土器と蓋形土器は、両者口縁部端、及び裾部にそれぞれ穿たれた2孔をもっているところから製作段階から両者の組み合わせが意図されたものと考えられる。

壺形土器は天井部を緩やかな丸味で保ち、裾部の両端にそれぞれ2個ずつ計4個の穿孔をもつのが形態的特徴である。整形手法は、外面を刷毛で調整の後、丁寧な篦磨き、さらに篦による編笠風の暗文仕上げ、内面を刷毛による調整の後指による撫でが行なわれている。また穿孔は調整前に、外から内側に行なわれている。胎土を見ると砂粒、雲母長石粒などを含み堅緻な印象を与え、焼成はいたって良好である。色調は暗茶褐色ないしは暗黄土色といろいろあって、見る人によって複雑な印象をもたせるようである。また数は少ないが丹塗りのものもある。

無頸壺形土器は球形胴部上端に外反する舌状口唇をもつ口縁部を備えている。底部は中央部がやや内側に窪んだ上げ底である。口縁部の両端にそれぞれ2孔の穿孔がある。調整の手法は口縁部外面及び胴上部外面は横方向の篦研磨、胴下部外面は縦の篦研磨、口縁部内面は篦削、胴部内面は指撫でと篦削りの併用がみられる。胎土は砂粒子を混入させ堅緻さを保ち焼成はいたって良好。色調は淡赤褐色を中心に黄土色、茶褐色などがみられ、丹塗りも若干存在する。

様式要素からみて、板付II式土器の要素を保ちながら底部の上げ底など城ノ越式土器の要素を加えているところから城ノ越式土器に比定される。

蓋形土器と無頸壺形土器は他の器種に比較して多量である。稲の種籾の貯蔵や保存の目的がこの土器群に考えられないだろうか。

古墳時代以後

出土量はきわめて少ない。

高杯の脚部の土師器と須恵器の碗などがある。

古代中世の土師器系の高台付杯や糸切り平底の皿なども若干みられる。

弥生時代の木器

杭を観察すると原木をそのまま杭に転したものが多い。原木を割って杭とするものと矢板状に加工してあるものは数としては少数である。

木製鍬は樫状の樹木を加工したものと可視的に把握される。三又鍬などは62～64センチメートルの長さを保ち、厚さは2センチメートルの薄さである。大変緻密な技術を示している。その他にはスプーン状に加工したものもある。

加工木器の年代は伴う土器型式が城ノ越式土器であるところから弥生時代中期初頭に比定される。

本遺跡出土の木器は保存管理の未整備から、現存するものはない。記してお詫び申し上げる。

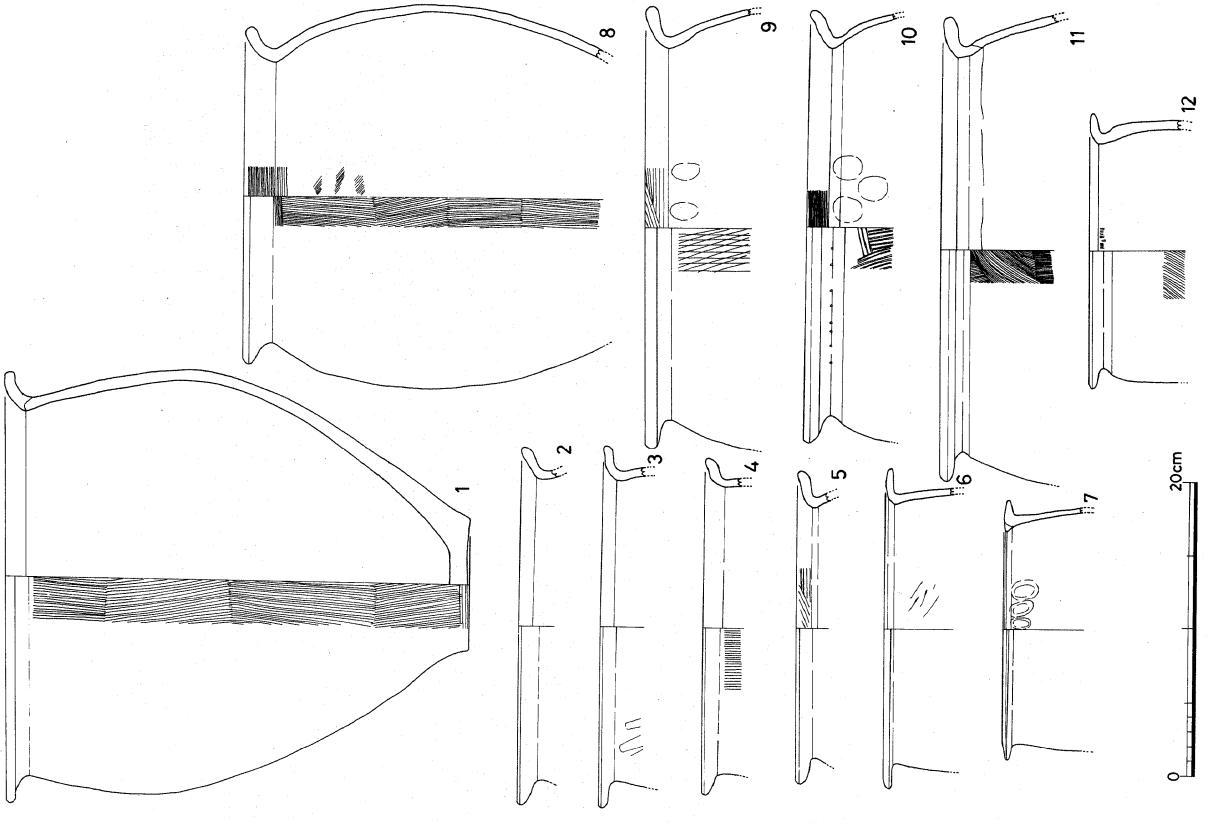


Fig. 26　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

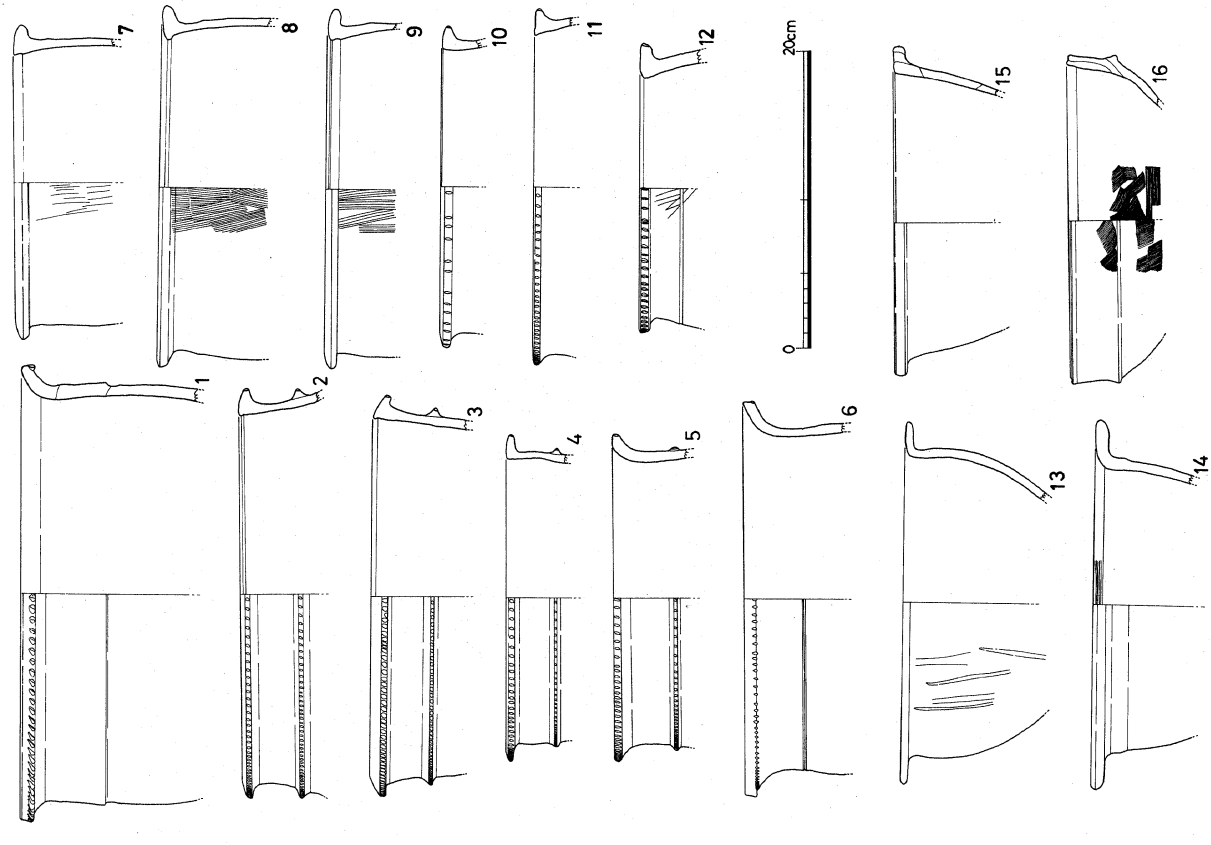


Fig. 25　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

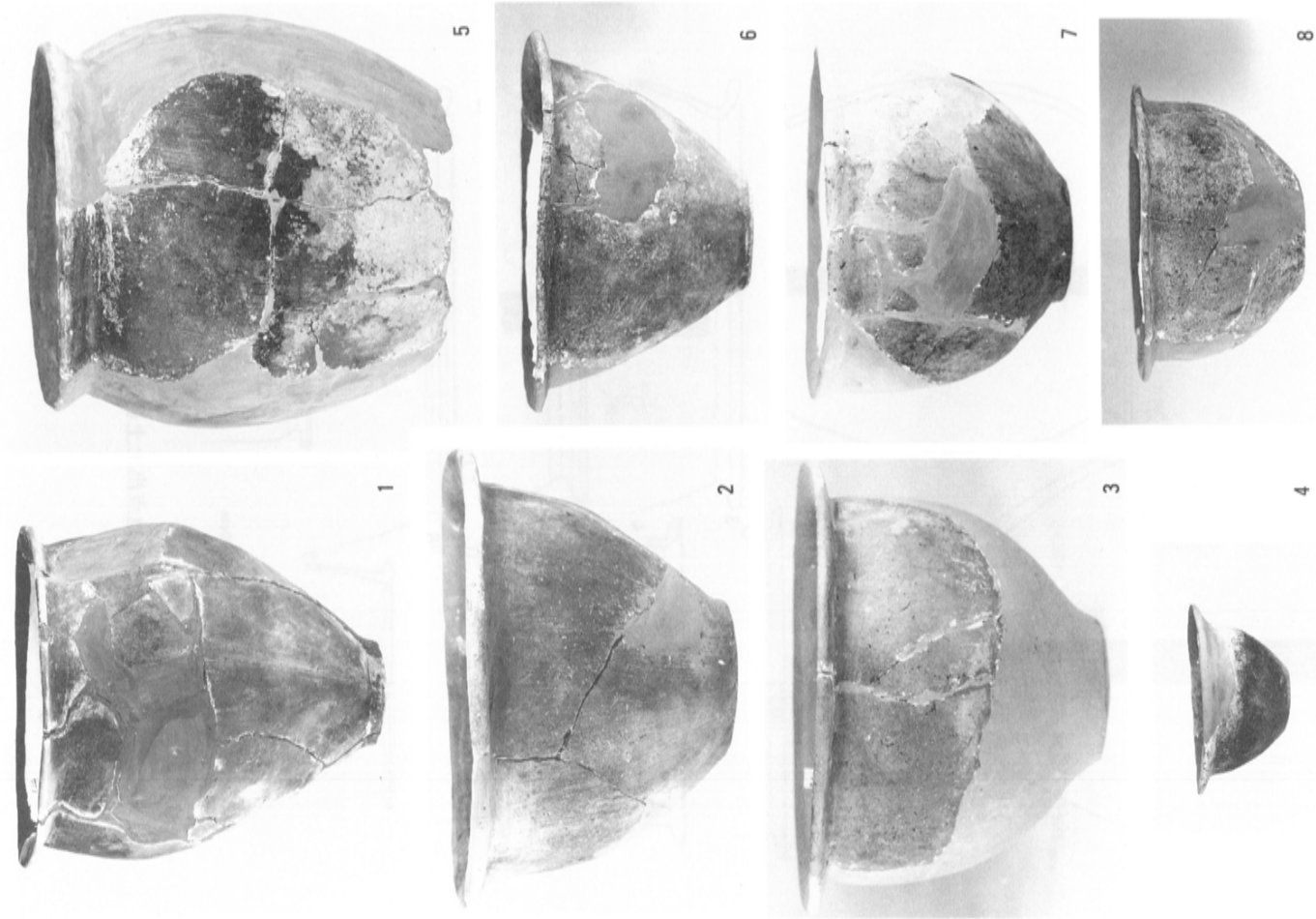


Fig. 28　第Ⅲ地点出土土器（縮尺１／５）

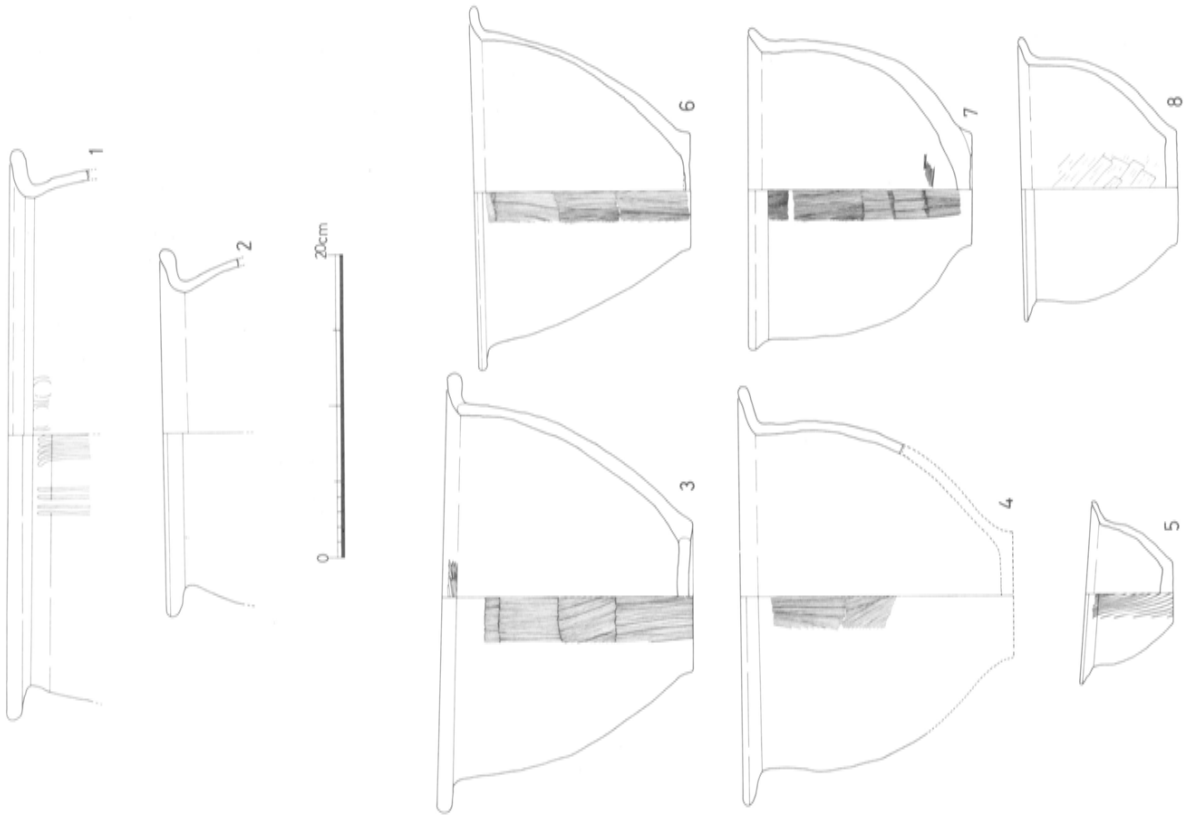


Fig. 27　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

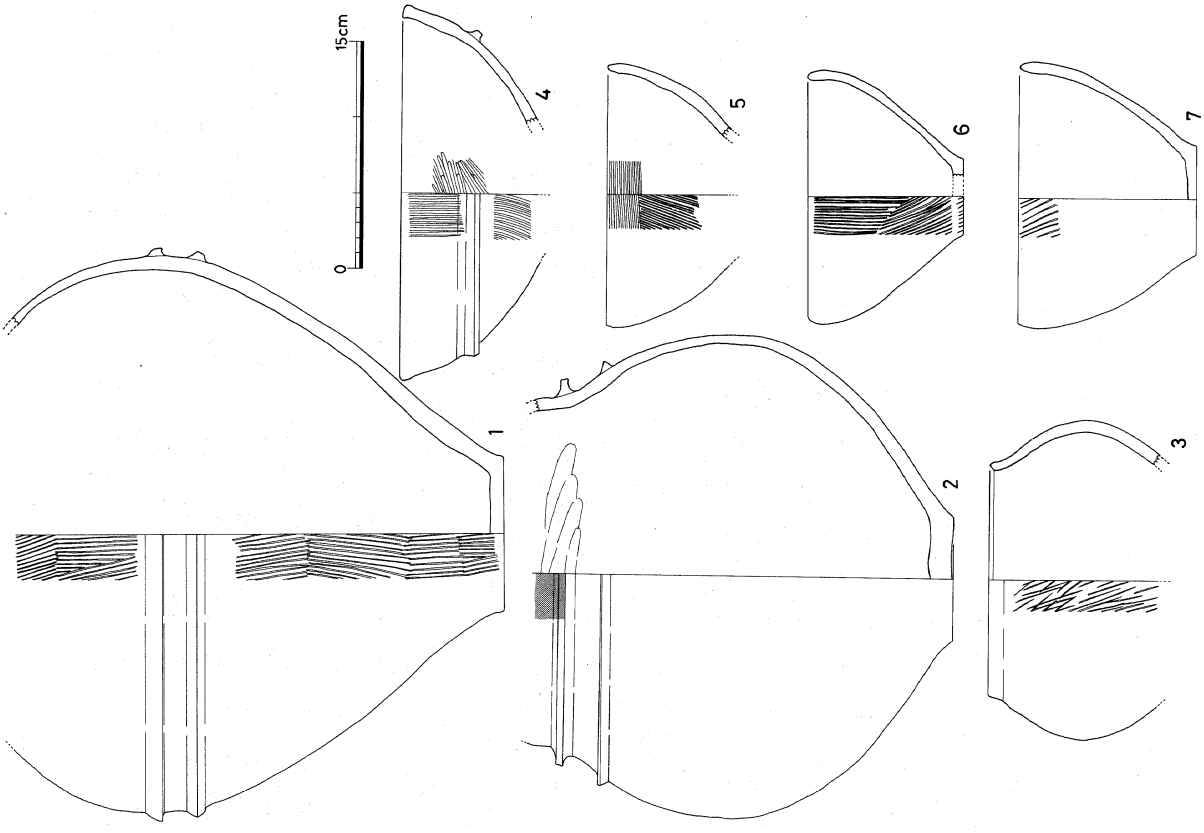


Fig. 30　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

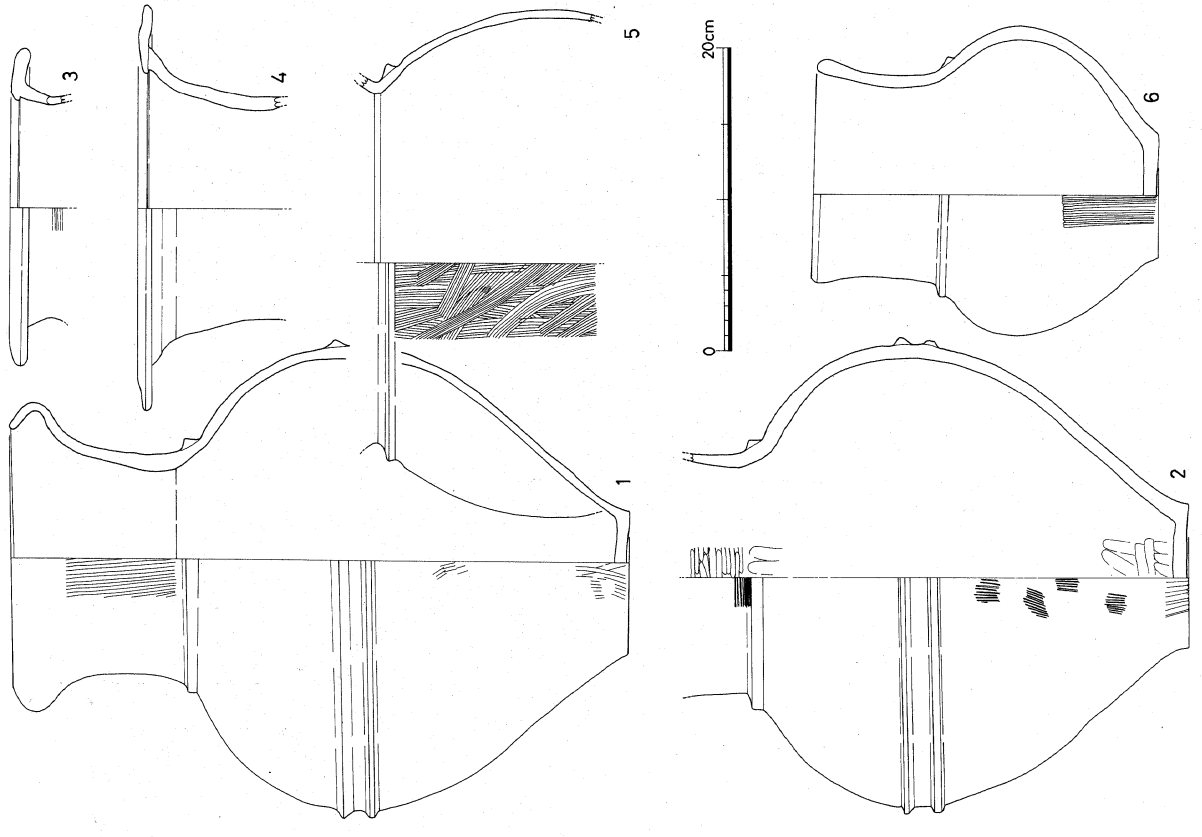


Fig. 29　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

Tab. 3 第Ⅲ地点土器観察表

Fig 図面番号	出土地点	品種・品部	法量			形態の特徴
25・1	B5砂層	甕口縁部	口径	※30		口縁部外反し、口縁端に刻目突帯、口縁下に強い横ナデにより稜ができる。胴は張らない。
25・2	B6砂層	甕口縁部	口径	※27.5		口縁端に刻み目がはいる。胴部にも刻目突帯が1条巡る。
25・3	B5砂層	甕口縁部	口径	※24		やや外傾気味の口縁端に刻目がつけられている。胴部にも刻目突帯が1条巡る。
25・4	B5・6砂層	甕口縁部	口径	※22		ほぼ直立した口縁端に刻目がつけられる。胴部にも刻目突帯が1条巡る。
25・5	B5・6砂層	甕口縁部	口径	※22		口縁部外反し、口縁上面は平坦、口縁端に刻目、胴部に刻目突帯が1条巡る。
25・6	B5・6砂層	甕口縁部	口径	※26.6		口縁部外反し、口縁端に刻目、胴部に鋭い沈線が1条巡る。
25・7	B5・6砂層	甕口縁部	口径	※21		ほぼ直立する口縁端の外側に短い張り出し部を作る。
25・8	B5・6砂層	甕口縁部	口径	※23		やや内傾する逆「L」字形口縁、外側への張り出しが弱い。
25・9	B5・6砂層	甕口縁部	口径	※24		上面が丸味をもつ逆「L」字形口縁、外側への張り出しが弱い。
25・10	B5・6砂層	甕口縁部	口径	※21.4		断面三角形の口縁、口縁端に細かく無秩序に刻目。
25・11	B5・6砂層	甕口縁部	口径	※24		断面三角形の口縁、口縁端に刻目、口縁上面は平坦
25・12	B6砂層	甕口縁部	口径	※19.4		逆「L」字形口縁、口縁端に刻目、胴部に沈線が1条巡る。
25・13	B5泥炭層	鉢底部欠	口径	※24.2		逆「L」字形口縁からやや胴が張り、底部へ至る。
25・14	B5・6砂層	鉢口縁部	口径	※25		逆「L」字形口縁からゆるやかにカーブしてすぼまる。
25・15	B5・6砂層	鉢口縁部	口径	※18		逆「L」字形口縁からゆるやかにカーブしてすぼまる。14程外側の張り出しが強くない。
26・1	BC砂層	甕	口径	28.6		「く」の字口縁、胴中位でややふくらみ、底部へすぼまる。底部ややあげ底。
26・2	BC砂層	甕口縁部	口径	※24.4		「く」の字口縁
26・3	BC砂層	甕口縁部	口径	※24.8		「く」の字口縁に近く、先端がはね上り気味
26・4	BC砂層	甕口縁部	口径	※21.2		
26・5	BC砂層	甕口縁部	口径	※21.2		
26・6	BC砂層	甕口縁部	口径	※21.7		逆「L」字口縁
26・7	BC砂層	甕口縁部	口径	※17.6		口縁は逆「L」字形を呈すが、内側張り出しが強く、口縁はやや下がり気味。
26・8	BC砂層	甕底部欠	口径	21.9		「く」の字口縁で、胴が張り、胴中位で最大径を呈す。
26・9	BC砂層	甕口縁部	口径	※30		「く」の字口縁で、先端が肥厚する。
26・10	BC砂層	甕口縁部	口径	※29.2		「く」の字口縁で、先端がややはね上る。
26・11	BC砂層	甕口縁部	口径	※31.2		「く」の字口縁で、先端が肥厚する。
26・12	BC砂層	甕口縁部	口径	※18.5		「く」の字口縁だが、上端は平坦に近い。
27・1	BC砂層	甕口縁部	口径	※37.4		「く」の字口縁
27・2	BC砂層	甕口縁部	口径	※24.4		「く」の字口縁で、口縁上端が凹み、先端が肥厚し若干はね上り気味。
27・3	BC砂層	鉢	口径	28.5	器高 16.8	口縁部は、「く」の字形に屈折し、先端が肥厚する。
27・4	BC砂層	鉢底部欠失	口径	17.8		口縁部は、「く」の字形に屈折し、外側への張り出しが強い。
27・5	BC砂層	鉢	口径	12.2	器高 6.2	小型の鉢、口縁部は「く」の字形に屈折し、ゆるやかにカーブして底部へ至る。
27・6	BC砂層	鉢	口径	23.4	器高 14.4	口縁部は「く」の字形に屈折し、上端が丸味をもつ、胴部はやや直線的にすぼまり底部へ至る。
27・7	BC砂層	鉢	口径	20.8	器高 14.8	短く外反した口縁からゆるやかにカーブして底部へ至る。底部端が肥厚。
27・8	BC砂層	鉢	口径	18.5	器高 10.5	口縁部は「く」の字形に屈折し、先端がややはね上り気味。

（※は復元値、単位：cm）

手法の特徴	胎土・焼成	色　調	備　考	写真
調整痕不明	砂粒を多量に含む　良好	外面 暗こげ茶色 内面 暗茶色	磨滅著しい	
横ナデ	砂粒を含む　良好	黄褐色		
調整痕不明	砂粒を含む　良好	暗茶褐色		
横ナデ	砂粒を含む　良好	灰褐色	外面煤付着	
横ナデ	砂粒を含む　良好	灰褐色		
調整痕不明	砂粒を含む　良好	黄褐色		
外面横ナデと粗い刷毛目	砂粒を含む　良好	こげ茶		
口縁部横ナデ　外面縦の刷毛目　内面ナデ	砂粒を含む　良好	外面 黒褐色 内面 黄褐色		
口縁部横ナデ　外面縦の刷毛目　内面ナデ	砂粒を含む　良好	黒褐色		
横ナデ	石英、長石粒を多量に含む良好	暗こげ茶色	鉄分付着	
横ナデ	砂粒を含む　良好	暗褐色		
外面刷毛目	砂粒を多く含む　良好	外面 薄茶色 内面 黒褐色		
口縁部横ナデ　外面ヘラ削り	砂粒を含む　普通	灰褐色		
横ナデ	砂粒を含む　良好	淡茶灰色		
調整痕不明	砂粒を含む　良好	暗茶褐色	磨滅著しい	
外面縦のヘラみがき　底部外面横のヘラみがき　口縁部と内面ヘラ削り	良好　堅緻	黒褐色	内、外面煤付着	Fig.28-1
調整痕不明	石粒を多量に含む　普通	明黄灰褐色	器面剥離著しい	
横ナデ	普通	暗青灰色	磨滅著しい	
横ナデ　口縁部くびれ部直下より縦方向の不明瞭な刷毛目	普通	暗黄灰色		
口縁部内面横の刷毛目　口縁部外面横ナデ	石粒を少量含む　良好	外面 明黄白褐色 内面 暗黄灰白褐色	丹塗(？)の痕あり	
内、外面共横ナデ	石粒を多量に含む　良好	暗灰褐色	丹塗(？)の痕あり	
丁寧な横ナデ	石英粒を少量含む　堅緻	暗灰褐色	薄手、端正な成形	
口唇部ヘラみがき　口縁内部刷毛目　胴部外面刷毛目	砂粒を含む　良好	外面 黒褐色 内面 暗褐色	外面煤付着	Fig.28-5
外面刷毛目　内面指ナデ	石英粒を含む　良好	黄褐色		
外面横ナデと刷毛目	石粒を含む　良好	淡黄褐色	くびれ部に刺突痕	
外面刷毛目	石英粒を含む　良好	灰黄色		
外面横ナデと刷毛目の後ナデ　内面ナデ	石粒を多量に含む　良好	暗灰褐色		
ヘラ削り後、横ナデ	砂粒を含む　良好	黄褐色		
横ナデ	良好	外面 黄灰白色 内面 暗黄灰白色	磨滅が著しい	
口縁部刷毛ナデ　外面ヘラみがき	小石を少量含む　良好	外面 赤褐色 内面 灰褐色		Fig.28-2
外面刷毛横ナデと刷毛目　内面指ナデ	砂粒を含む　良好	明灰褐色		Fig.28-3
内面指圧後、縦の刷毛ナデ　胴部外面ヘラ先端による縦の削り	砂粒多く含む　普通	灰褐色	外面煤付着	Fig.28-4
口縁部ヘラみがき　外面刷毛目　内面ヘラ削り	石粒を少量含む　良好	外面 暗褐色 内面 黒褐色		Fig.28-6
口縁部外面ヘラみがき　胴部外面縦の刷毛目　内面刷毛ナデ、ヘラみがき。	小石を少量含む　良好	外面 赤褐色 内面 茶褐色	外面煤付着	FiG.28-7
外面調整痕不明　内面刷毛横ナデとヘラ斜削り	不良	黒褐色	外面剥落著しい	FiG.28-8

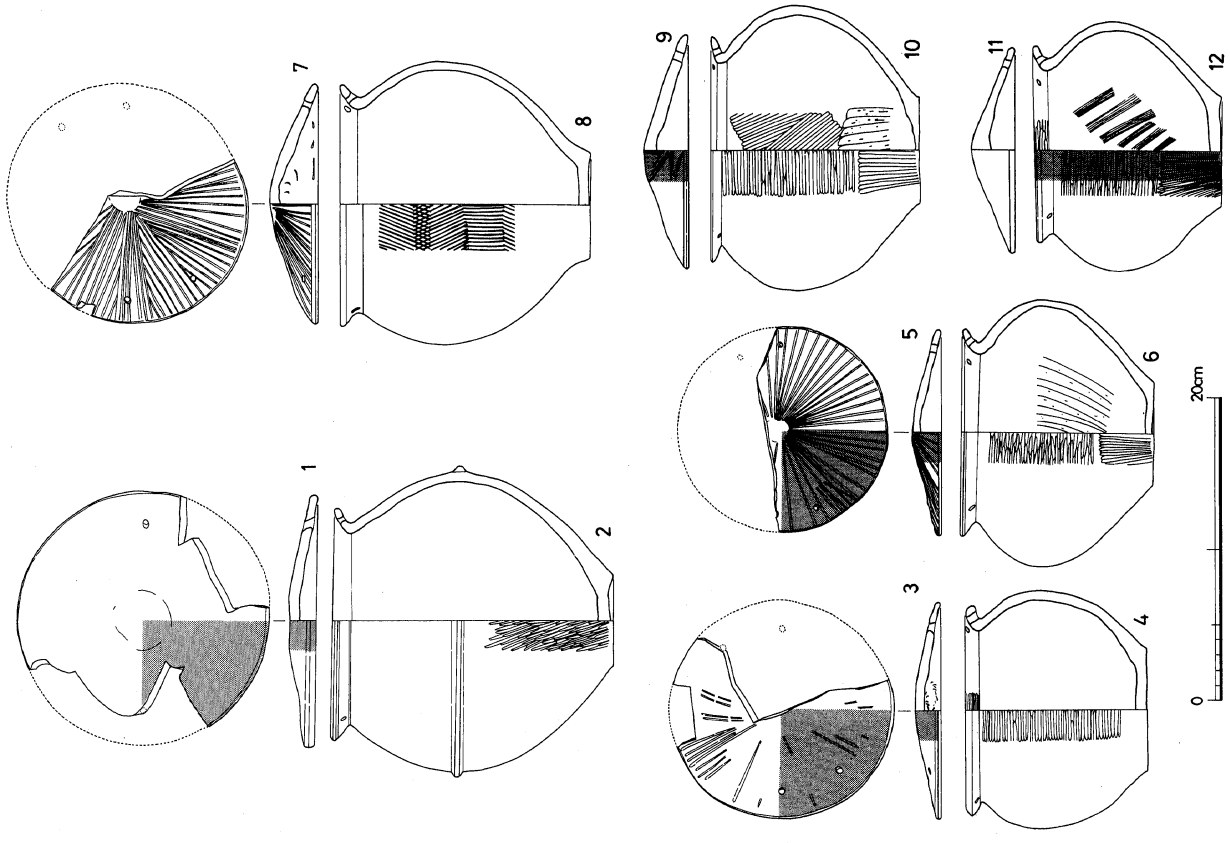


Fig. 32 第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

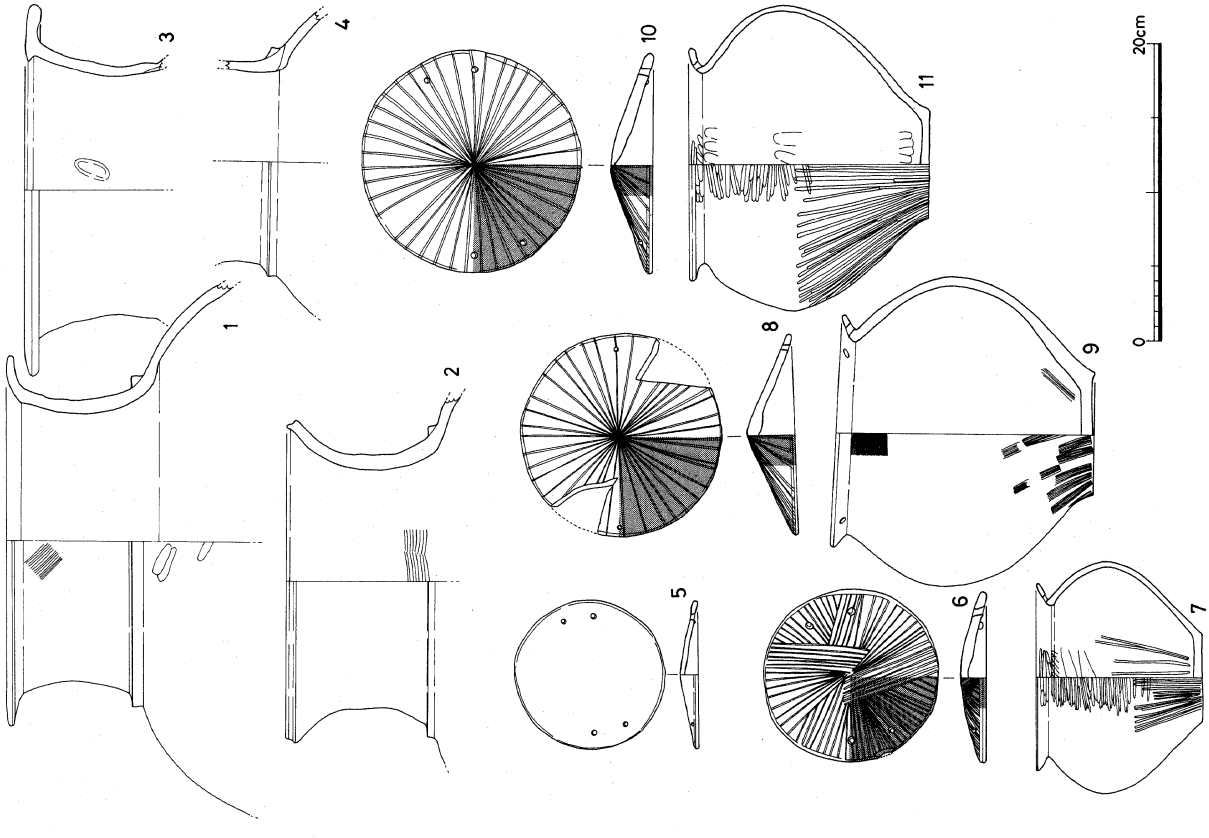


Fig. 31 第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

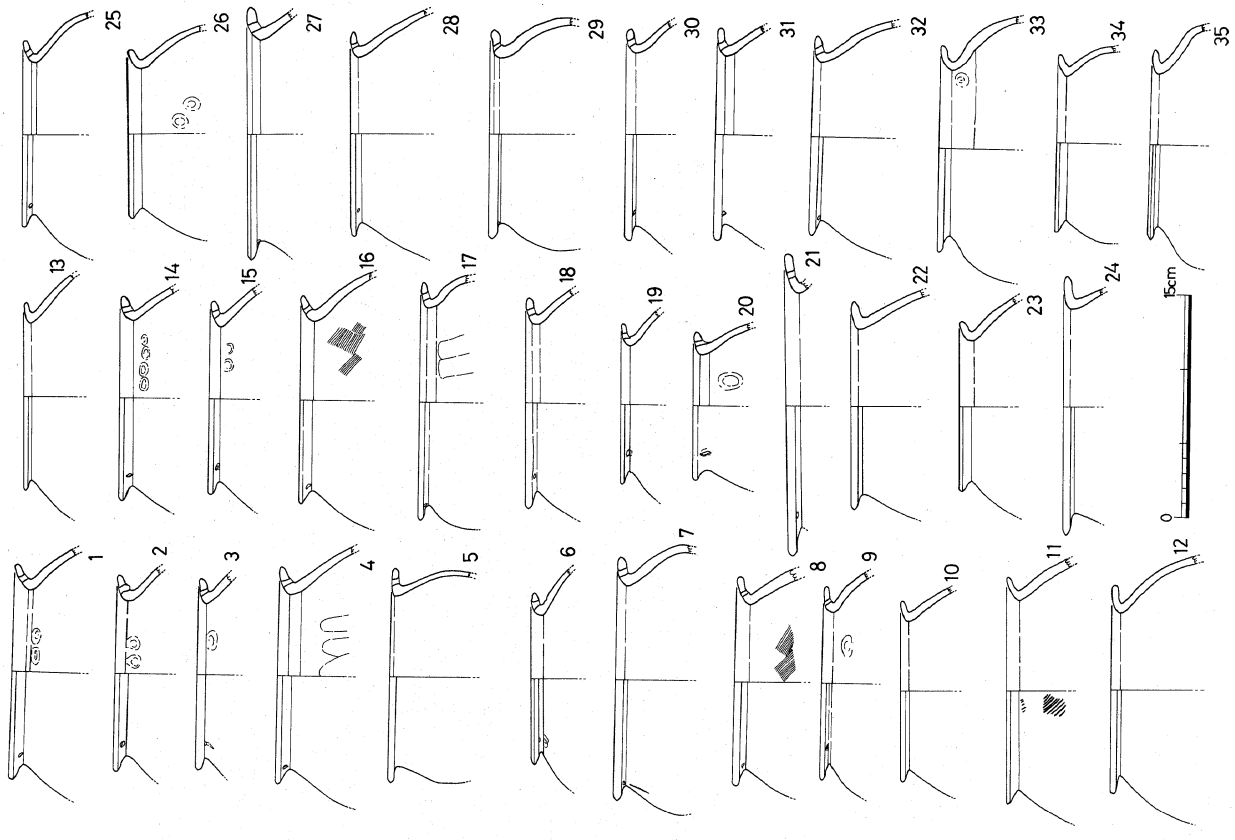


Fig. 34　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

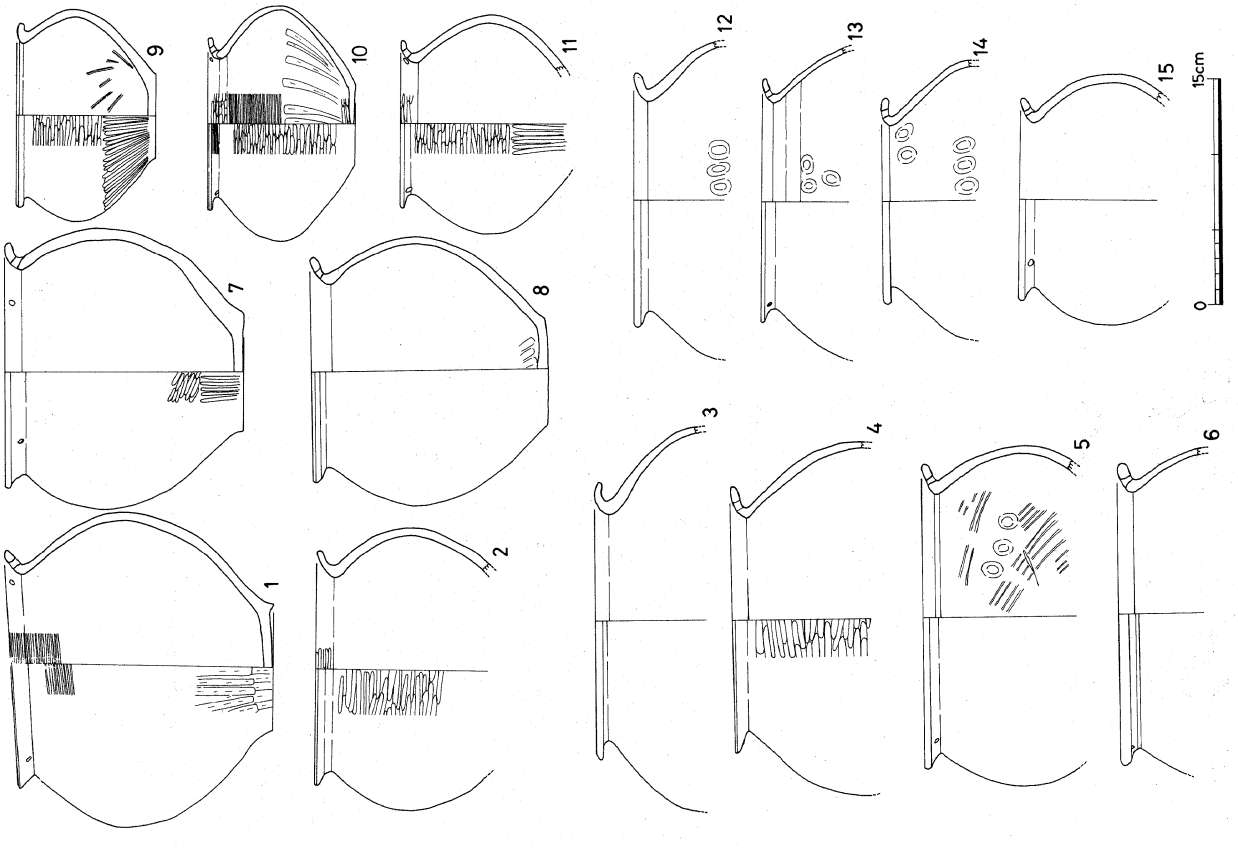


Fig. 33　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

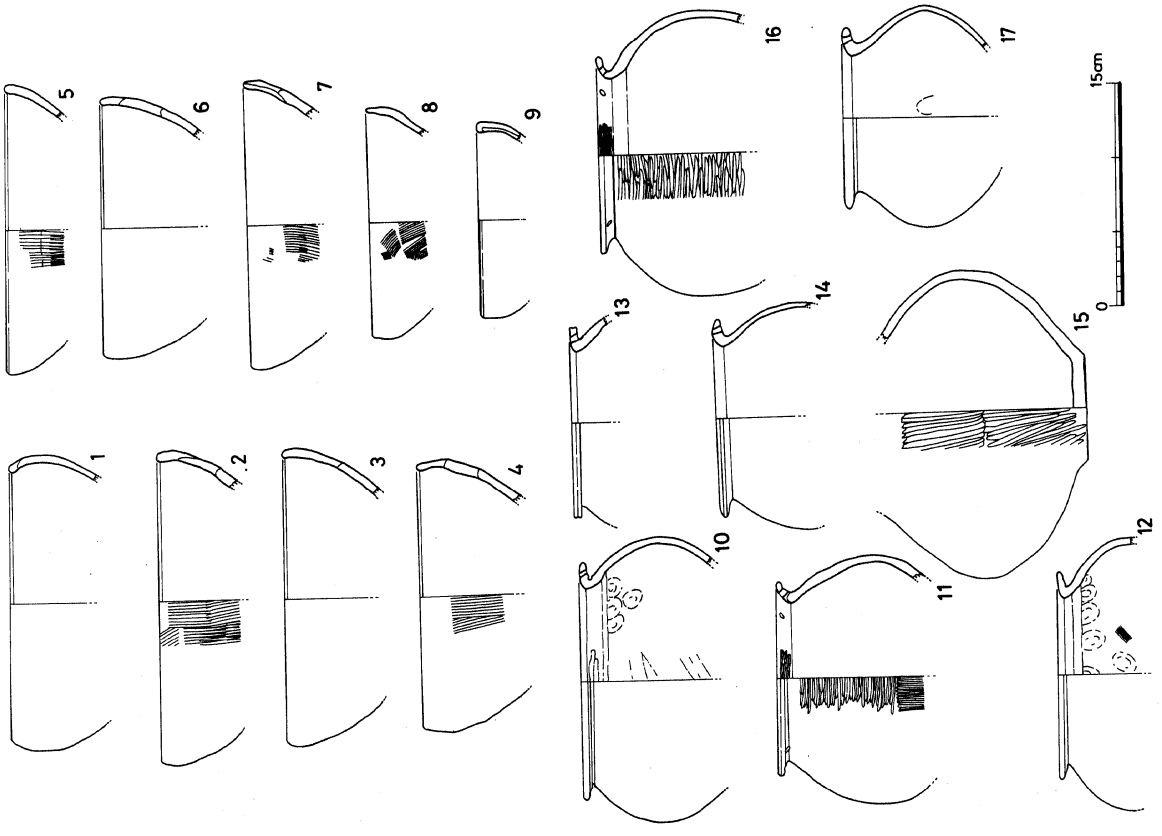


Fig. 36 第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

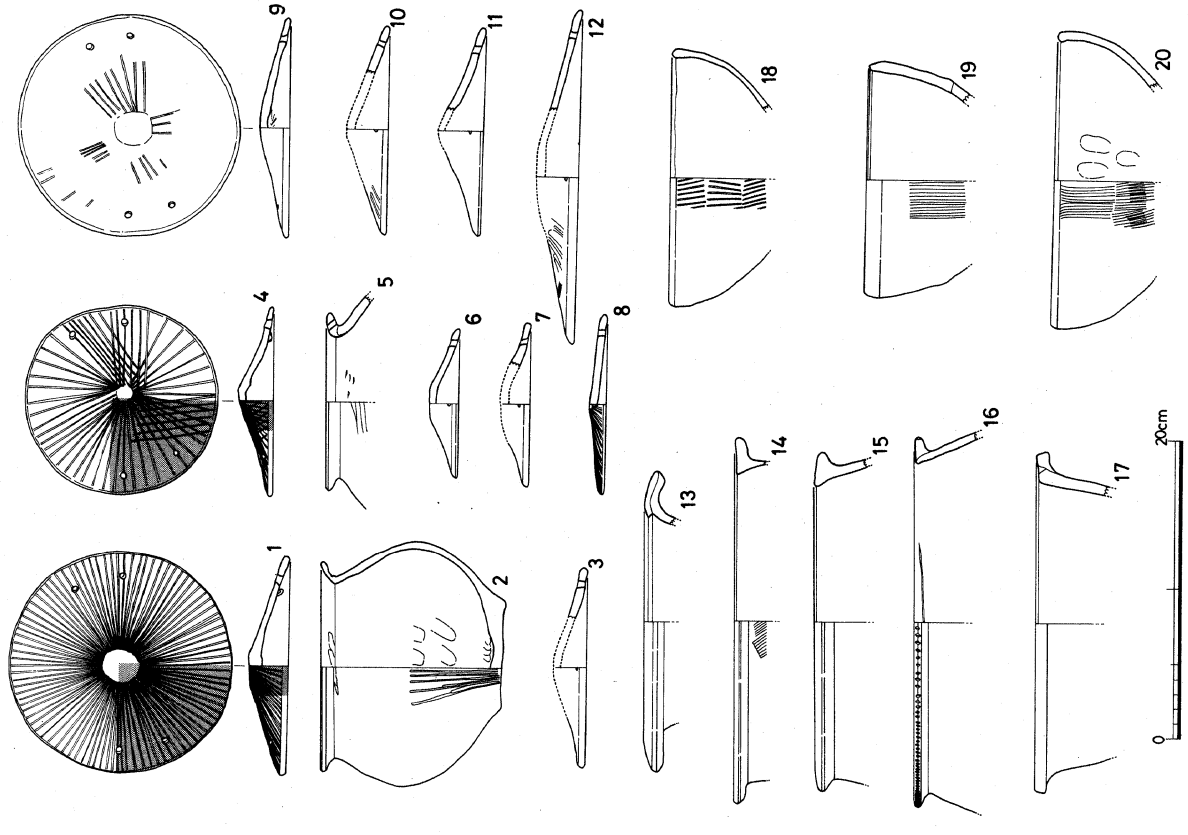


Fig. 35 第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

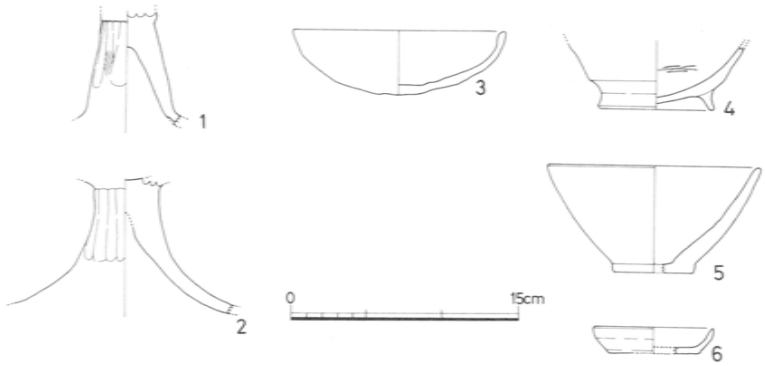
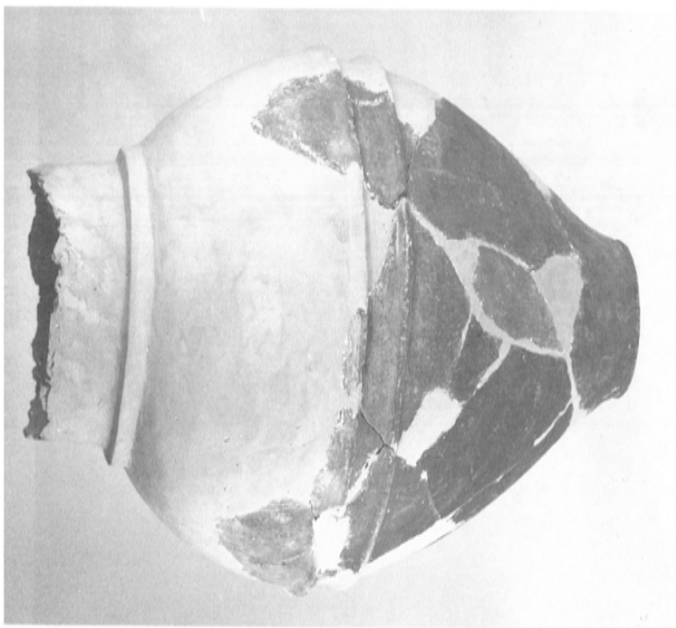


Fig. 37　第Ⅲ地点出土土器実測図（縮尺１／５）

Fig. 39　第Ⅲ地点杭列出土状況（南から）

Fig. 38　第Ⅲ地点杭列と桶

Fig. 40　第Ⅲ地点杭列出土状況（北から）


1

2

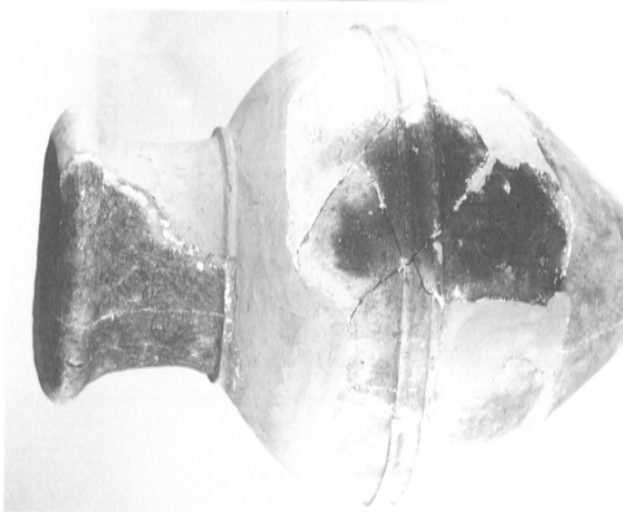
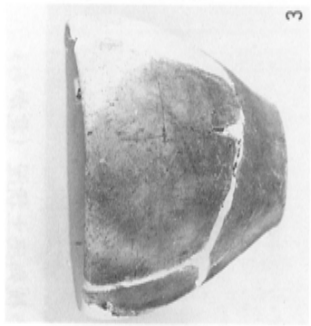
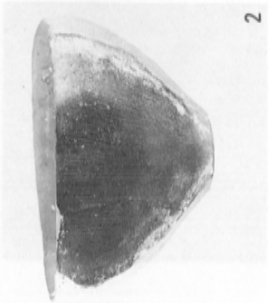
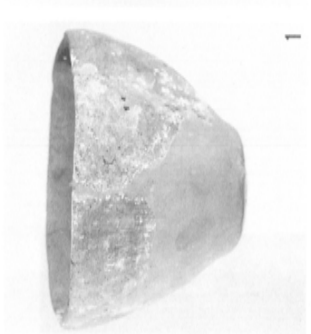
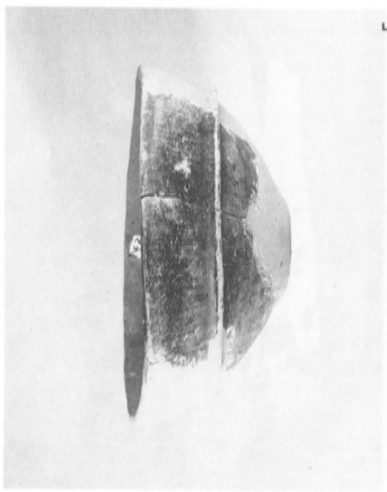

3

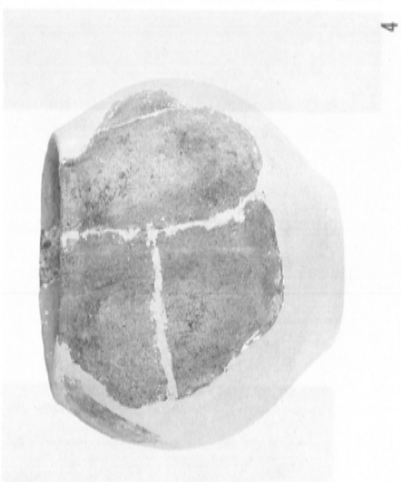
Fig. 41 第Ⅲ地点出土土器


1


2


3


4


5

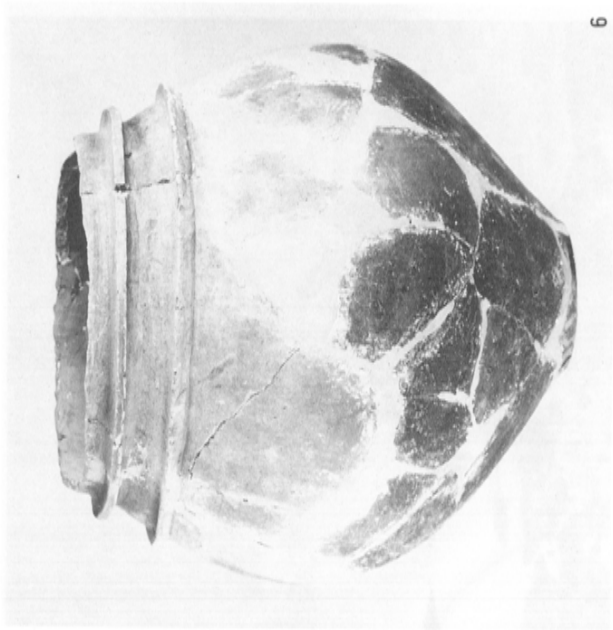

6

Fig. 42 第Ⅲ地点出土土器

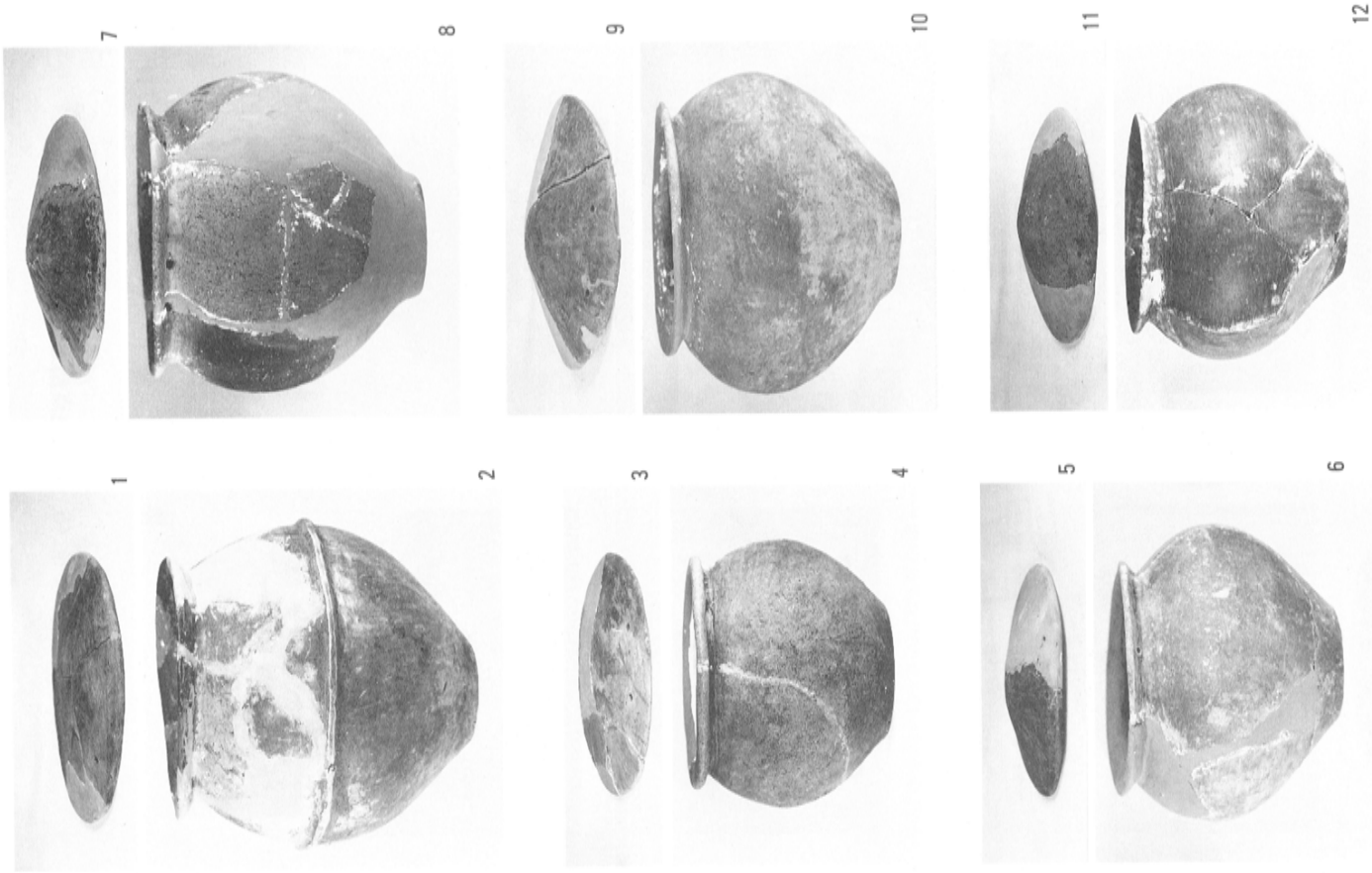


Fig. 44　第Ⅲ地点出土土器

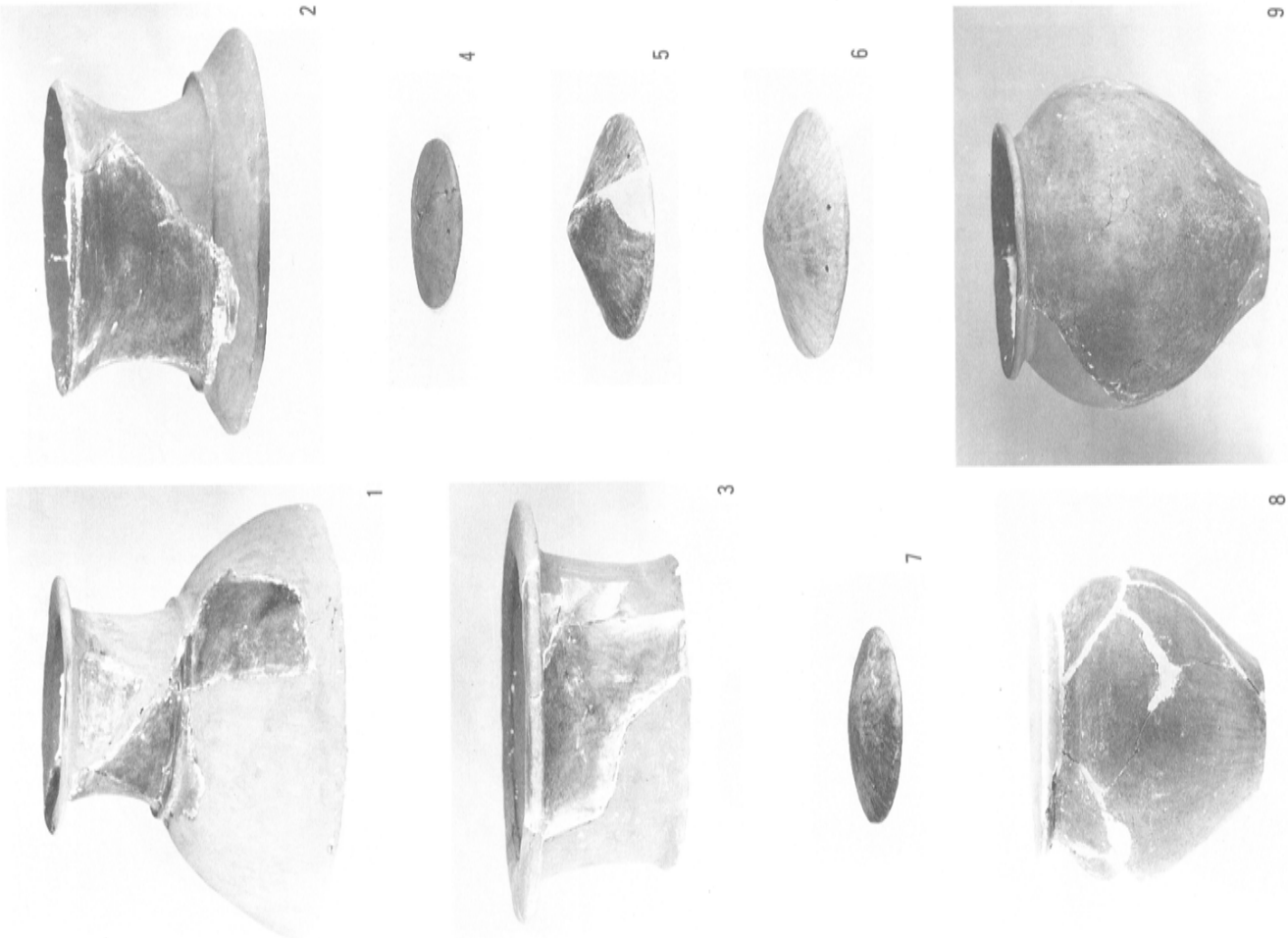


Fig. 43　第Ⅲ地点出土土器

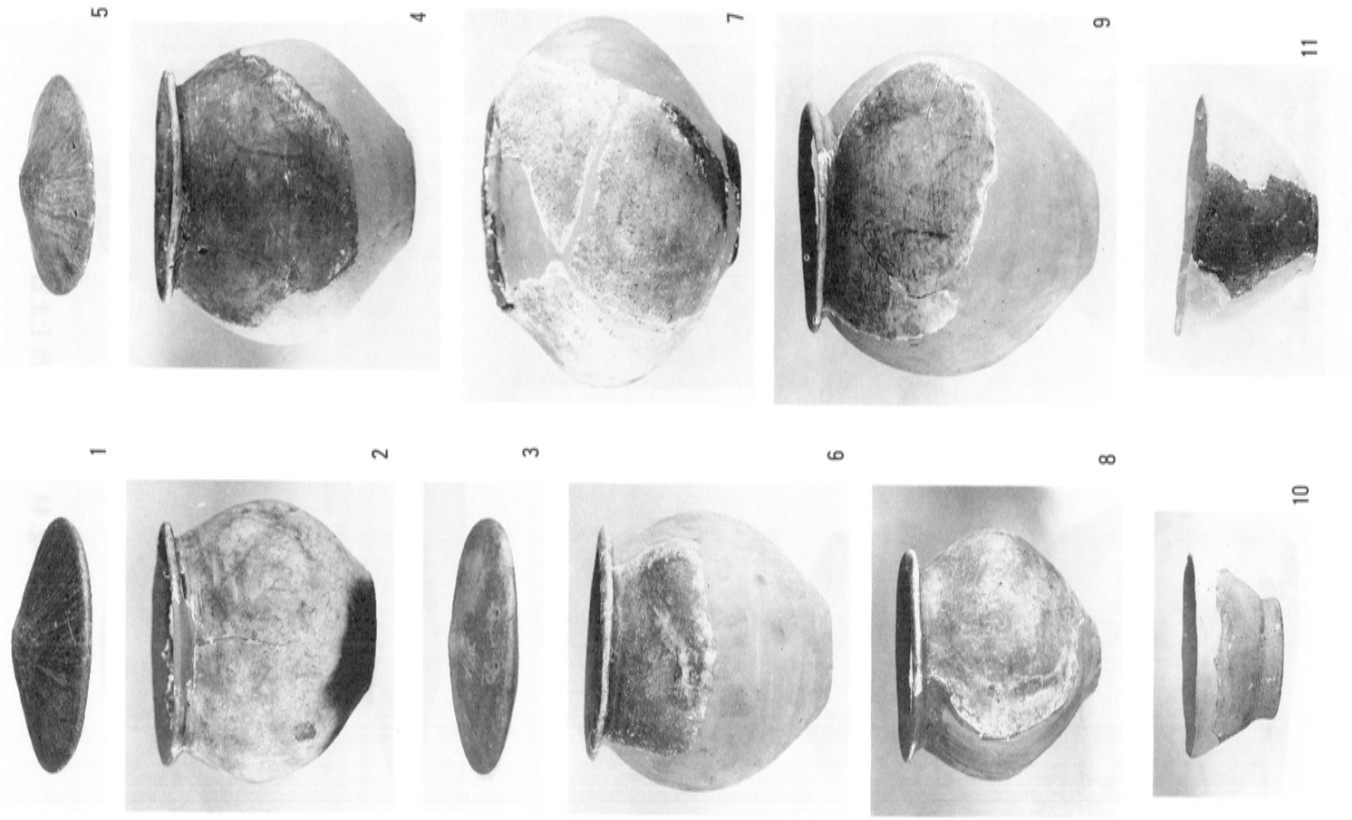


Fig. 46 第Ⅲ地点出土土器

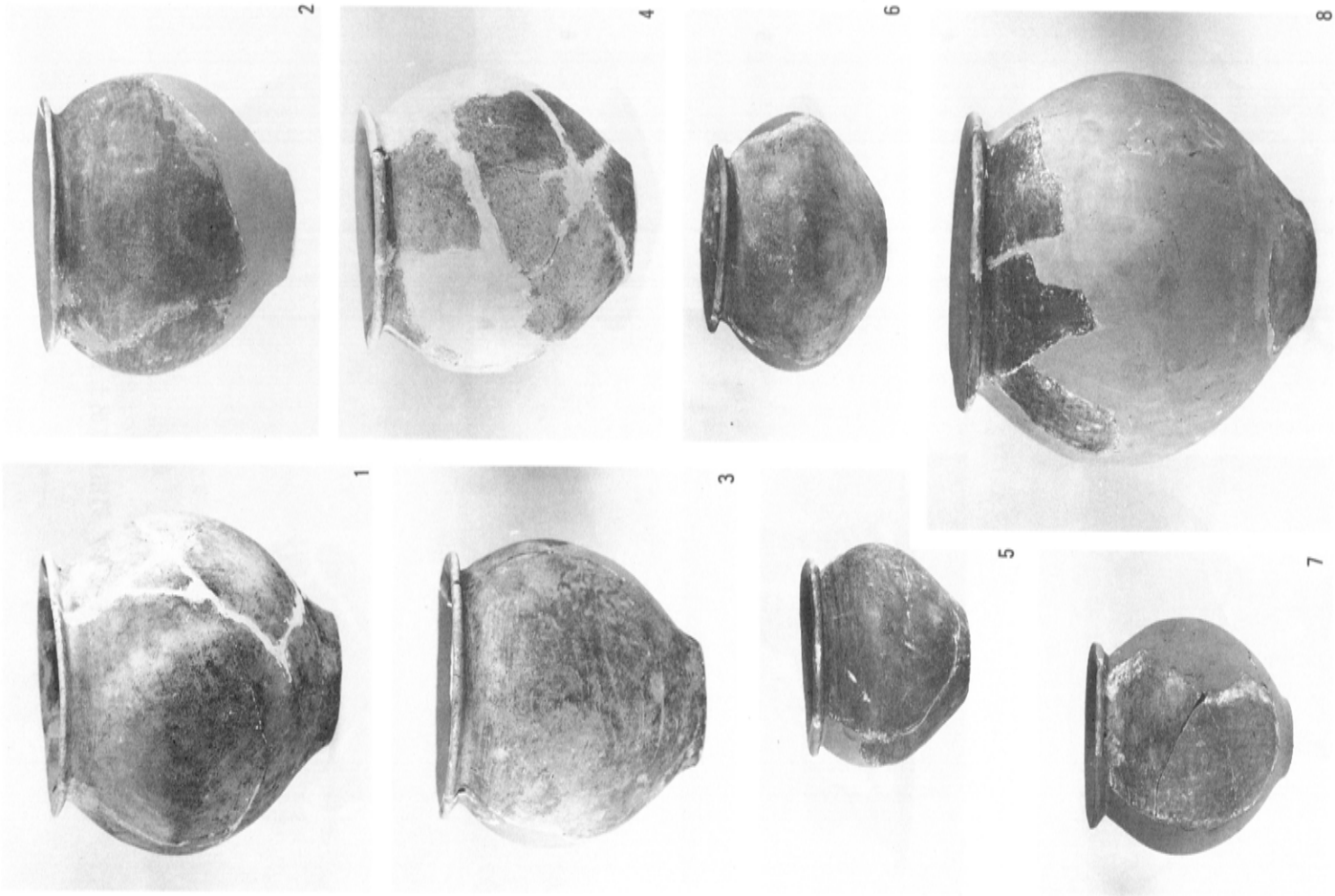


Fig. 45 第Ⅲ地点出土土器

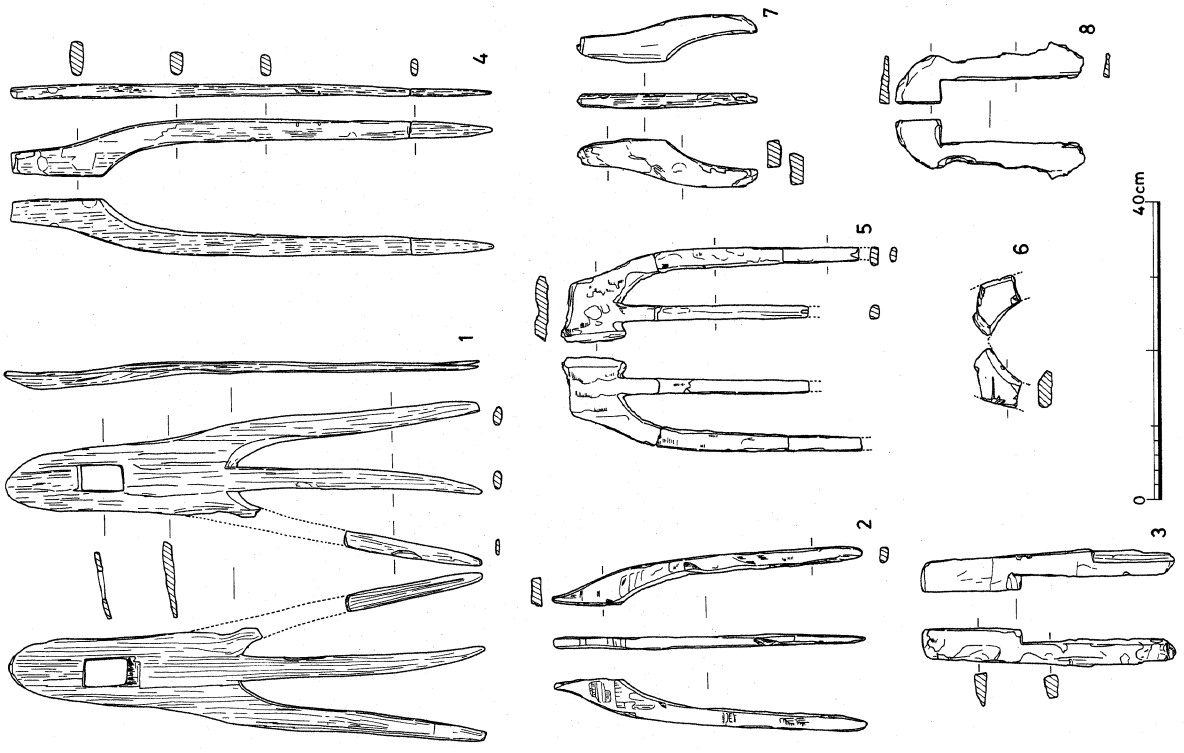


Fig. 48　第Ⅲ地点出土木器実測図（縮尺１／10）

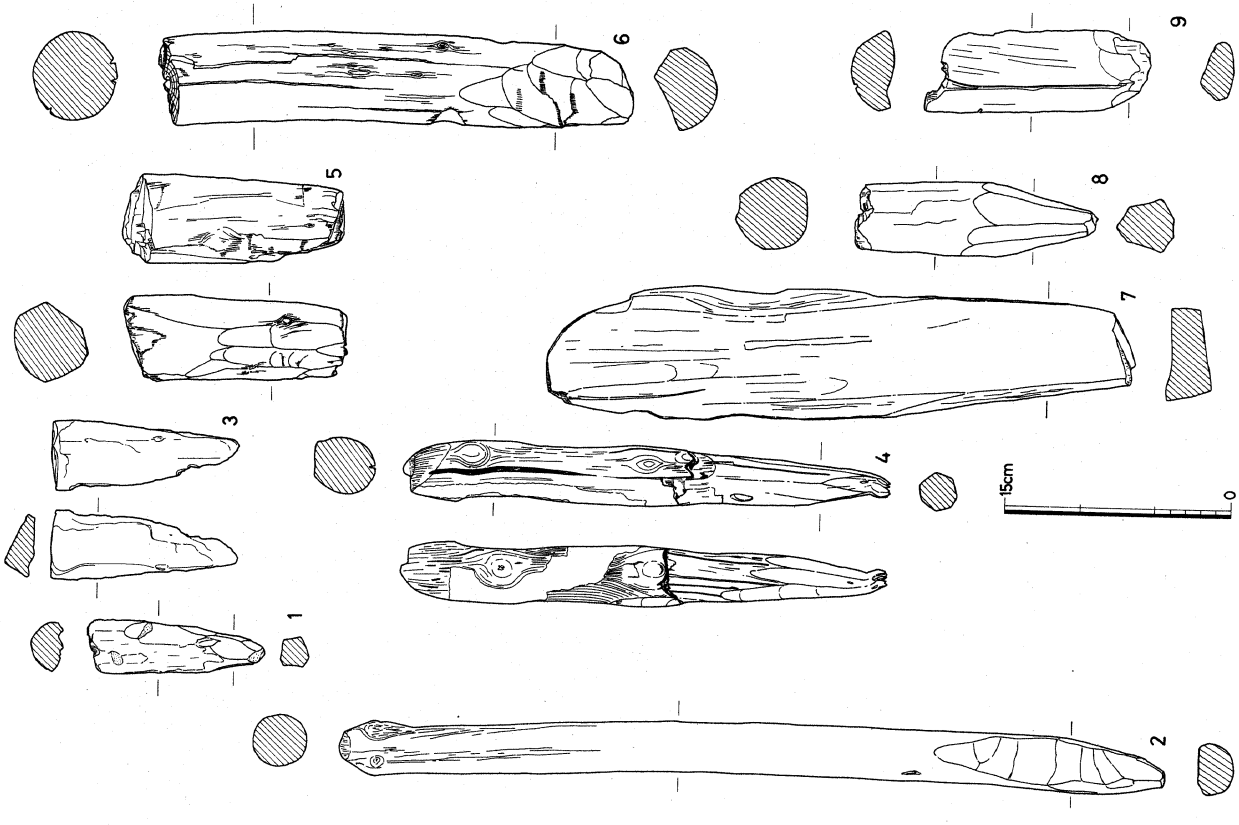


Fig. 47　第Ⅱ・第Ⅲ地点出土杭（縮尺１／５）

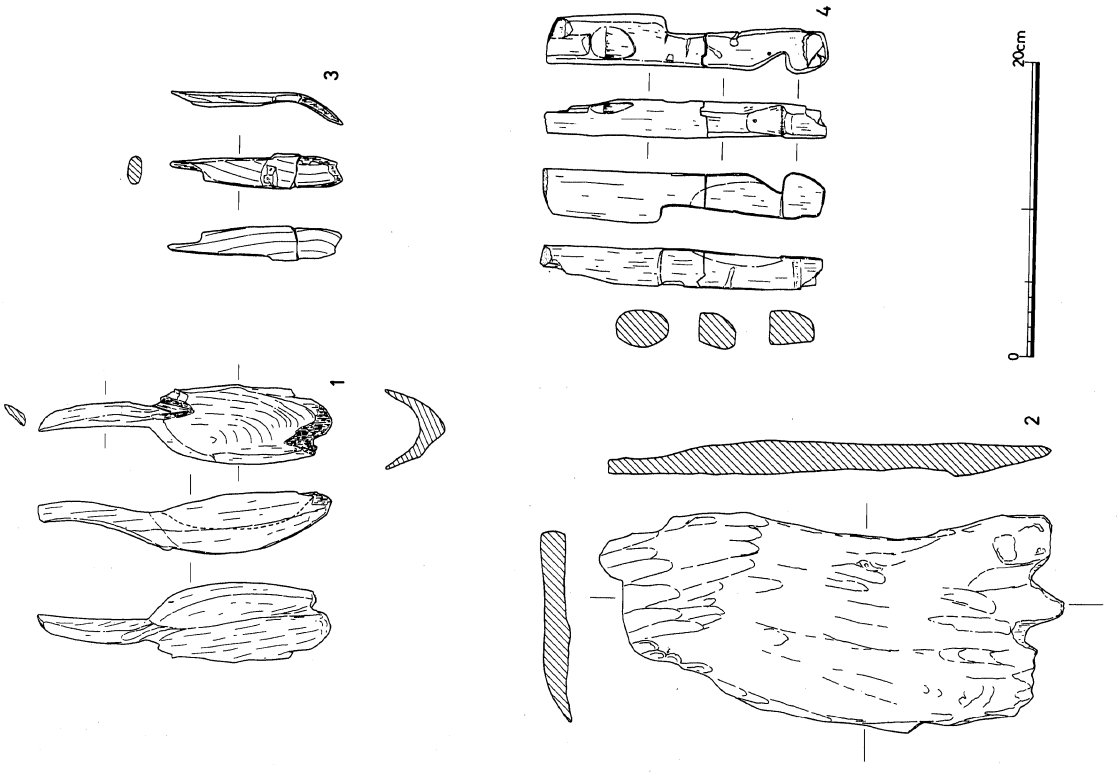


Fig. 50 第Ⅲ・Ⅳ地点出土木器実測図（縮尺１／５）

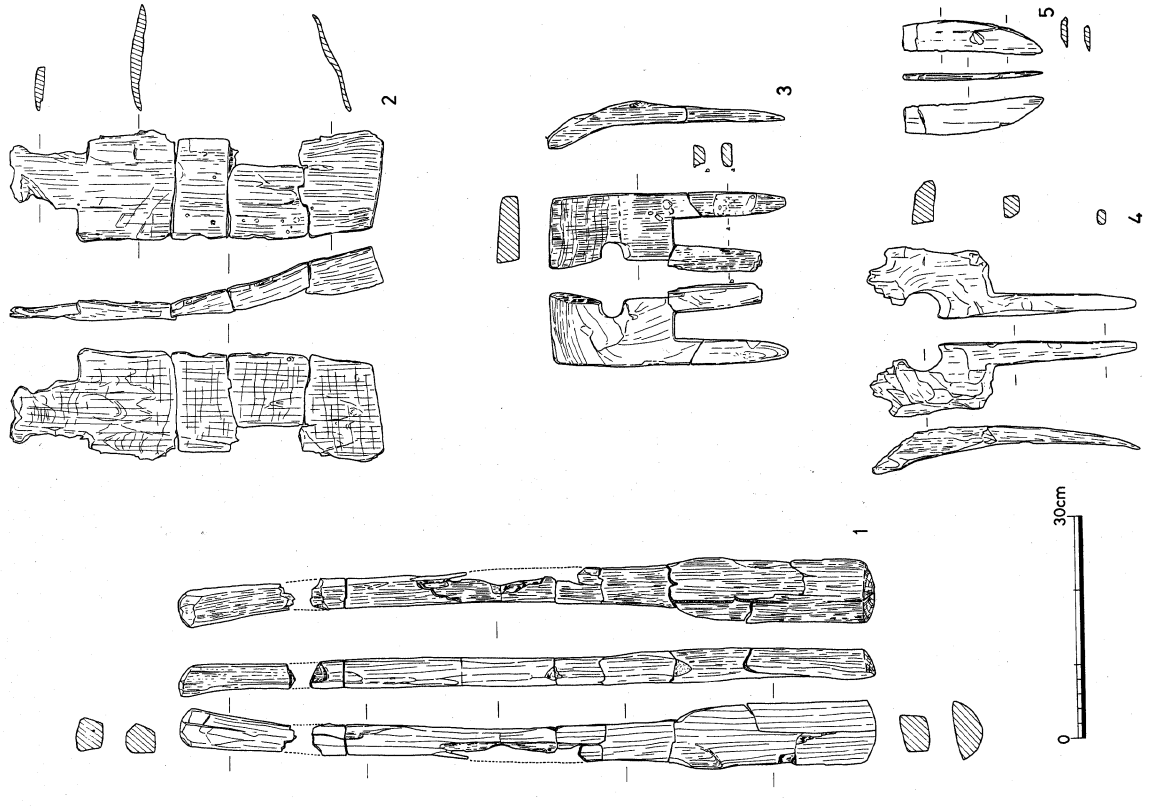


Fig. 49 第Ⅱ・Ⅲ地点出土木器実測図（縮尺１／10）

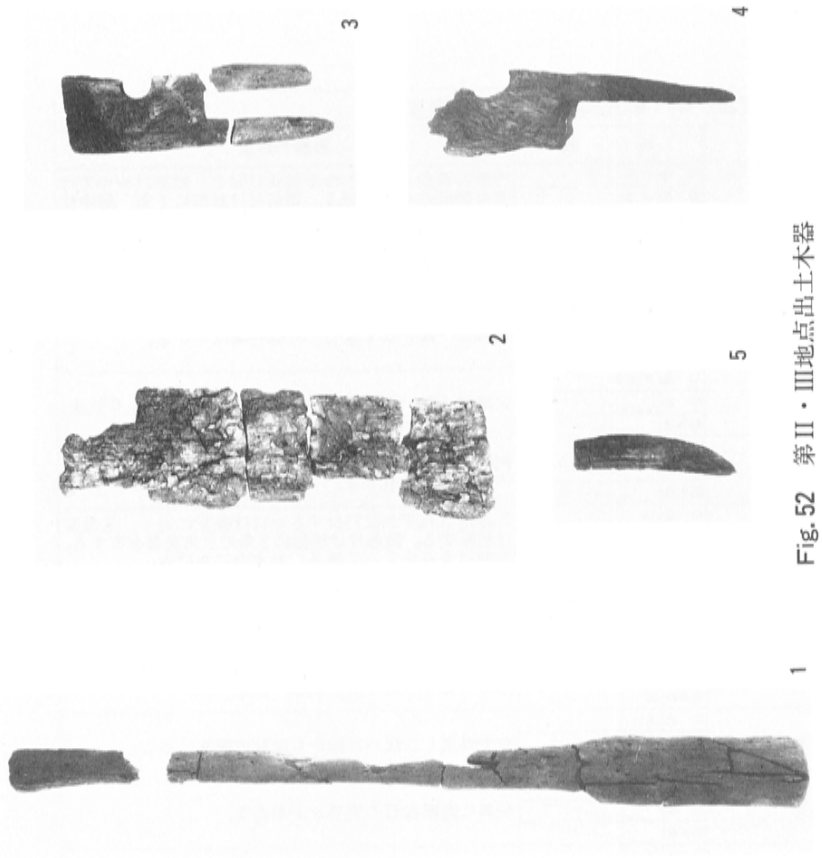


Fig. 52　第II・III地点出土木器

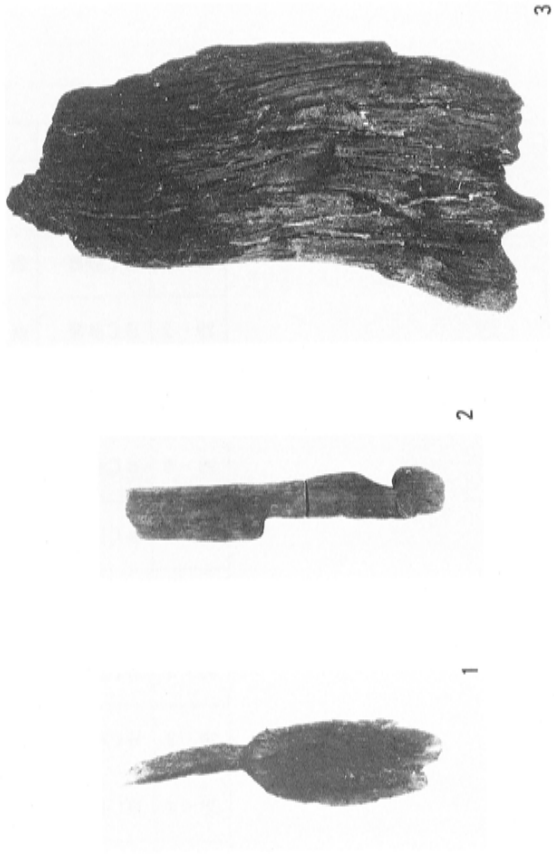


Fig. 53　第III地点出土木器

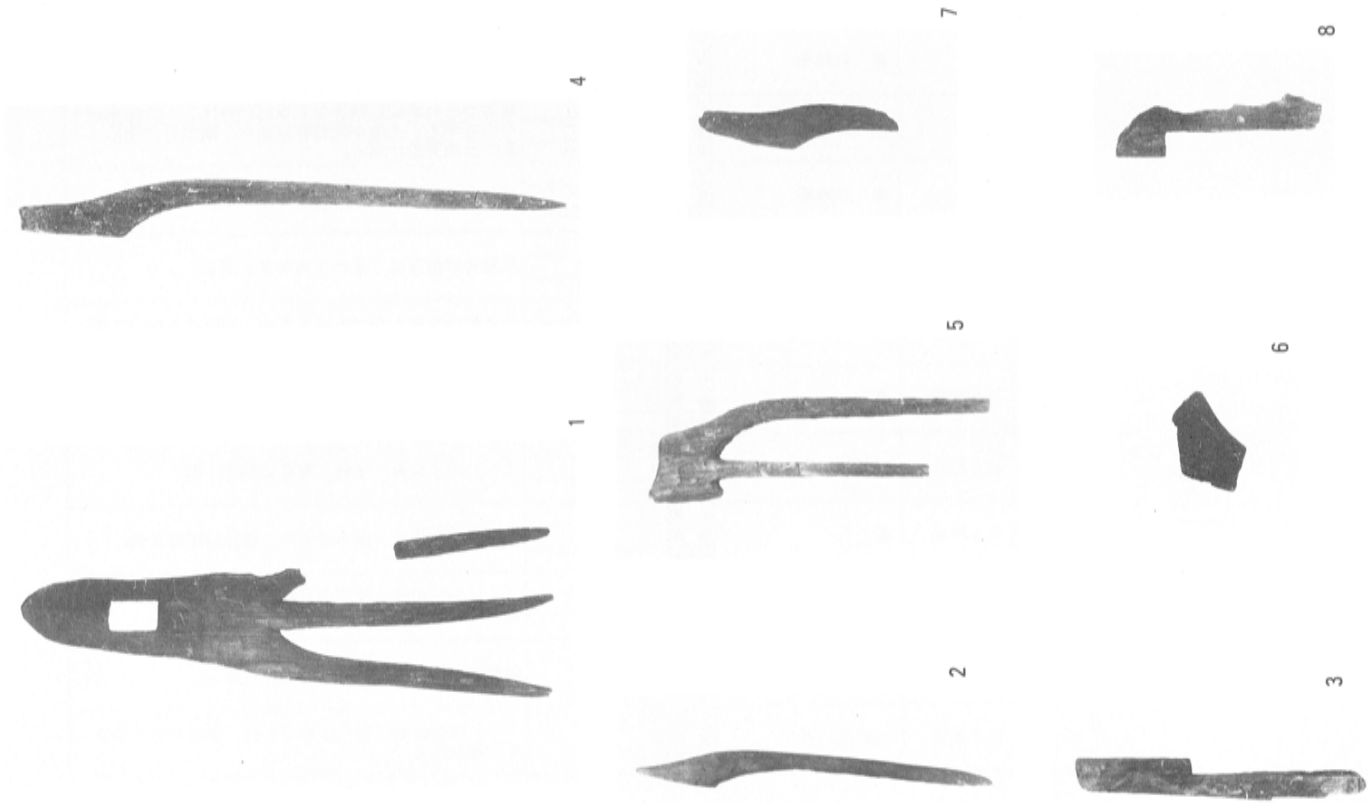


Fig. 51　第III地点出土木器

Tab. 4 第Ⅲ地点出土土器観察表

Fig. 図面番号	出土地点	器種・品部	法量		形態の特徴
29・1	BC砂層	壺	口径	17.2	内側に弯曲したいわゆる袋状口縁で、頸部はややすぼまり胴部が大きく張る。頸部付け根部に1条、胴中位に2条の三角突帯を有する。 ややあげ底
			器高	40.6	
			最大径	31.6	
29・2	BC砂層	壺 口縁部欠失	底径	9.5	胴部は大きく丸みをもって張る。頸部付け根部に1条の三角突帯、胴中位に断面三角と台形の突帯を各1条有す。底部ややあげ底。
			器高		
			最大径	31.5	
29・3	BC砂層	壺 口縁部	口径	※21	口縁は「鋤」状を呈し、口縁外端は下がる。
			器高		
			最大径		
29・4	BC砂層	壺 口縁部	口径	※26.7	口縁は「鋤」状を呈し、口縁外端はややはね上り気味。
			器高		
			最大径		
29・5	BC砂層	壺 胴部	口径		胴部は大きく丸みをもって張る。頸部付け根部に1条の三角突帯を有する。
			器高		
			最大径		
29・6	BC砂層	壺	口径	14	口縁部はわずかに外反するがほぼ直立に近く、先端部は肥厚する。頸部付け根部に1条の三角突帯を有する。胴部は丸みをもって張る。わずかにあげ底。
			器高	22.8	
			最大径	20.5	
30・1	BC砂層	壺 口縁部欠	底径	10.2	胴中位よりやや上に、断面台形の突帯2条、胴上部で大きく張って平底の底部へ至る。
			器高		
			最大径	38	
30・2	BC砂層	壺 口縁部欠	底径	8.2	胴上部に断面台形と三角形の突帯各1条、胴部は球状に張ってややあげ底の底部へ至る。
			器高		
			最大径	32	
30・3	BC砂層	壺 底部欠	口径	※15.1	やや外反した短い口縁から球形の胴部に至る。
			器高	※15.2	
			最大径	※21.0	
30・4	BC砂層	鉢 底部欠	口径	※24.3	胴部に断面台形の突帯が1条巡る。
			器高		
			最大径		
30・5	BC砂層	鉢 底部欠	口径	16.0	丸くおさめた口縁よりそのまますぼまる。
			器高		
			最大径		
30・6	BC砂層	鉢	口径	※16.0	同上
			器高	※10.3	
			最大径	※16.7	
30・7	BC砂層	鉢	口径	※16.8	同上
			器高	11.8	
			最大径		
31・1	B5	壺 口縁部	口径	※24.9	口縁部は大きく外へ屈折する。頸部付け根部に1条の三角突帯が巡る。
			器高		
			最大径		
31・2	B5	壺 口縁部	口径	※20.8	頸部から口縁部は境界なく単純に外反し、口唇部がやや内弯する。上端が沈線状に凹む。頸部付け根部に1条の三角突帯が巡る。
			器高		
			最大径		
31・3	B5	壺 口縁部	口径	※25	「鋤」状口縁で、外端がやや下がる。
			器高		
			最大径		
31・4	B5砂層	壺 頸部	口径		頸部付け根部に1条の三角突帯が巡る。
			器高		
			最大径		
31・5	B6砂層	蓋	口径	9.8	天井部はなだらかに丸味をもつ。裾部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高	1.2	
			最大径		
31・6	B6砂層	蓋	口径	11.2	同上
			器高	1.7	
			最大径		
31・7	B5砂層	(無頸) 壺	口径	※12.4	「く」の字口縁、平底、穿孔は現存1個。
			器高	11	
			最大径	15.6	
31・8	B5砂層	蓋	口径	13.6	傾斜がやや急で、深みをもつ。穿孔は現存2個。
			器高	3.2	
			最大径		
31・9	B5	(無頸) 壺	口径	15.3~16.1	「く」の字口縁、ややあげ底。口縁部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高	17.5	
			最大径	20.7	
31・10	B5・6砂層	蓋	口径	14.9	裾部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高	2.8	
			最大径		
31・11	B5砂層	(無頸) 壺	口径	15.4	「く」の字口縁、穿孔は現存2個。本来対で4個あったと思われる。
			器高	16	
			最大径	20.5	

(※は復元値、単位：cm)

手法の特徴	胎土・焼成	色　調	備　考	写真
口縁部指横ナデ　頸部縦の刷毛目　突帯部横ナデ　胴部刷毛目後、ヘラ削り	石英粒を多量に含む　良好	明褐色	黒班あり	Fig.41-2
胴部外面クシたてナデの若干のヘラ削り。頸部外面ヘラ横みがき。頸部内面ヘラ削り、胴部内面刷毛ナデ。底部内面指の押圧とヘラ削り。	良好	明茶褐色	黒班あり	Fig.41-1
横ナデ。	砂粒を含む　粗　良好	黄灰色		
口縁部横ナデ。頸部外面ヘラナデ後、指ナデ。	細砂粒を含む　密　良好	暗灰黒色		
突帯部と胴上部内面ナデ。胴上部外面縦の丁寧な刷毛目	砂粒を含む　良好	こげ茶色		
外面ヘラみがき。内面ヘラみがきと指ナデ	砂粒を含む　良好・堅緻	灰褐色		Fig.41-3
外面縦の刷毛目、突帯部横ナデ。底部内面指ナデ調整	良好	黒褐色	外底に植物の圧痕あり	
外面ヘラみがきの後、刷毛ナデ。内面指ナデ後、ヘラみがき。	石粒を含む　堅緻	外面 茶褐色 内面 黒褐色	外面煤付着　突帯部丹塗り	Fig.42-6
口縁部内、外面刷毛横ナデ。胴部外面ヘラ先端もしくは櫛様のもので斜削り。	砂粒を含む　普通	灰褐色		Fig.42-4
口縁上端ヘラみがき。外面縦の刷毛目。内面ヘラ削り後、ヘラみがき。	良好	外面 黒褐色 内面 暗褐色		Fig.42-5
口縁部内、外面刷毛横ナデ。胴部外面ヘラ先端による縦の削り。	普通	灰褐色		Fig.42-1
口唇部刷毛横ナデ。外面刷毛横ナデ後、櫛たてナデ。内面刷毛ナデ、指圧。	良好	茶褐色		Fig.42-2
口縁部外面へら削り、胴部外面刷毛横ナデ。	砂粒を含む　良好	外面 明茶褐色 内面 灰褐色	外面煤付着	Fig.42-3
口縁部、頸部、突帯部横ナデ。胴上部内面ヘラ削りの後、横ナデ。	精良　良好・堅緻	明褐色		Fig.43-1
外面横ナデ。内面刷毛目調整の後、横ナデ。	精良　良好	外面 明褐色 内面 暗褐色		Fig.43-2
ナデ。	精良　良好	明褐色		Fig.43-3
外面ヘラみがきと横ナデ。	長石、石英粒を含む　良好	こげ茶		
外面刷毛目調整の後、ヘラみがき。内面刷毛目調整の後、指ナデ。穿孔は焼成前に外から内へ穿つ。	砂粒を多量に含む　良好	暗緑黄土色		Fig.43-4
外面ヘラ削りの後、ヘラみがきで暗文仕上げ。口縁部横ナデ。内面指ナデ。	雲母、長石粒含有　良好	内面暗淡茶色	丹塗り	Fig.43-6
口縁部外面、胴上部外面横のヘラ研磨。胴下部外面縦のヘラ研磨。口縁部内面ヘラ削り、胴部内面指ナデ後、ヘラ削り。				Fig.43-8
外面ヘラ削りの後、ヘラみがきで暗文仕上げ。内面横ナデ、穿孔は焼成前	砂粒を含む	内面淡茶色	丹塗り	Fig.43-5
口縁部横の刷毛ナデ。底部外面縦の刷毛ナデ。胴上部内面指ナデ、胴下部内面刷毛目	精良　良好・堅緻	外面 淡赤褐色 内面 茶褐色　底黒褐色	外底に布と指紋痕あり	
外面ヘラ削りの後、ヘラみがきで暗文仕上げ。内面横ナデ。	砂粒を含む	内面明黄土色	丹塗り	Fig.43-7
口縁部ヘラ削り。胴上部外面横のヘラ研磨。胴下部外面縦のヘラ研磨。胴部内面指ナデ。	砂粒を少量含む	暗黄土色	丹塗り？	Fig.43-9

Tab. 4 第Ⅲ地点出土土器観察表

Fig. 図面番号	出土地点	器種・品部	法量			形態の特徴
32・1	BC砂層	蓋	口径	16.3		天井部がほぼ平坦である。深みはあまりない。穿孔は対になっていると思われるが、残存部にはみられない。
			器高	1.7		
			最大径			
32・2	BC砂層	(無頸)壺	口径	15		「く」の字口縁。胴中位に断面台形の突帯が1条巡る。口縁部の片側に1個、片側に2個の穿孔あり、あげ底。
			器高	18.5		
			最大径	20.5		
32・3	BC砂層	蓋	口径	14.2		天井部はなだらかに丸味をもち、深みはあまりない。片側に2個、計4個の穿孔がありひもずれしている。
			器高	1.7		
			最大径			
32・4	BC砂層	(無頸)壺	口径	13.7		「く」の字口縁、外側の張り出しが弱い。口縁部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高	11.9		
			最大径	15.7		
32・5	BC砂層	蓋	口径	13.4		天井部に平坦面をもち、深みはあまりない。片側に2個、計4個の穿孔があったと思われる。
			器高	1.9		
			最大径			
32・6	BC砂層	(無頸)壺	口径	13.4		「く」の字口縁、片側に2個、計4個の穿孔がありひもずれしている。
			器高	12.7		
			最大径	17.5		
32・7	BC砂層	蓋	口径	※15.9		天井部はなだらかに丸味をもち、やや深みがある。片側に2個、計4個の穿孔があったと思われる。ひもずれしている。
			器高	3.2		
			最大径			
32・8	BC砂層	(無頸)壺　底部欠失	口径	15.8		「く」の字口縁、口縁部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高			
			最大径	18.7		
32・9	BC砂層	蓋	口径	※15.4		天井部はなだらかに丸味をもつ。穿孔は現存1個。
			器高	2.9		
			最大径			
32・10	BC砂層	(無頸)壺	口径	14.8		「く」の字口縁、口縁部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高	13.7		
			最大径	18.8		
32・11	BC砂層	蓋	口径	13.4		天井部はなだらかに丸味をもつ。天井部の器壁が厚い。穿孔は現存1個だが、2個ずつ1対あったと思われる。
			器高	2.9		
			最大径			
32・12	BC砂層	(無頸)壺	口径	12.7		「く」の字口縁、ややあげ底。口縁部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高	17.5		
			最大径	16.4		
33・1	BC砂層	(無頸)壺	口径	15.6		「く」の字口縁。底部はややあげ底。口縁部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高	16.5~17.7		
			最大径	20.7		
33・2	BC砂層	(無頸)壺　底部欠失	口径	15.3		「く」の字口縁、穿孔は認められない。
			器高			
			最大径	18.5		
33・3	BC砂層	(無頸)壺　口縁部	口径	17.5		「く」の字口縁、口縁上端が外弯する。穿孔は認められない。
			器高			
			最大径			
33・4	BC砂層	(無頸)壺　口縁部	口径	17.7		「く」の字口縁、口縁部に穿孔あり。
			器高			
			最大径			
33・5	BC砂層	(無頸)壺　底部欠	口径	※20		同上
			器高			
			最大径			
33・6	BC砂層	(無頸)壺　口縁部	口径	※20		同上
			器高			
			最大径			
33・7	BC砂層	(無頸)壺	口径	15.7		口縁部は「く」の字形に屈折するが、外端で平坦面をもつ、口縁部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高	15.6		
			最大径	17.4		
33・8	BC砂層	(無頸)壺	口径	※14.6		「く」の字口縁、口縁部に穿孔あり。
			器高	15.7		
			最大径	※17.8		
33・9	BC砂層	(無頸)壺	口径	11.7		口縁部は「く」の字形に屈折するが、上端はほぼ平坦で外側への張り出しが弱い。穿孔は認められない。
			器高	9.1		
			最大径	14.8		
33・10	BC砂層	(無頸)壺	口径	10.8~11.2		「く」の字口縁。底部はややあげ底。口縁部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高	9.7		
			最大径	15.4		
33・11	BC砂層	(無頸)壺　底部欠	口径	10.8		口縁部は「く」の字形に屈折するが、外端で平坦面をもつ、口縁部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高			
			最大径	14.4		
33・12	BC砂層	(無頸)壺　口縁部	口径	16.8		「く」の字口縁、口縁部に穿孔は認められない。
			器高			
			最大径			
33・13	BC砂層	(無頸)壺　口縁部	口径	※15		「く」の字口縁、口縁部に穿孔あり。
			器高			
			最大径			

（※は復元値、単位：cm）

手法の特徴	胎土・焼成	色　調	備　考	写真
外面ヘラ研磨。内面ナデ。口縁部横ナデ。	細砂粒を含む　良好	内面灰褐色	丹塗り	Fig.44-1
口縁部外面と突帯部刷毛横ナデ。口縁部内面と胴部外面ヘラみがき。胴部内面刷毛ナデと指ナデ。	精良　良好	外面 灰褐色 内面 暗褐色 底　茶褐色		Fig.44-2
外面ヘラ研磨。内面刷毛ナデと指ナデ。	精良　良好・堅緻	内面 茶褐色	丹塗り	Fig.44-3
口縁部、胴部外面横のヘラみがき。胴部内面刷毛ナデと指ナデ。底部内面ヘラ削り。	細砂粒を多量に含む　良好	外面 赤灰褐色 内面 灰褐色		Fig.44-4
外面ヘラ削りの後、上から下へのヘラ磨きで暗文仕上げ。内面横ナデ。	砂粒を含む　良好	外面 こげ茶色 内面 淡こげ茶色	丹塗り	Fig.44-5
口縁部外面刷毛ナデ。胴部外面ヘラ研磨。口縁部内面ヘラみがき。胴上部内面指ナデ、胴下部内面刷毛目。	精良　良好・堅緻	外面 赤褐色 内面 黒褐色 底　茶褐色	外底に繊維痕あり	Fig.44-6
外面ヘラ削りの後、ヘラ磨きで暗文仕上げ。内面刷毛ナデと指ナデ。口縁部ヘラみがき。	精良　良好	黒褐色	丹塗の痕あり	Fig.44-7
口縁部外面刷毛ナデ、内面ヘラみがき。胴部外面刷毛目、胴部内面指の押圧とヘラみがき。	砂粒を含む　良好・堅緻	茶褐色	外面煤付着	Fig.44-8
外面ヘラ削りの後、ヘラ磨き。内面横ナデ。	砂粒を含む　良好	内面 茶色	丹塗り	Fig.44-9
口縁部ヘラ横ナデ。胴部外面ヘラみがき。胴部内面ヘラ削りと指の押圧。				Fig.44-10
調整痕不明	砂粒を含む　良好	暗緑灰色		Fig.44-11
外面ヘラ削りの後、ヘラみがき。内面指ナデの後、刷毛目	精良　良好・堅緻	外面 赤褐色 内面 暗褐色 底　茶褐色	丹塗り	Fig.44-12
口縁部内外面刷毛横ナデ。胴部外面ヘラみがき。底部外面縦のヘラ削り。胴部内面指ナデ。		明灰茶褐色		Fig.45-1
口縁部外面ヘラ横ナデ。内面刷毛目の後、指ナデ。	精良　良好・堅緻	茶褐色		Fig.45-2
口縁部外面横ナデ。口縁部内面横ナデのち、ヘラみがき。胴上部外面ヘラみがき。胴上部内面ナデ。	良好	暗茶褐色		
口縁部、胴上部外面横のヘラみがき。胴の内面指ナデの後、縦の刷毛ナデ。	良好	赤褐色		Fig.45-8
口縁部外面横ナデ。口縁部内面ヘラみがき。胴上部外面斜めのヘラみがき。胴上部内面刷毛目の後、指の押圧。	大きな砂粒を多量に含む 良好・堅緻	灰褐色	丹塗の痕あり	
口縁部外面横ナデ。口縁部内面横ナデ後、ヘラみがき。胴上部外面横のヘラみがき。胴上部内面ナデ。	砂粒を少量含む　普通	灰白色	丹塗の痕あり	
口縁部ヘラみがき。胴部外面ヘラけずり後、ヘラみがき。胴部内面刷毛目。	精良　良好・堅緻	外面 黒褐色 内面 暗褐色		Fig.45-3
外面調整痕不明。内面ナデと指の押圧。	石英粒を極少量含む	外面 明黄褐色 内面 暗褐色		Fig.45-4
口縁部ヘラ横ナデ。胴上部外面横のヘラみがき。胴下部外面縦のヘラみがき。胴上部内面指ナデ。胴下部内面ヘラ削り。	砂粒を少量含む 良好・堅緻	外面 暗褐色 内面 茶褐色		Fig.45-5
口縁部、胴部外面ヘラ削りの後、ヘラみがき。胴上部内面刷毛ナデ。胴下部内面ヘラ削り。	砂粒を少量含む 良好・堅緻	茶褐色		Fig.45-6
口縁部ヘラみがき。胴部外面ヘラけずりの後、ヘラみがき。胴部内面ヘラみがき。	精良　良好・堅緻	外面 茶褐色 内面 暗褐色	丹塗の痕あり	Fig.45-7
外面調整痕不明。口縁部、内面横ナデと指の押圧。	良好	黄灰褐色		
口縁部横ナデ。胴上部外面ヘラみがき。胴上部内面ナデと指の押圧。	砂粒を含む　普通	淡黄褐色	丹塗の痕あり	

Tab. 4 第Ⅲ地点出土土器観察表

Fig. 図面番号	出土地点	器種・品部	法量	形態の特徴
33・14	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 13 器高 最大径	口縁部は「く」の字形に屈折するが、上端は平坦に近い。口縁部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
33・15	BC砂層	(無頸) 壺 底部欠	口径 ※13 器高 最大径	「く」の字口縁、口縁部に穿孔あり。
34・1	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※14.4 器高 最大径	「く」の字口縁、口縁部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
34・2	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※13.2 器高 最大径	同上
34・3	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※12.8 器高 最大径	「く」の字口縁、外端がややはね上り気味。口縁部に穿孔あり。
34・4	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※14.4 器高 最大径	口縁部がわずかに立ち上がり、上端が内傾する。口縁部に穿孔あり。
34・5	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※14.2 器高 最大径	口縁部は、外側への張り出しが強く、上端が平坦。口縁部に穿孔あり。
34・6	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※11.4 器高 最大径	「く」の字口縁、上端が丸味をもつ。口縁部に穿孔あり。
34・7	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※16.2 器高 最大径	口縁部は「く」の字形に屈折するが、上端に平坦面をもつ。口縁部に穿孔あり。
34・8	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※13.8 器高 最大径	「く」の字口縁、口縁部に穿孔あり。
34・9	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※12.8 器高 最大径	口縁部は「く」の字形に屈折するが、外端で平坦面をもつ。口縁部に穿孔あり。
34・10	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※12 器高 最大径	「く」の字口縁、破片中に穿孔認められず。
34・11	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※15.1 器高 最大径	同上
34・12	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※13.9 器高 最大径	口縁部は「く」の字形に屈折するが、外端で平坦面をもつ。破片中に穿孔認められず。
34・13	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※12.5 器高 最大径	口縁部は「く」の字形に屈折するが、上端はほぼ平坦。破片中に穿孔認められず。
34・14	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※13.6 器高 最大径	「く」の字口縁、口縁部に穿孔あり。
34・15	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※12.8 器高 最大径	同上
34・16	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※13.8 器高 最大径	同上
34・17	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※15.8 器高 最大径	口縁部がわずかに立ち上がり、上端が内傾する。口縁部に穿孔あり。
34・18	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※14 器高 最大径	口縁部がわずかに立ち上がり、上端が内傾する。口縁部に穿孔あり。
34・19	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※10.6 器高 最大径	口縁部は「く」の字形に屈折するが、上端は平坦に近い。口縁部に穿孔あり。
34・20	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※9.8 器高 最大径	口縁部は「く」の字形に屈折するが、外側への張り出しが弱い。口縁部に穿孔あり。
34・21	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※20 器高 最大径	「く」の字口縁、外側への張り出しが強い。口縁部に穿孔あり。
34・22	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径 ※13.9 器高 最大径	「く」の字口縁、破片中に穿孔認められず。

（※は復元値、単位：cm）

手法の特徴	胎土・焼成	色　調	備　考	写真
口縁部外面横ナデ。口縁部外面縦ナデのちヘラみがき。胴上部外面ヘラみがき。胴上部内面ナデと指の押圧。	良好	暗黒褐色		
口縁部外面横ナデ。口縁部外面縦ナデのちヘラみがき。胴上部外面ヘラみがき。胴上部内面ナデ	砂粒を少量含む　普通	灰白色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデ。胴上部外面横のヘラみがき。胴上部内面指の押圧とナデ。	砂粒を含む　不良	灰褐色	丹塗の痕あり	
同上	砂粒を含む　普通	暗灰褐色	丹塗の痕あり	
同上	砂粒をわずかに含む　普通	灰褐色		
同上	良好	灰褐色	丹塗の痕あり 黒斑あり	
口縁部と胴上部内面横ナデ。胴上部外面横のヘラみがき。	良好	暗黄褐色	丹塗の痕あり	
口縁部と胴上部内面横ナデ。胴上部外面横のヘラみがき。	良好　普通	灰白色	丹塗の痕あり	
横ナデ	良好	暗黒灰褐色		
口縁部横ナデ。胴上部外面横のヘラみがき。胴上部内面ナデと刷毛目	砂粒を含む　良好	黄褐色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデ後、ヘラみがき。胴上部外面横のヘラみがき。胴上部内面ナデ	砂粒を少量含む　普通	灰白色	丹塗の痕あり	
同上	良好	灰褐色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデ。胴上部外面刷毛目。胴上部内面ナデ。	大粒の砂粒を含む　不良	暗灰褐色		
口縁部横ナデとヘラみがき。胴上部外面横のヘラみがき。	大粒の砂粒を多量含む　良好・堅緻	灰白色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデ。胴上部外面横のヘラみがき。胴上部内面ナデ。	良好	黄灰褐色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデとヘラみがき。胴上部外面横のヘラみがき。胴上部内面指の押圧とナデ。	細砂粒を含む　良好・堅緻	灰褐色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデ。胴上部外面横のヘラみがき。胴上部内面指の押圧とナデ。	砂粒を含む　普通	暗茶褐色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデ。胴上部外面横のヘラみがき。胴上部内面刷毛目のちナデ。	砂粒を含む　普通	灰褐色	丹塗の痕あり	
口縁部、胴上部内面横ナデ、不明瞭な刷毛目、ヘラ痕が残る。胴上部外面ヘラみがき。	良好	黄褐色		
口縁部横ナデのち、ヘラみがき。胴上部外面ヘラみがき。胴上部内面ナデ	砂粒を含む　不良	黒褐色	丹塗の痕あり	
同上	砂粒を含む　不良・もろい	灰白色	丹塗の痕あり	
同上	砂粒を含む　良好・堅緻	黄褐色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデのち、ヘラみがき。	砂粒を含む　普通	灰白色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデ。胴上部外面横の不明瞭なヘラ痕。	細砂粒を少量含む　良好	黄灰褐色		

Tab. 4 第Ⅲ地点出土土器観察表

Fig. 図面番号	出土地点	器種・品部	法量			形態の特徴
34・23	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※11.4		「く」の字口縁、破片中に穿孔認められず。
			器高			
			最大径			
34・24	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※17.2		口縁部は外側への張り出しが強く、上端がほぼ平坦。破片中に穿孔認められず。
			器高			
			最大径			
34・25	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※12.5		「く」の字口縁、口縁部に穿孔あり。
			器高			
			最大径			
34・26	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※11.3		口縁部がわずかに立ち上がり、外側への張り出しが弱い。破片中に穿孔認められず。
			器高			
			最大径			
34・27	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※16.8		口縁部は「く」の字形に屈折するが、外端で平坦面をもつ。口縁部の片側に2個、計4個の穿孔があったと思われる。
			器高			
			最大径			
34・28	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※13.8		同上
			器高			
			最大径			
34・29	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※13.9		口縁部は「く」の字形に屈折するが、上端は平坦に近い。上端は強いナデによって凹み、先端がはね上り気味になる。口縁部に穿孔あり。
			器高			
			最大径			
34・30	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※14		口縁部は「く」の字形に屈折するが、上端は平坦に近い。口縁部に穿孔あり。
			器高			
			最大径			
34・31	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※14.1		同上
			器高			
			最大径			
34・32	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※13.4		同上
			器高			
			最大径			
34・33	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※13.8		「く」の字口縁、破片中に穿孔認められず。
			器高			
			最大径			
34・34	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※11.8		同上
			器高			
			最大径			
34・35	BC砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※12.7		口縁部は「く」の字形に屈折するが、上端はほぼ平坦。破片中に穿孔認められず。
			器高			
			最大径			
35・1	C5砂礫層	蓋	口径	14.6		天井部に平坦面をもつ。裾部の片側に2個、計4個の小孔あり。
			器高	2.6		
			最大径			
35・2	C5砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	13.7		口縁部は強く「く」の字形に屈折。ややあげ底。口縁残存部に穿孔は認められず
			器高	12.7		
			最大径	15.3		
35・3	C5砂層	蓋 天井部欠	口径	※13.4		穿孔が現存1個
			器高	※2.2		
			最大径			
35・4	C5砂層	蓋	口径	12.8		天井部がわずかに平坦である。裾部の片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高	2.3		
			最大径			
35・5	C6砂層	(無頸) 壺 口縁部	口径	※12.6		口縁部は「く」の字形に屈折するが、外端に平坦面をもつ。口縁残存部に穿孔1個。
			器高			
			最大径			
35・6	C5砂層	蓋	口径	※10		天井部に平坦面をもつ。破片中に穿孔1個。
			器高	※2		
			最大径			
35・7	C5砂層	蓋 天井部欠失	口径	※11		裾部に穿孔が認められる。
			器高	※2		
			最大径			
35・8	C5砂層	蓋	口径	※12		深みがあまりない偏平な蓋。器壁の厚さがほぼ同じ。穿孔は現存2個。
			器高	1.2		
			最大径			
35・9	C5砂層	蓋	口径	14.9		天井部がわずかに平坦。裾部の片側に2個、計4個の穿孔あり、ひもずれしている。
			器高	2.1		
			最大径			
35・10	C5砂層	蓋 天井部欠失	口径	※13.9		裾部に穿孔が認められる。
			器高	※2.8		
			最大径			
35・11	C5砂層	蓋 天井部欠失	口径	※13.9		同上
			器高	※3		
			最大径			

（※は復元値、単位：cm）

手法の特徴	胎土・焼成	色　調	備　考	写真
口縁部横ナデ。胴上部外面横のヘラみがき。胴上部内面ナデ。	砂粒を少量含む　普通	灰褐色		
調整痕不明	砂粒を多量に含む　普通	黄灰白色	器面の荒れ著しい	
口縁部横ナデとヘラみがき。胴上部外面横の丁寧なヘラみがき。胴上部内面ナデ。	砂粒を少量含む 良好・堅緻	黄褐色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデ。胴上部内面指の押圧とナデ。	砂粒を少量含む 良好・堅緻	淡灰褐色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデ。	細砂粒を含む　良好	黒褐色		
口縁部横ナデ。胴上部外面横のヘラみがき。	砂粒を多量に含む　普通	灰褐色	丹塗の痕あり	
口縁部、胴上部内面ナデ。胴上部外面ヘラみがき。	良好	黒褐色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデの後、ヘラみがき。胴上部外面横のヘラみがき。	砂粒を含む　普通	灰褐色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデの後、ヘラみがき。胴上部外面横のヘラみがき。	砂粒を含む　普通	淡黄褐色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデ。胴上部外面横ナデのち横のヘラみがき。	精良　良好	黄灰褐色	丹塗の痕あり	
口縁部横ナデのち、ヘラみがき。胴上部外面横のヘラみがき。胴上部内面指の押圧とナデ。	良好	外面 黄茶褐色 内面 黄灰色		
同上	大きな砂粒を含む　普通	灰褐色		
口縁部横ナデ。胴上部外面ヘラみがき。胴上部内面横ナデ。	精良　良好	外面 明褐色 内面 黄灰褐色	丹塗の痕あり	
外面ヘラ削りの後、放射状にヘラみがきで暗文仕上げ。内面指なでつけ。穿孔は焼成前に、外から内へ穿つ	石英粒を含む		丹塗り	Fig.46-1
口縁部外面ナデ。胴部外面ヘラ削り。口縁部内面ヘラ削り。胴部内面ナデ。	石英粒を少量含む	暗白黄土色	器形のゆがみが著しい	Fig.46-2
調整痕不明	良好　普通	外 暗黄灰褐色 内 明灰色		
外面ヘラ削りの後、ヘラみがきで暗文仕上げ。内面横ナデ。	砂粒を含む	内面 暗黄土色	丹塗り	Fig.46-3
口縁部外面横ナデ。口縁部内面、胴上部外面ヘラみがき。胴上部内面ナデ。	砂粒を少量含む　良好	外面 淡赤褐色 内面 暗黄土色	丹塗り	
調整痕不明	砂粒を含む　普通	暗黄褐色		
調整痕不明	良好	外面 黄赤褐色 内面 黄褐色	丹塗り	
外面ヘラみがき。内面ナデ。	精良　良好	内面 暗黒褐色	丹塗り	
外面ヘラ削り後、刷毛ナデ。内面刷毛ナデ。	精良　良好	外面 暗褐色 内面 黒褐色		Fig.46-5
外面ヘラみがき。内面横ナデ。	精良　良好	外面 黒青色 内面 明灰色		
外面ヘラみがき。内面横ナデ。	砂粒を含む　良好	黄赤褐色		

Tab. 4 第Ⅲ地点出土土器観察表

Fig. 図面番号	出土地点	器種・品部	法量		形態の特徴
35・12	C 5 砂層	蓋 天井部欠失	口径	22.3	大型の蓋。穿孔は現存1個。
			器高	※2.8	
			最大径		
35・13	C 5 砂層	壺 口縁部	口径	※20	「鋤」状口縁
			器高		
			最大径		
35・14	C 5 砂層	甕 口縁部	口径	※24.4	逆「L」字口縁、上面がやや凹む。
			器高		
			最大径		
35・15	C 5 砂層	甕 口縁部	口径	※23	やや内傾する口縁端外側に断面三角形の突帯を貼付けてある。胴は張る。
			器高		
			最大径		
35・16	C 5 砂層	甕 口縁部	口径	※25	逆「L」字口縁で、口縁外端に縦の刻目が施される。胴は張る。
			器高		
			最大径		
35・17	C 5 砂層	鉢？ 口縁部	口径	※22.3	逆「L」字形口縁
			器高		
			最大径		
35・18	C 5 砂層	鉢 底部欠	口径	※16.5	丸くおさめた口縁よりそのまますぼまる。口唇部がやや肥厚する。
			器高		
			最大径		
35・19	C 5 砂層	鉢 底部欠	口径	※15	丸くおさめた口縁よりそのまますぼまる。口唇部が沈線状に凹む。
			器高		
			最大径		
35・20	C 5 砂層	鉢 底部欠	口径	※19.5	丸くおさめた口縁よりそのまますぼまる。口唇部がやや肥厚する。
			器高		
			最大径		
36・1	BC砂層	鉢 底部欠	口径	※18	丸くおさめた口縁よりそのまますぼまる。
			器高		
			最大径	※19.8	
36・2	BC砂層	鉢 底部欠	口径	※20	同上
			器高		
			最大径	※21.2	
36・3	BC砂層	鉢 底部欠	口径	※19	同上
			器高		
			最大径	※20	
36・4	BC砂層	鉢 底部欠	口径	17.5	口縁部内弯する。粘土のつぎ目で、明瞭な稜をなす部分がある。
			器高		
			最大径	18.3	
36・5	BC砂層	鉢 底部欠	口径	※19	丸くおさめた口縁よりそのまますぼまる。
			器高		
			最大径		
36・6	BC砂層	鉢 底部欠	口径	※17	同上
			器高		
			最大径	※17.6	
36・7	BC砂層	鉢 底部欠	口径	※19	同上
			器高		
			最大径	※19.4	
36・8	BC砂層	鉢 底部欠	口径	※15	口縁部は、やや直立気味に内弯する。
			器高		
			最大径	※15.5	
36・9	BC砂層	鉢 底部欠	口径	※12	同上
			器高		
			最大径		
36・10	BC砂層	(無頸) 壺 底部欠	口径	※16	口縁部がわずかに立ち上り、上端が平坦。口縁部外面屈曲部にナデによる段がつく。穿孔は現存1個、本来対で4個あったと思われる。
			器高		
			最大径	19.2	
36・11	BC砂層	(無頸) 壺 底部欠	口径	12.6	「く」の字口縁、口縁部に片側に2個、計4個の穿孔あり。ひもずれしている。
			器高		
			最大径	15.7	
36・12	BC砂層	(無頸) 壺 底部欠	口径	※14.9	口縁部は鋭く外方に屈曲し、上端はほぼ平坦。破片中に穿孔認められず。
			器高		
			最大径		
36・13	BC砂層	(無頸) 壺 底部欠	口径	※12.8	口縁部は鋭く外方に屈曲し、上端はほぼ平坦。外端が凹む。穿孔は現存2個、本来対で4個あったと思われる。
			器高		
			最大径		
36・14	BC砂層	(無頸) 壺 底部欠	口径	※11.4	「く」の字口縁、口縁上端が丸味を帯び内傾する。口縁部に片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高		
			最大径		
36・15	BC砂層	壺 口縁部欠	底径	7	胴中位で大きく張り、平底の底部へ至る。
			器高		
			最大径	20.6	

(※は復元値、単位：cm)

手法の特徴	胎土・焼成	色　調	備　考	写真
外面ヘラ削り。内面ナデ。	精良　良好	外面 明黄褐色 内面 明赤褐色		
横ナデ。	砂粒を少量含む　良好	外面 淡灰褐色 内面 灰褐色		
口縁部横ナデ。外面刷毛目。	砂粒を含む　良好	茶灰色		
調整痕不明。	砂粒を少量含む　良好	灰褐色		
横ナデ。	石英、長石を少量含む	外面 黒褐色 内面 灰褐色		
調整痕不明	砂粒を多量に含む　良好	暗灰色		
外面縦の刷毛目。内面縦の刷毛ナデ。	砂粒を多量に含む　良好・堅緻	外面 茶褐色 内面 黒褐色	内、外面煤付着	
口縁部横ナデ。胴上部外面縦の刷毛目。胴上部内面ナデ。	砂粒を含む　良好	暗茶色		
外面縦の刷毛目。内面ナデと指圧。	砂粒を含む　良好	外面淡茶色	内面煤付着	
外面調整痕不明。内面ナデ。	大粒の砂粒を含む　良好	暗白黄土色		
外面縦の刷毛目。内面ナデ	砂粒を少量含む　良好	白黄土色	外面煤付着	
横ナデ。	砂粒を少量含む　良好		外面煤付着	
口唇部横ナデ。外面縦の刷毛目の後ナデ。内面ナデ。	砂粒を含む　良好	淡こげ茶色		
外面縦の刷毛目。内面指ナデ。	砂粒を含む　良好	淡茶色		
調整痕不明。	砂粒を多量に含む　良好	白黄土色	磨滅著しい 外面煤付着	
外面縦の刷毛目。内面横ナデ。	長石粒を少量含む　良好	茶色		
外面刷毛目。内面ナデ。	砂粒を極少量含む　良好	茶褐色		
横ナデ。	砂粒を極少量含む　良好	濃茶色		
口縁部と外面横ナデ。胴部外面ヘラみがき。口縁部内面横ナデ後、ヘラみがき。胴部内面指の押圧とナデ。	良好	暗黄灰色	丹塗の痕あり	
外面ヘラ削り後、ヘラみがき。内面ヘラみがき。	精良　良好・堅緻	灰褐色		Fig.46-4
口縁部外面横ナデ。胴上部外面ヘラみがき。口縁部内面横ナデ後、ヘラみがき。胴上部内面ナデ。	精良　良好	暗黄灰褐色	丹塗の痕あり	
横ナデ。	精良　良好	暗灰褐色	丹塗の痕あり	
口縁部外面横ナデ。口縁部内面ヘラみがき。胴上部外面ヘラみがき。胴上部内面ナデ。	砂粒を多量に含む　良好	茶褐色		Fig.46-6
外面縦のヘラ削り。内面刷毛横ナデ、指ナデ。	砂粒を多く含む　良好	外面 茶褐色 内面 黒色	外面煤付着	Fig.46-7

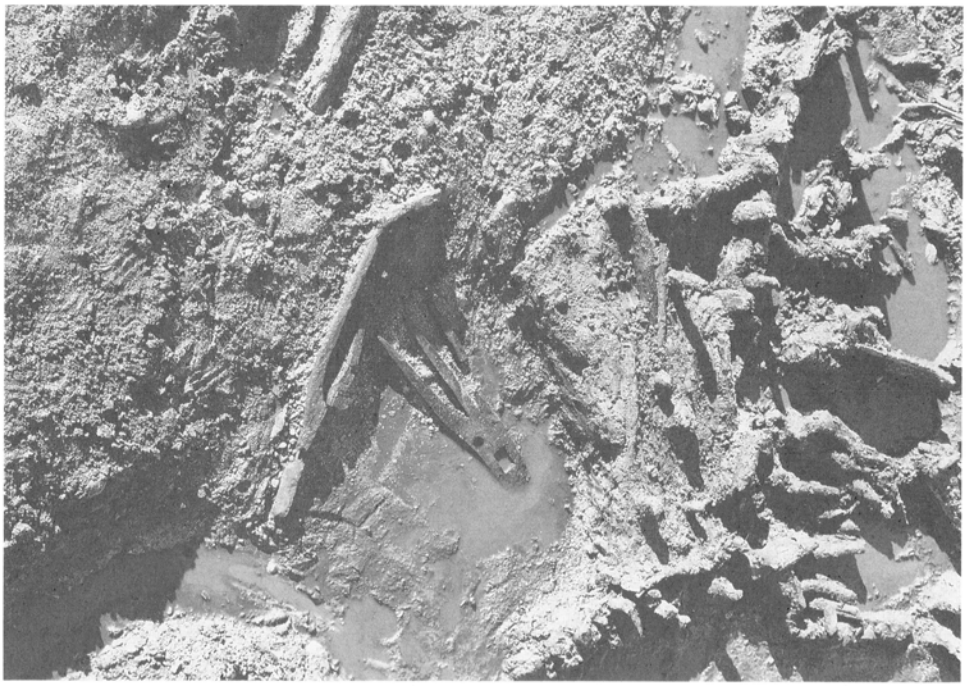
Tab. 4 第Ⅲ地点出土土器観察表

Fig. 図面番号	出土地点	器種・品部	法量		形態の特徴
36・16	BC砂層	(無頸) 壺 底部欠	口径	※12.8	「く」の字口縁、口縁部に片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高		
			最大径	※19.1	
36・17	BC砂層	(無頸)壺 底部欠失	口径	※12.3	「く」の字口縁、口縁部片側に2個、計4個の穿孔あり。
			器高		
			最大径	※15	
37・1	BC砂層	高坏 脚部	口径		徐々に裾広がり、裾近くで屈折して大きく開くと思われる。
			器高		
			最大径		
37・2	BC砂層	高坏 脚部	口径		裾部は大きく開く。
			器高		
			最大径		
37・3	BC砂層	碗(須恵器)	口径	※13.7	丸い底部からそのままたち上る。口縁部はやや肥厚する。
			器高	※4.2	
			最大径		
37・4	BC砂層	高台付坏 口縁部欠	口径	※12.5	やや外広がりの高台が付き、口縁部は直線的に広がる。
			器高	※5.4	
			最大径		
37・5	BC砂層	坏	口径	※13.9	体部は直線的に広がり、そのままおさめる。
			器高	7.1	
			最大径		
37・6	BC砂層	皿	口径	※8.9	口縁部は内弯気味に立ち上る。平底。
			器高	※1.7	
			最大径		

Ph. 3 土器の出土状態(第Ⅲ地点)

（※は復元値、単位：cm）

手法の特徴	胎土・焼成	色　調	備　考	写真
口縁部、胴上部外面ヘラけずり後、ヘラみがき。胴上部内面ヘラみがき。	精良　良好・堅緻	茶褐色		Fig.46-9
口縁部外面横ナデ。胴部外面ヘラみがき。口縁部内面ヘラみがき。胴部内面横ナデ。	細砂粒を含む　良好	外面 淡茶褐色 内面 灰茶色		Fig.46-8
外面刷毛目のちヘラ削り。内面ヘラ削り。	石英粒を極少量含む　良好・堅緻	暗白黄土色		
外面ヘラ研磨。内面ヘラナデと粗い刷毛ナデ。	精良　良好	暗茶色		
右回転の成形。外面ヘラ削り。	小石を多量に含む　堅緻	黒灰色		
外面調整痕不明。高台接合部指ナデ。底部指ナデのちヘラ削り。	精良　良好	外面 赤褐色 内面 黒褐色		Fig.46-10
内、外面ヘラ研磨	砂粒を多量に含む　不良	外面 茶褐色 内面 黒褐色		Fig.46-11
左回転の整形。底部糸切り	砂粒を含む　良好・堅緻	淡黄褐色	黒班あり	



Ph. 4　木器出土状態（第Ⅲ地点）

Tab. 5 第Ⅲ地点出土木器計測表

Fig.図面番号	区	層位	種別	法量(cm)				備考	写真
				長	幅	厚	直径		
47・1	C－6	砂層	割杭	11.6			3.3	上部折損・樹皮	
47・2	C－5	砂層	丸木杭	54.2			3.4		
47・3	C－5	砂層	矢板？	12.2	4.2	0.5~1.8		上部折損	
47・4	B－5	砂層	丸木杭	31.2			3.7~4.0	樹皮	
47・5			丸木杭	14.8			5.2		
47・6			丸木杭	30.3			5.4~5.9		
47・7	G－4		矢板	38.3	6.2	1.9~3.0			
47・8	A－3・4		丸木杭	16.0			4.7	上部折損	
47・9	G－4	泥炭層	割杭	15.0	5.4	2.9			
48・1	B－6	砂層	三又鍬	63.2		2.0			Fig.51-1
48・2	B－5	砂層	又状木器片	41.8					Fig.51-2
48・3	B－6	砂礫層	又状木器片	33.8		1.8			Fig.51-3
48・4	B－6	砂層	二又鋤？	64.2		1.8			Fig.51-4
48・5	B－5	砂層	三又鍬	40.0		1.2			Fig.51-5
48・6	Cトレンチ	泥炭層	又状木器片	3.5~6.3					Fig.51-6
48・7			又状木器片	24.0		1.9			Fig.51-7
48・8	B－5	砂礫層	又状木器片	25		0.5~1.3		一部焼けている	Fig.51-8
49・1			加工木	93.4				杵？	Fig.52-1
49・2	G－4	泥炭層	加工木	50.0	14.4	0.6~1.4		建築用材？	Fig.52-2
49・3	B－5	砂層	三又鍬	31.6	8.6	2.0~3.0			Fig.52-3
49・4	B－6	砂層	又状木器片	36.2					Fig.52-4
49・5	C－5	砂層	鍬刃部	18.7		0.9			Fig.52-5
50・1	B－5	砂層	スプーン状木器	19.7					Fig.53-1
50・2	B－6	砂礫層	加工木	31.2	12.9	0.9~1.7			Fig.53-3
50・3	B－5	砂層	加工木	11.7	2.3	0.9		スプーン状木器？	
50・4	B－6	砂層	加工木	18.8					Fig.53-2
49・1	C－6	砂層	割杭	11.6			3.3	上部折損・樹皮	
49・2	C－5	砂層	丸木杭	54.2			3.4		
49・3	C－5	砂層	矢板？	12.2	4.2	0.5~1.8		上部折損	
49・4	B－5	砂層	丸木杭	31.2			3.7~4.0	樹皮	
49・5			丸木杭	14.8			5.2		
49・6			丸木杭	30.3			5.4~5.9		
49・7	G－4		矢板	38.3	6.2	1.9~3.0			
49・8	A－3・4		丸木杭	16.0			4.7	上部折損	
49・9	G－4	泥炭層	割杭	15.0	5.4	2.9			
50・1	B－6	砂層	三又鍬	63.2		2.0			
50・2	B－5	砂層	又状木器片	41.8					
50・3	B－6	砂礫層	又状木器片	33.8		1.8			
50・4	B－6	砂層	二又鋤？	64.2		1.8			
50・5	B－5	砂層	三又鍬	40.0		1.2			
50・6	Cトレンチ	泥炭層	又状木器片	3.5~6.3					
50・7			又状木器片	24.0		1.9			
50・8	B－5	砂礫層	又状木器片	25		0.5~1.3		一部焼けている	

Fig. 54　第Ⅲ地点遺物出土状況

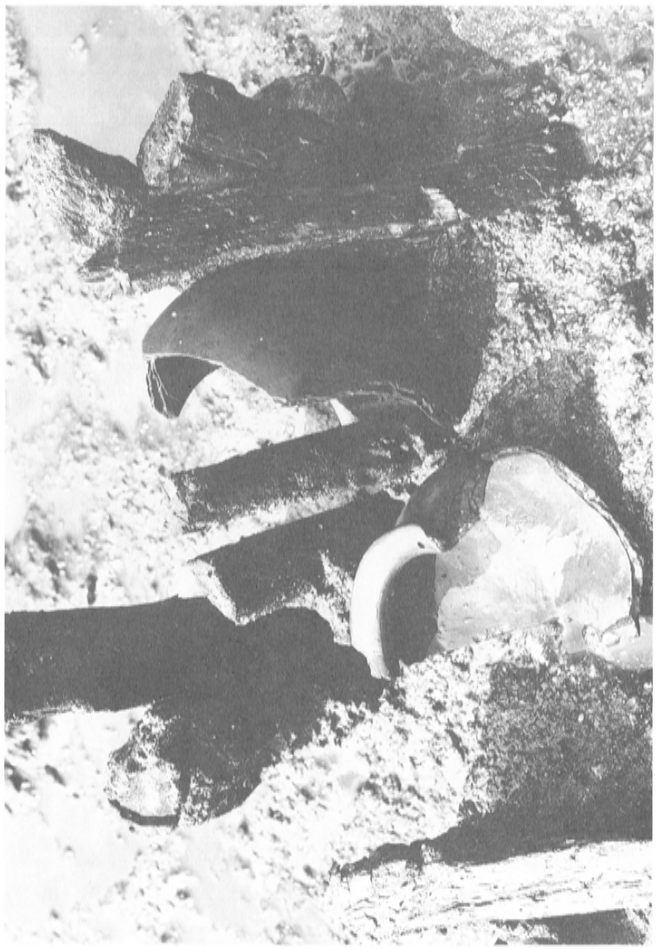


Fig. 55　第Ⅲ地点遺物出土状況

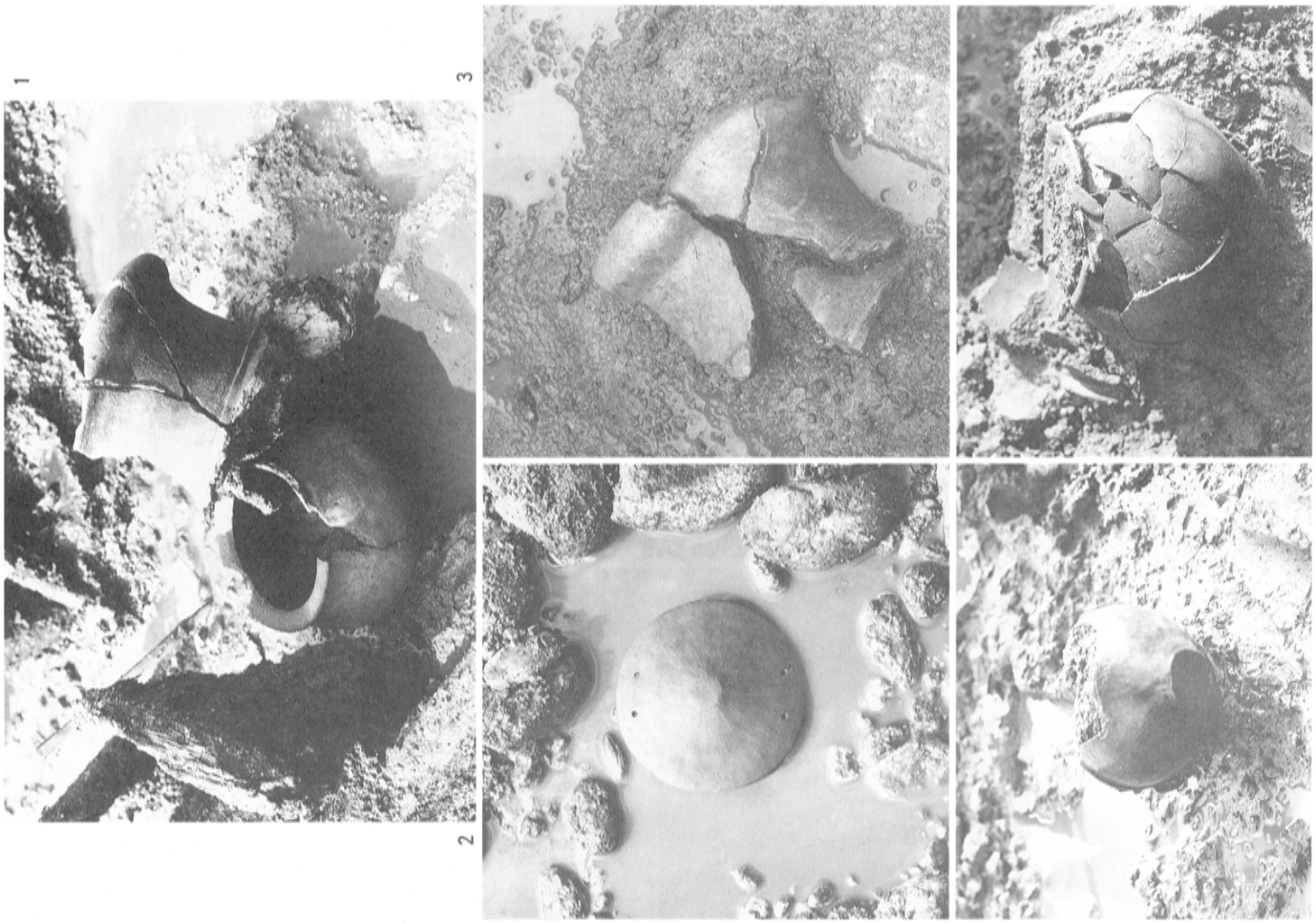
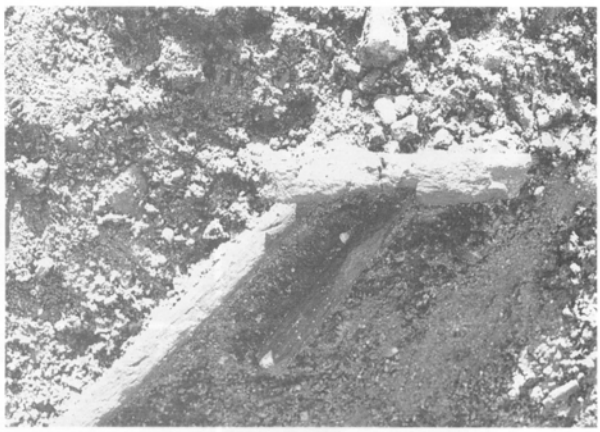
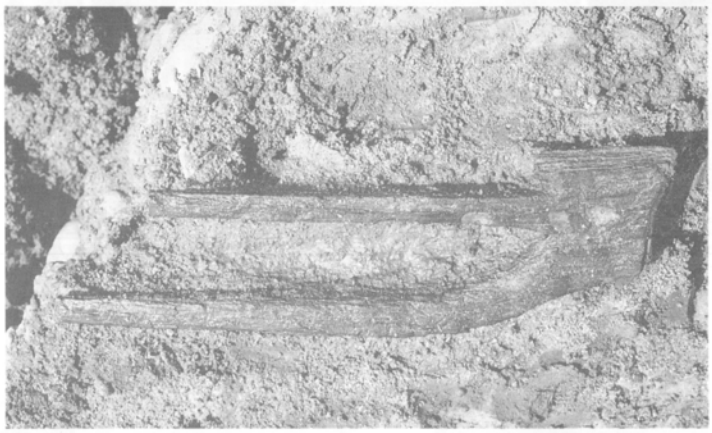


Fig. 56　第Ⅲ地点遺物出土状況

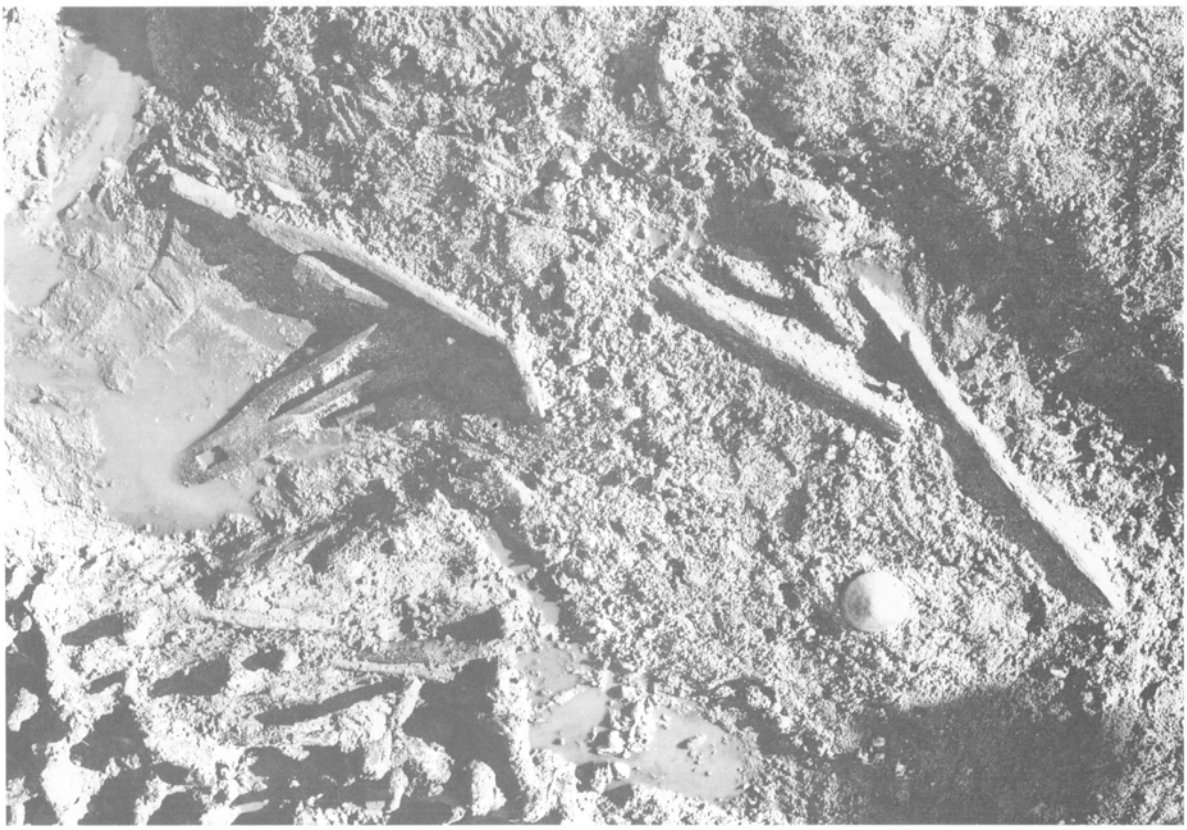
1



2



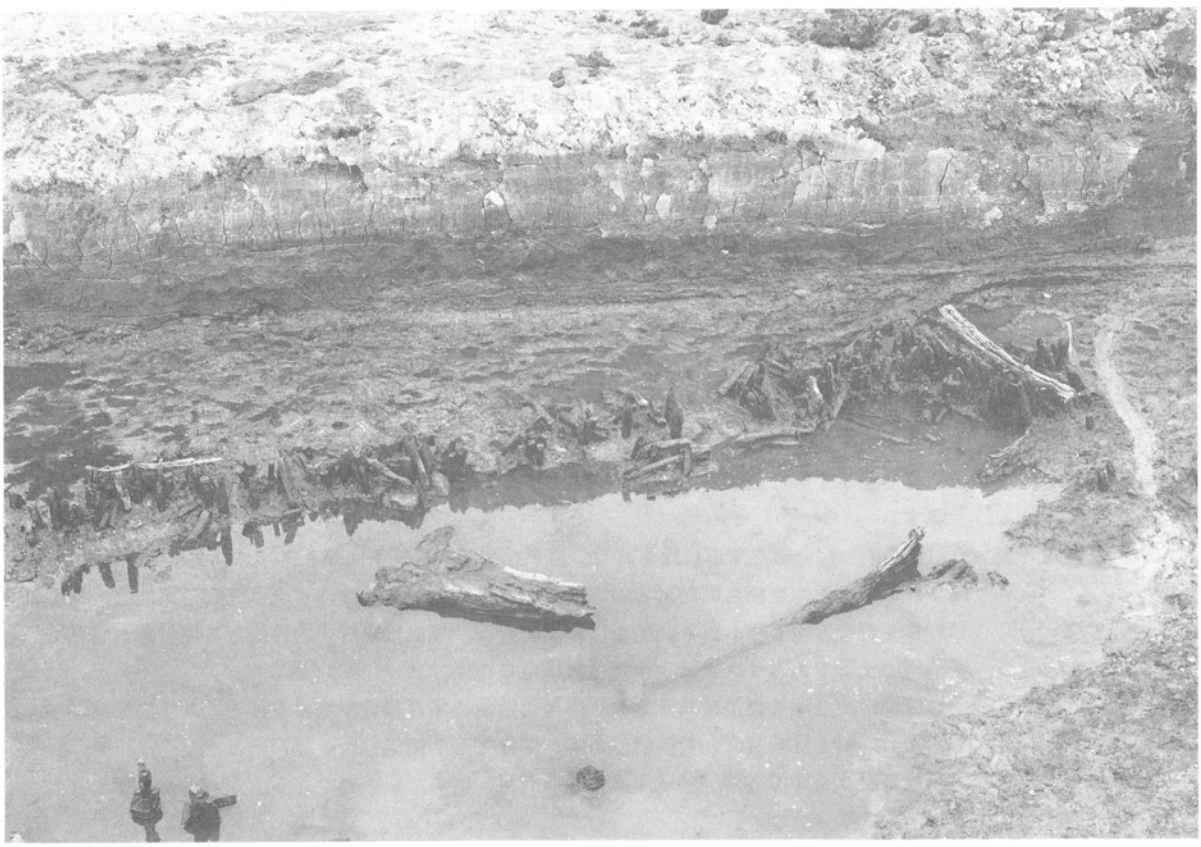
3



4

Fig. 57 第III地点木器出土状況

Ph. 5　第III地点遠景



Ph. 6　杭列の遠景

(4) 第Ⅴ地点の調査

北壁土層説明（Fig.58, D－1．2区北壁土層図）

第1層　灰褐色土層　耕作土

第2層　黒褐色土層　遺構の覆土となっている層

第3層　茶褐色土層　地山上の粘土層で遺構はこの層に掘り込まれている。

第4層　黒褐色土層　第3層の影響を受け土層中に茶褐色の粘土ブロックを含む。

① 調査の概要

発掘地点東部に南北に走る深さ1メートルの溝は現代にかなり接近する時期に掘削された溝と思われる。何故なら、表土層に近い土層が覆土として堆積しているからである。恐らく、現在ある集落の排水溝としての機能をもたせたものであろう。

歴史性を示す遺構は、本調査地点中央部を南北に走る幅1メートル内外、深さ50センチメートル内外の溝のみである。営なまれた時代は、出土する土器から見て、中世12・13世紀が考えられる。溝は方位を南北にとった直線的な企画性を窺わせているが、中世の集落が、近辺に存在したであろうことを想定させる。

中世以前の遺構は存在しないが、弥生式土器の出土が少々見られる。本地点が、他の調査地点に比して1メートル程高い台地に立地するところから、弥生時代の集落の遺構の存在も近辺に求められよう。

いずれにしても、古代から中世にかけた原遺跡群の考古学的解明は文化財保護行政の責務として今後に継承されるものと期待される。

② 出土遺物

弥生式土器　出土量は少ないが弥生式土器も出土している。

板付Ⅱ式系の甕形土器は平坦な底より緩やかに立ち上がり、調整方法は外面縦の刷毛目で内面は指押の痕があり丁寧な気配り、砂粒を含む胎土で焼成は普通の仕上がり、色調は灰褐色。

城ノ越式の壺形土器は有頸のものと無頸のものがある。前者は胴部のみで、大きく張った胴部に断面三角形の三条の突帯をめぐらし、口縁部を横撫での篦磨き、胴部外面を横方向の篦磨きで調整、大粒の砂粒子を大量に含ませ胎土を固め、良好な焼成によって明灰白色の色調を保ちつつ、表面に丹塗りの痕を残す。後者は、小型でくの字口縁で穿孔、口縁部を横撫で、胴上部を外面篦磨きで調整、砂粒子で胎土を固め、良好な焼成を行ない赤褐色を保ち丹塗りの痕跡を残す。

中世の磁器　磁器は高台付きの碗があって、色調を茶緑色、灰青色に保つ、釉薬の厚さからして、近世に含まれるかも知れない。磁器には貿易磁器も出土している。見込内底に六歯の櫛状工具で唐草文様が描かれているところから、中国龍泉窯系産と思われる。

中世の土師器皿碗　土師器皿は、平坦な底部から短く体部をつまみ出し口縁部をおさめ、底部篦切りと糸切りのものとがある。

土師器杯は平坦な底部から体部を大きくつまみ出し口縁部をおさめるもので、底部を糸で切り離す。

瓦質双耳壺　扁球状の胴に短い直立する口縁を有し、扁平な耳が一対付き、径8ミリメートルの孔が穿たれ、紐ずれしている。全面ススが付着し、調整痕は不明瞭であるが、ロクロ成形で篦調整の後刷毛目調整を行なったと思われる。胎土は精良で堅緻、焼成は良好、内外面とも煤付着から見て、煮沸用の土器であろう。当然、色調は黒褐色をなす。

中世の瓦質片口鉢　口縁部は折り返しの玉縁状を呈す、内面に僅かにすり部分が認められる。スリ部分は細かく溝も深い。胎土は精良にして堅緻である。摺鉢として使用したと思われる。

弥生時代石器　石包丁、扁平片刃石斧、柱状片刃石斧、石斧、砥石、石鏃等である。本遺跡全地域より出土したもので数は少ない。

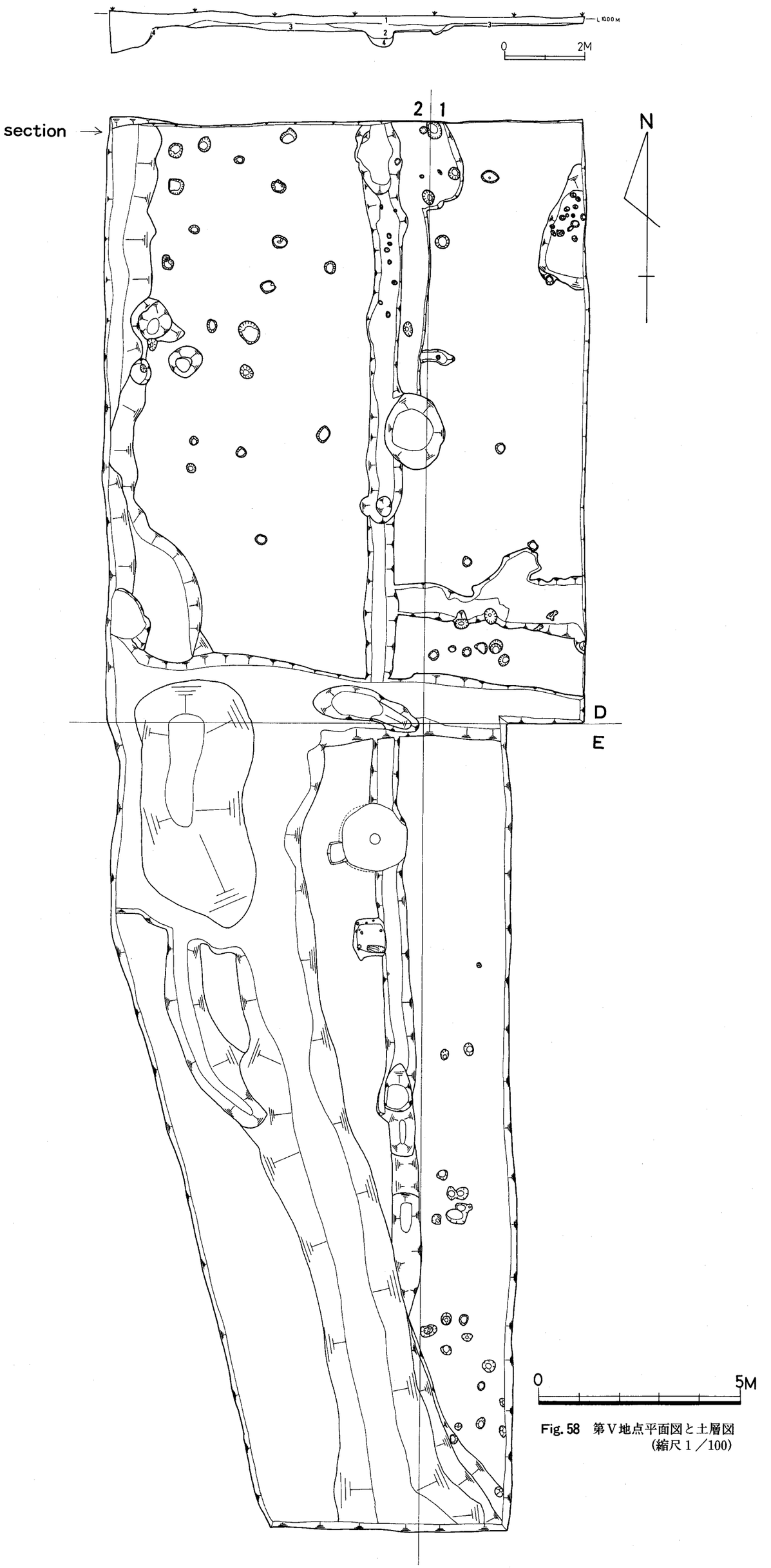


Fig. 58　第Ⅴ地点平面図と土層図
(縮尺 1／100)

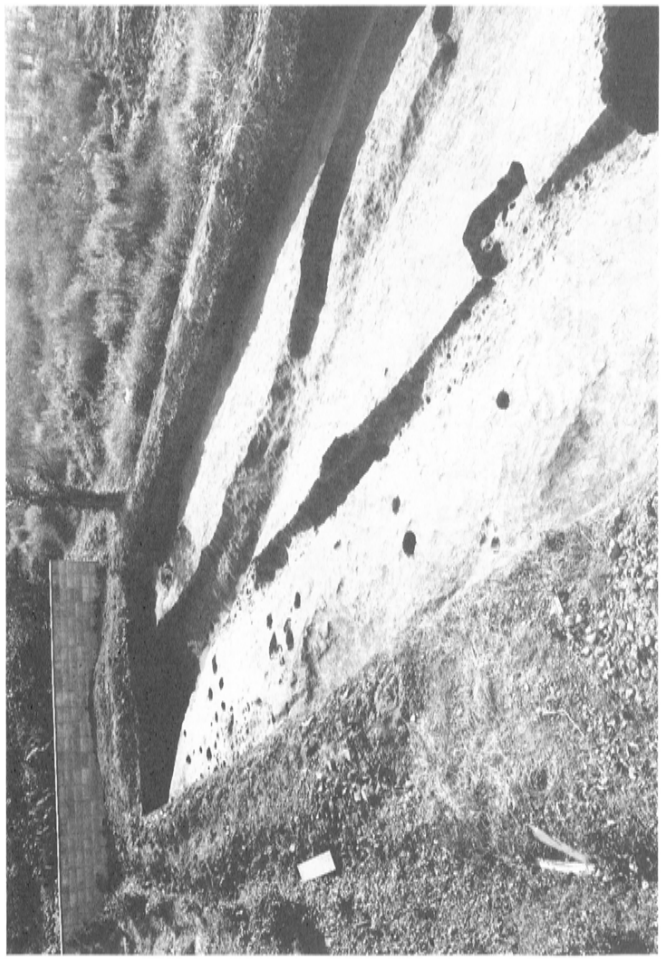


Fig. 59　第Ⅴ地点遠景

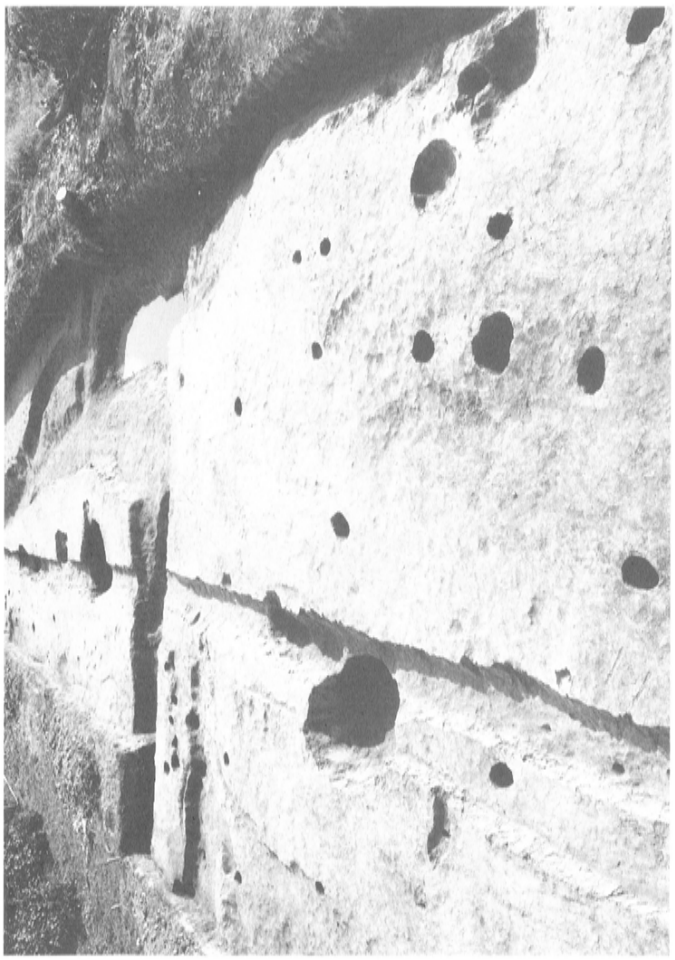


Fig. 60　第Ⅴ地点遠景

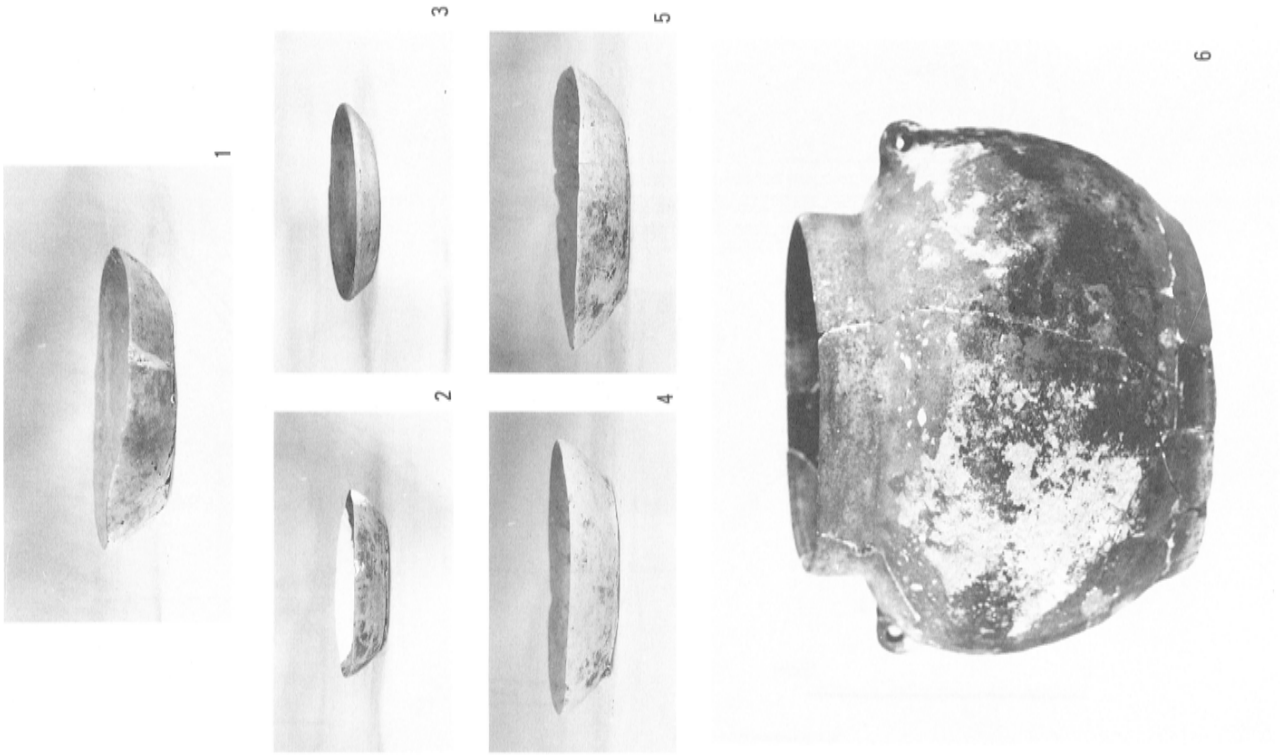


Fig. 62　第Ⅴ地点出土土器

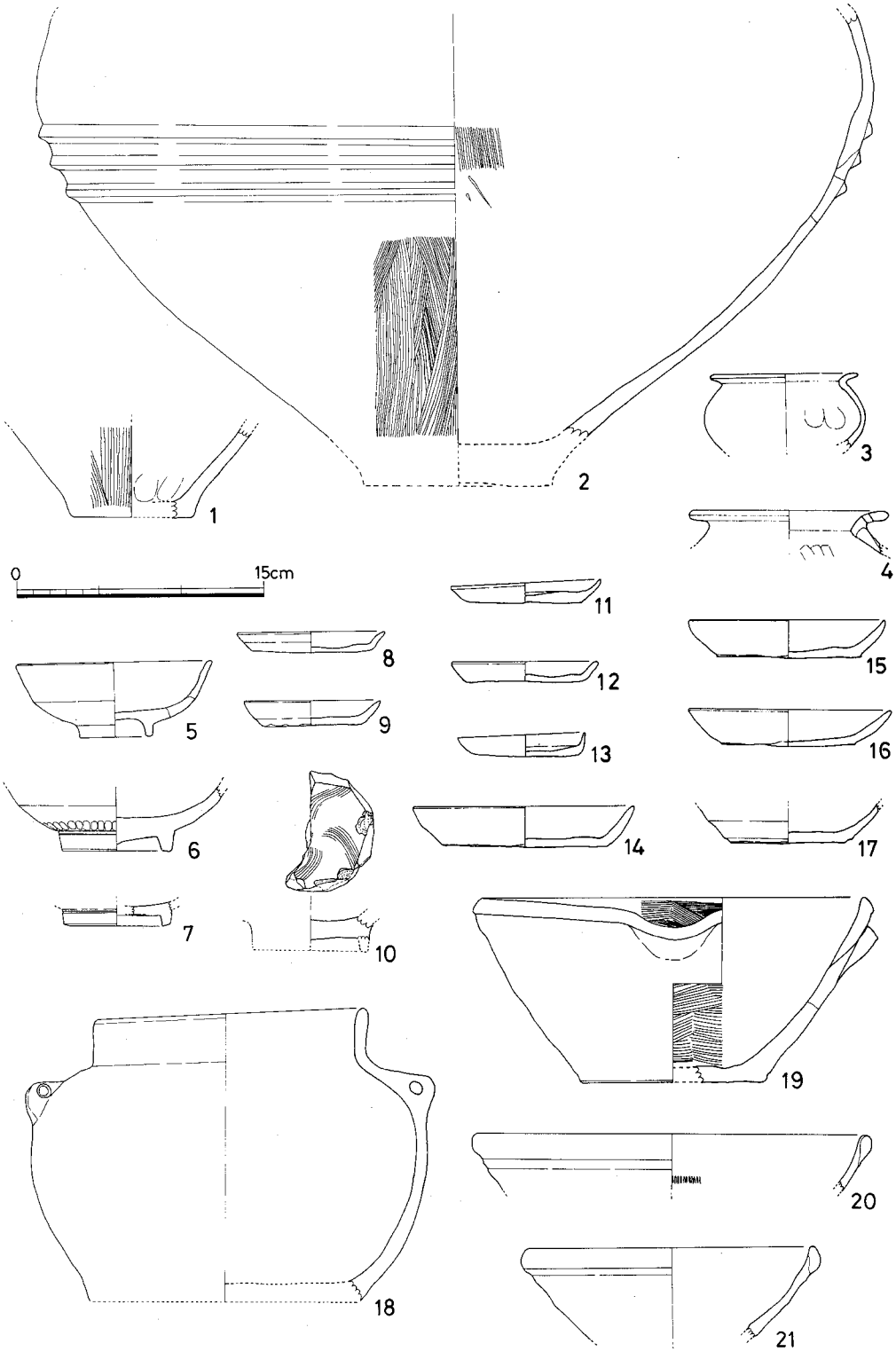


Fig. 61 第Ⅴ地点出土遺物実測図（縮尺１／４）

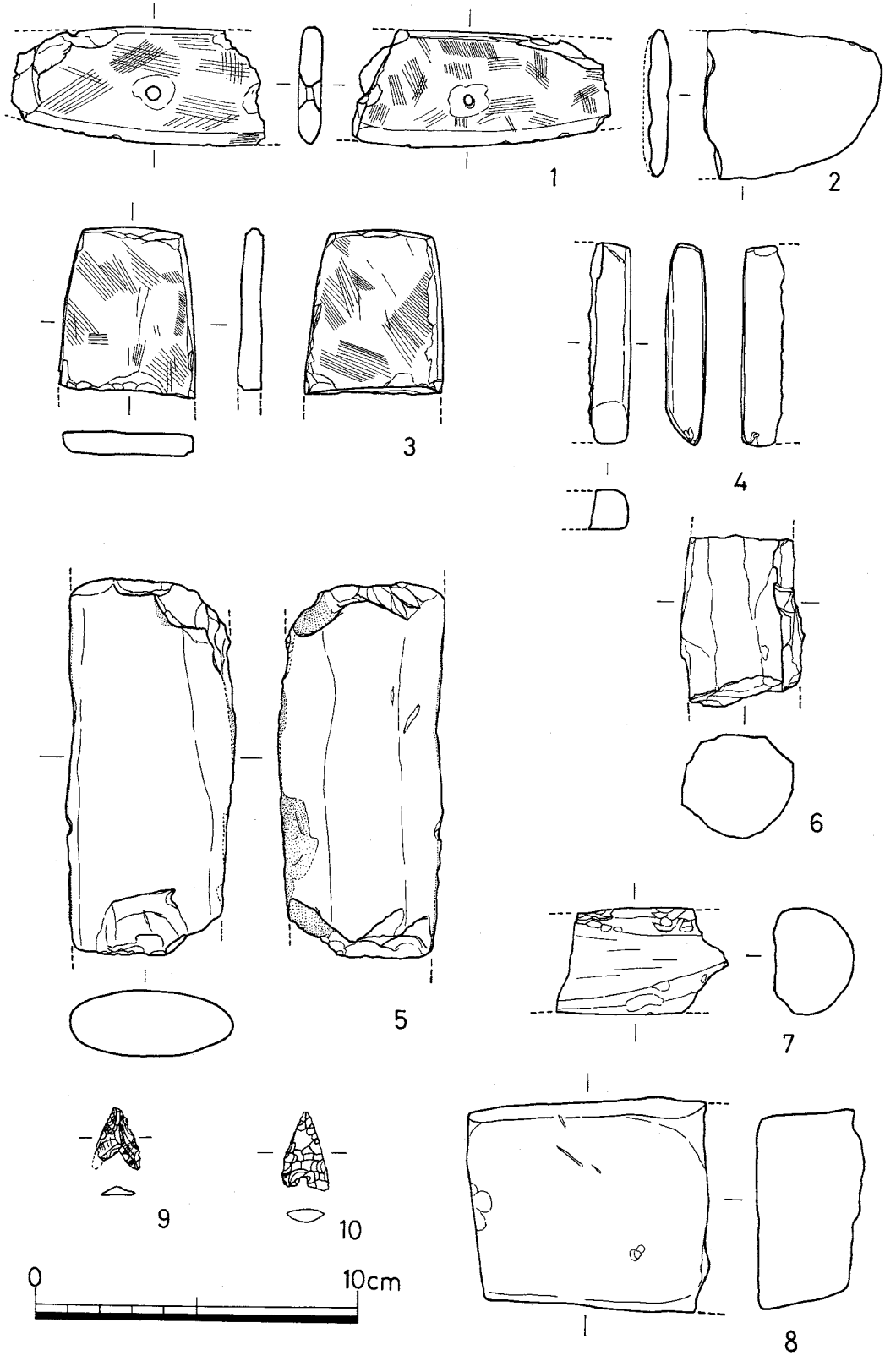


Fig. 63　出土石器実測図（縮尺１／２）

Tab. 6 第Ⅴ地点出土遺物観察表

Fig. 図面番号	出土地点	器種・品部	法量			形態の特徴
61・1	DE1・2層	甕底部	口径			平坦な底部よりゆるやかに立ち上る。
			器高			
			最大径			
61・2	DI・EI	壺胴部	口径			大きく張った胴部に断面三角形の突帯が3条巡る。
			器高			
			最大径			
61・3	DEトレンチ	壺底部大	口径	※9		小型の無頸壺「く」の字口縁 破片中に穿孔認められず。
			器高			
			最大径	※9.8		
61・4	DE2層	壺口縁部	口径	※11.5		小型の無頸壺 「く」の字口縁 穿孔は現存1個。
			器高			
			最大径			
61・5	DE2層	碗（磁器）	口径	※11.6		高台は直立している。
			器高	4.6		
			最大径			
61・6	DEトレンチ	碗（磁器）口縁部欠	口径	6.6		ぶ厚い底部に削り出しの高台がつく。
			器高			
			最大径			
61・7	DEトレンチ	碗（磁器）底部	口径	※6.5		削り出しの高台がつく。
			器高			
			最大径			
61・8	DEトレンチ	皿	口径	8.8		平坦な底部から短かく体部をひき出し、口縁部をそのままおさめる。
			器高	1.25		
			最大径			
61・9	EI中央溝	皿	口径	8.3		
			器高	1.5		
			最大径			
61・10	DEトレンチ	碗（磁器）底部	口径			厚い底部に削り出しの高台がつく。
			器高			
			最大径			
61・11	DE・EI中央溝	皿（土師質）	口径	9.1		厚く平坦な底部から短かく体部をつまみ出し口縁部を丸くおさめる。
			器高	1.2		
			最大径			
61・12	DE2層	皿（土師質）	口径	8.8		平坦な底部から体部を引き出し、口縁部をそのままおさめる。
			器高	1.2		
			最大径			
61・13	DI・EI中央溝	皿（土師質）	口径	7.7		平坦な底部から体部を引き出し、口縁部を直立させている。
			器高	1.3		
			最大径			
61・14	EI中央溝	坏	口径	13.4		平坦な底部から体部を引き出し、口縁部をそのままおさめる。
			器高	2.4		
			最大径			
61・15	EI中央溝	坏	口径	12		
			器高	2.2		
			最大径			
61・17	DEトレンチ	坏口縁部欠	口径			平坦な底部から体部を引き出す。
			器高			
			最大径			
61・18		双耳壺底部欠	口径	16.2		扁球状の胴に短い直立する口縁を有する。扁平な耳が1対付き、径8㎜の孔を穿っている。ひもずれしている。
			器高	17.9		
			最大径			
61・19	DEトレンチ	片口鉢（瓦器質）	口径	※23.1		口縁部の1ヵ所を押えて注ぎ口をつけている。
			器高	11.2		
			最大径			
61・20	DEI・II層	鉢口縁部	口径	※23		口縁部は折り返しの玉縁状を呈す。内面にわずかにスリ部分が認められる。
			器高			
			最大径			
61・21	DI・EI溝中央	鉢（磁器）口縁部	口径	17.4		玉縁状口縁
			器高			
			最大径			

（※は復元値、単位：cm）

手法の特徴	胎土・焼成	色　調	備　考	写真
外面縦の刷毛目　内面指圧	砂粒を含む　普通	灰褐色		
外面縦の刷毛目　内面縦の刷毛目	大粒の砂粒を大量に含む 良好	明灰白色	丹塗り	
口縁部横ナデのちヘラみがき　胴部外面横のヘラみがき	砂粒を少量含む　普通	外面 灰褐色 内面 黒色	丹彩の痕跡あり	
口縁部横ナデ　胴上部外面ヘラみがき	砂粒を含む　良好	赤褐色	丹塗り（？）	
見込内底は、輪状に無釉	精良・黄土色　良好	茶緑色	釉には貫乳をもつ	
高台脇は放射状に削り	精良　良好	灰青色	釉高台に流れる うすい釉がけ	
見込内底は、輪状に無釉	精良・灰白色　良好			
ロクロ成形　外面ヘラみがき後刷毛横ナデ　内面刷毛横ナデ	精良　良好	赤褐色		
底部糸切り	精良　良好	淡灰褐色		
見込内底の文様は六歯の櫛状工具で描く	精良　良好	灰白色	うすい釉がけ	
体部ナデ　底部ヘラ切り	精良　良好	明黄土色		
底部板目	精良　良好	淡赤褐色		
体部ナデ　底部は糸切りの後ヘラ調整	精良　良好	明褐色		
底部糸切り	精良　良好	淡灰褐色	底部に黒班あり	
	精良　良好	淡灰褐色		
底部糸切り	砂粒を少量含む　普通	灰褐色		
全面スス付着のため調整痕不明瞭　ロクロ成形で、ヘラ調整の後刷毛目調整と思われる	精良　良好・堅緻	黒褐色	内・外面煤付着	Fig.62-6
外面調整痕不明　内面横の刷毛目	長石粒を少量含む　もろい 良好	灰乳色	外面磨滅が著しい	
スリ部分は細かく溝も深い	精良　良好・堅緻	紫がかったこげ茶色	摺鉢として使用か？	
	精良・乳白色　良好	淡灰緑色	釉には貫乳をもつ	

Tab. 7 出土石器計測表 (単位：cm)

Fig. 図面番号	発掘区	層位	器種	色調	長	幅	厚	備考
63－1	G－1・E1	pit内	石包丁	暗茶灰色	7.7＋α	3.6	0.7	1/3程度欠損、両刃
63－2	不明		石包丁	明灰色	5.4＋α	4.6	0.6＋α	半欠
63－3	A－4	泥	扁平片刃石斧	明灰色	5.1＋α	4.1	0.7	
63－4	C－5	砂層	柱状片刃石斧	灰色	6.2	1.1＋α	1.2	
63－5	B－5	砂層	石斧or石鎌	明灰色	11.6＋α	5.1	2.0	
63－6	不明		石のみ未製品	黒青灰色	5.2＋α	3.5	3.2	
63－7	B－5	赤褐色土層	砥石	黒緑灰色	4.9＋α	3.3	2.4	
63－8	G－3	砂礫層	砥石	淡茶灰色	7.2＋α	6.3	3.3	
63－9	表採		石鏃	淡黒色	1.9	1.4＋α	0.2	片方の脚部欠損
631－10	表採		石鏃	暗灰色	2.5	1.9	0.3	

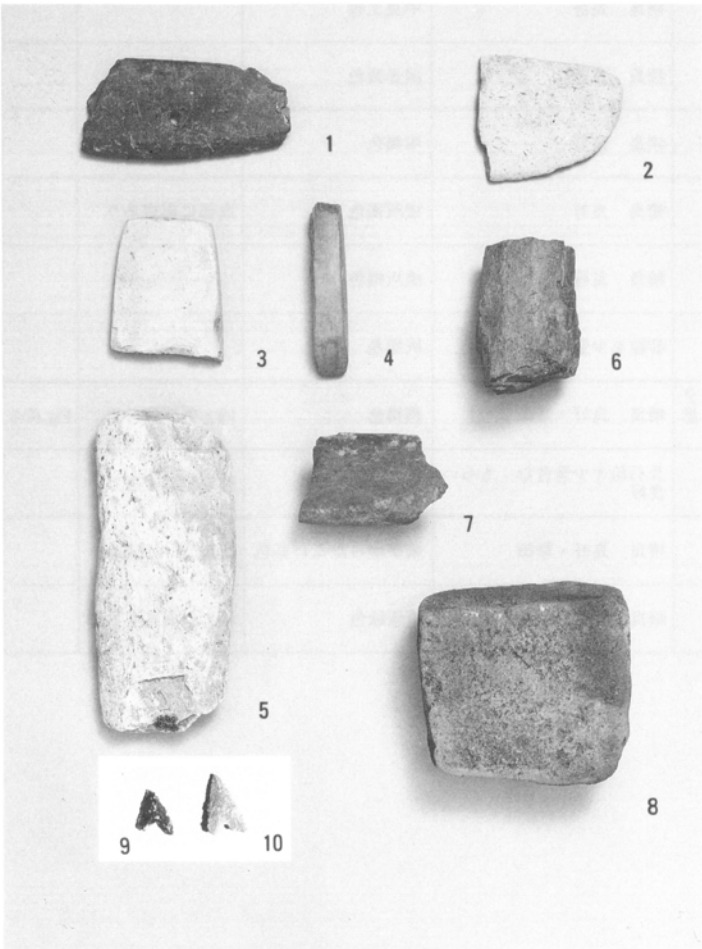


Fig. 64 出土石器

5．小　結

本遺跡の第一の成果は、弥生式土器を含まない縄文時代最終末期の夜臼式土器の単純な文化面の確認にある。第二地点の調査で板付II式土器を包含する文化層の下層に砂層を挟んで最下層に存在した文化面である。検出された井戸状遺構は、人間集団の定着性を示唆し、また竪杵は稲作によって収穫される籾の脱穀作業を想わせる。この発掘当時、夜臼式土器文化の確率した単純な文化層の存在の有無に関する論争が行なわれていたが、本遺跡の発掘成果で論争は終止符が打たれた事になる。

時は進み現在の北部九州考古学の夜臼式土器文化に関する議論は、稲作生産址の板付遺跡（福岡市)、菜畑遺跡（唐津)、雀居遺跡（福岡市）集落址の江辻遺跡（粕屋町）そして二重の環濠をもつ那珂遺跡（福岡市）墓址の新町遺跡（志摩町）など農耕文化社会を証明する充分な発掘成果が世に出されるにあたり、この土器文化を縄文時代にするか弥生時代にするかに掛っている。そして夜臼式土器を縄文時代最終末期に編年せず、弥生時代早期に位置ずける論も出されている。学史的に考えると縄文時代は縄文式土器が営なまれた時代であり、弥生時代は弥生式土器が営なまれた時代である。夜臼式土器の様式要素を概観するに、縄文式土器の要素から脱けきらない様式に他ならない。発見される遺構や遺物が弥生時代の文化様式を内包していたにしても、文化様式を加味して、縄文式土器の様式要素を有つ夜臼式土器を弥生式土器の範疇に加え、さらには弥生時代早期とする事に異を唱えるものである。農耕文化生成は人間集団がおかれる立地や気候等、複雑な条件を克服してなされたと考えられる。地域によって夜臼式土器を有つ集団が即ち、弥生時代の農耕文化を生成したとは考えられない。地域によっては採集経済文化を育くんでいる集団がある事に疑いを挟まないのである。夜臼式土器が、縄文式土器の範疇にあって、縄文時代文化を発展的に継承しながら、地域によって採集経済、地域によっては農耕経済を営んでいた。夜臼式土器を弥生式土器に組み入れる事は弥生時代即農耕文化という拙速な判断を呼び起し、地域の農耕文化生成研究に支障を来たす嫌いがある。土器型式（様式）は時代を区分する資料ではあっても多様な生活を総合的に含んだ文化概念まで拘束するものではないのである。

下記の写真は、会長松浦宥一郎を中央に載く写真である。厳しき中にも爽やかな涼風を呼ぶスナップである。皆さまのご健承をお祈りする次第である。

原遺跡第一次調査

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第492集

1996年3月31日

発　行　福岡市教育委員会
原・談儀遺跡調査会
福岡市中央区天神1丁目8－1

印　刷　株式会社 西　広
福岡市中央区天神2丁目8－34
住友生命福岡ビル